大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正十五年十月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

（第九輯第十號）

第九輯
第十號

日本建築協會
大正十五年十月一日

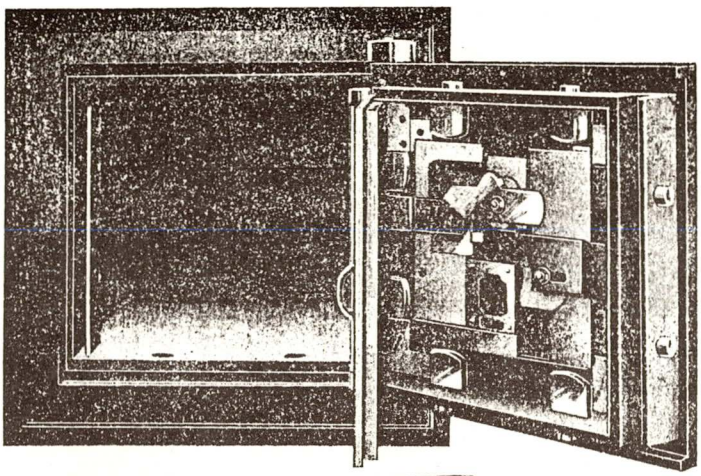
OTANI SAFE DOOR

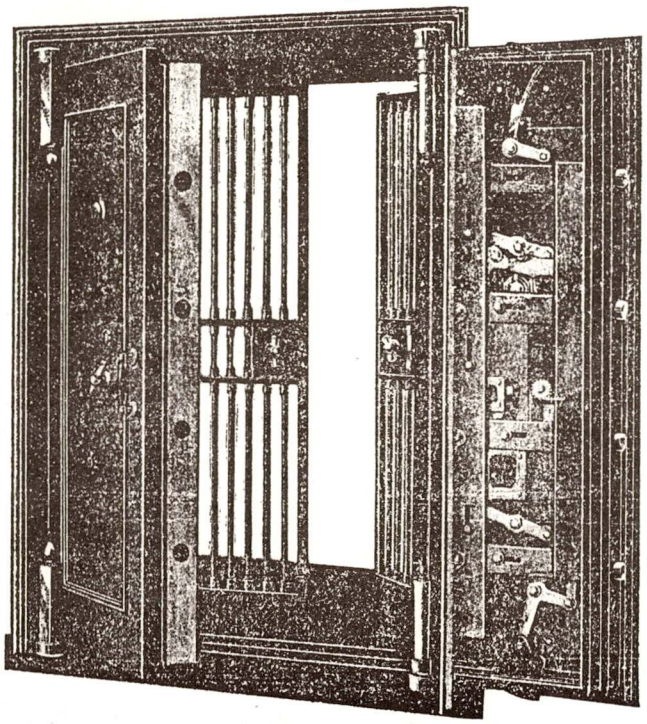
向上へ

躍進又躍進！

卓超セル大谷金庫ノ技術

需要製産ヲ超ヘ
純質名聲ヲ超ユ





御採用アランコトヲ

東京	京都	大阪	神戸
新富町	松原通	淀屋橋	楠町六

移轉廣告

新營業所

大阪市北區中之島二丁目江商ビルデイング四階

電話本局（長一八八一番　一八八三番　一八八二番

日米板硝子株式會社
同　大阪販賣店

（舊營業所　大阪市西區阿波堀通一丁目）

製品解說

製造方法　世界最新コールボーン式自働連續板狀伸延製造法ト稱シ幅六呎ノ板硝子ヲ長サ無限ニ連續製出ス

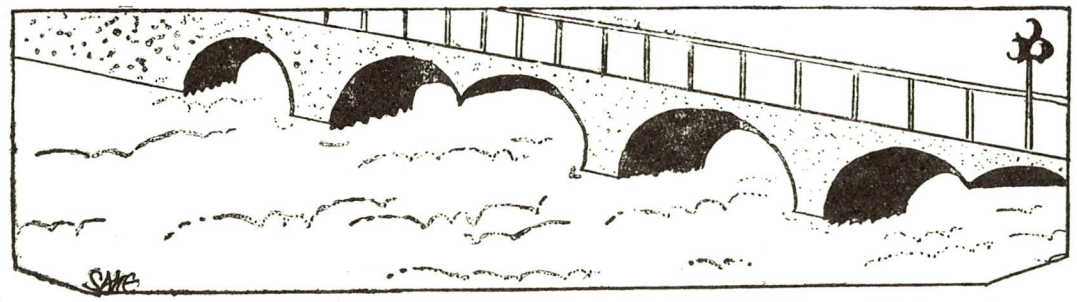
特徴　精密ナル機械ノ標準ト硬化作用ニヨリ板面ハ反リ歪ミ無ク厚サ整等ニシテ質强靱ナルヲ以テ破損ノ虞少シ

厚味　二十四オンス品　並板（十六オンス）ニ比シ二倍ノ破壞强度及耐久力ヲ有スルヲ以テ學校病院工場會堂ビルディング等ノ高級建築及シヨウウインドウ用トシテ最適品ナリ

三十四オンス品　汽車電車等ノ窓硝子トシテ實用セラル

加工品　摺　結霜　春霞

和洋建築窓、家具等ニ使用シテ頗ル優美ナリ



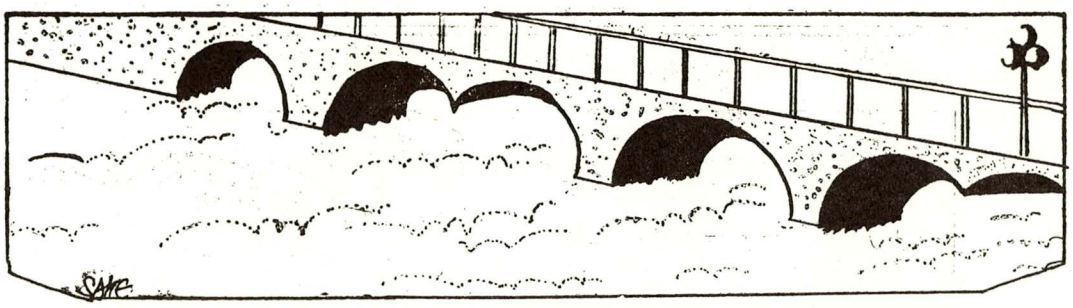
口繪と中挿み

■大阪電氣軌道株式會社
—大軌上本町停車場外觀
—同第一階よりプラットフォームを望む
—(同第三階)談話室の一部
—(同第三階)特別食堂の一部
—同上各階平面圖

◇◇◇

■世界の都市計畫(寫眞一—一二)
■地震の反復性と復興建築
■日本家屋と木材
■戰慄すべき都市防備の缺陷(附錄寫眞)

▼「建築と社會」表紙懸賞募集規定……(卷頭)
▼第三回美術展覽會出品募集規定……(卷頭)
●想像力の役割……(一)
●住居の三問題……廣田精一…(二)
●都市問題の一考察……楠原祖一郎…(五)
●人間の都市……藤田進一郎…(二〇)
◇◇◇
●五十年前の米國建築界(二)……葛野壯一郎…(二四)
●近世劇場構造(二)……池田谷久吉…(二八)
●建築物の彫刻……古塚正治…(三六)



九輯第拾號目次

●石造『九輪』の發見……生田比左夫…(三八)
●レーゲンスブルグ……高橋榮二…(四一)
●獨逸で感じた事ども……小川市太郎…(五三)
●惱める建築士へ……田中美一…(五七)

十人十色(一)
●江間式の名人波江悌夫氏……T・N生…(六〇)
女流と建築(A)
●素人の瞳に映じた建築……平田春江…(六六)

〔附錄〕航空機と都市の建築……片岡安

●大阪電氣軌道株式會社工事概要……(六五)
●俳壇 初秋・食進む……齋藤溪舟…(六七)
●俳話 俳諧寺一茶……溪舟…(六八)
▼日本建築協會々報……

新革之料材「壁」





専賣特許

アサダセメント、プラスター

特長
- ○施工迅速　○色澤高尚
- ○安全堅固　○工費低廉
- ○耐濕耐火　○防錆防腐

御試用乞

専賣特許

アサダ・白色ポートランド・セメント

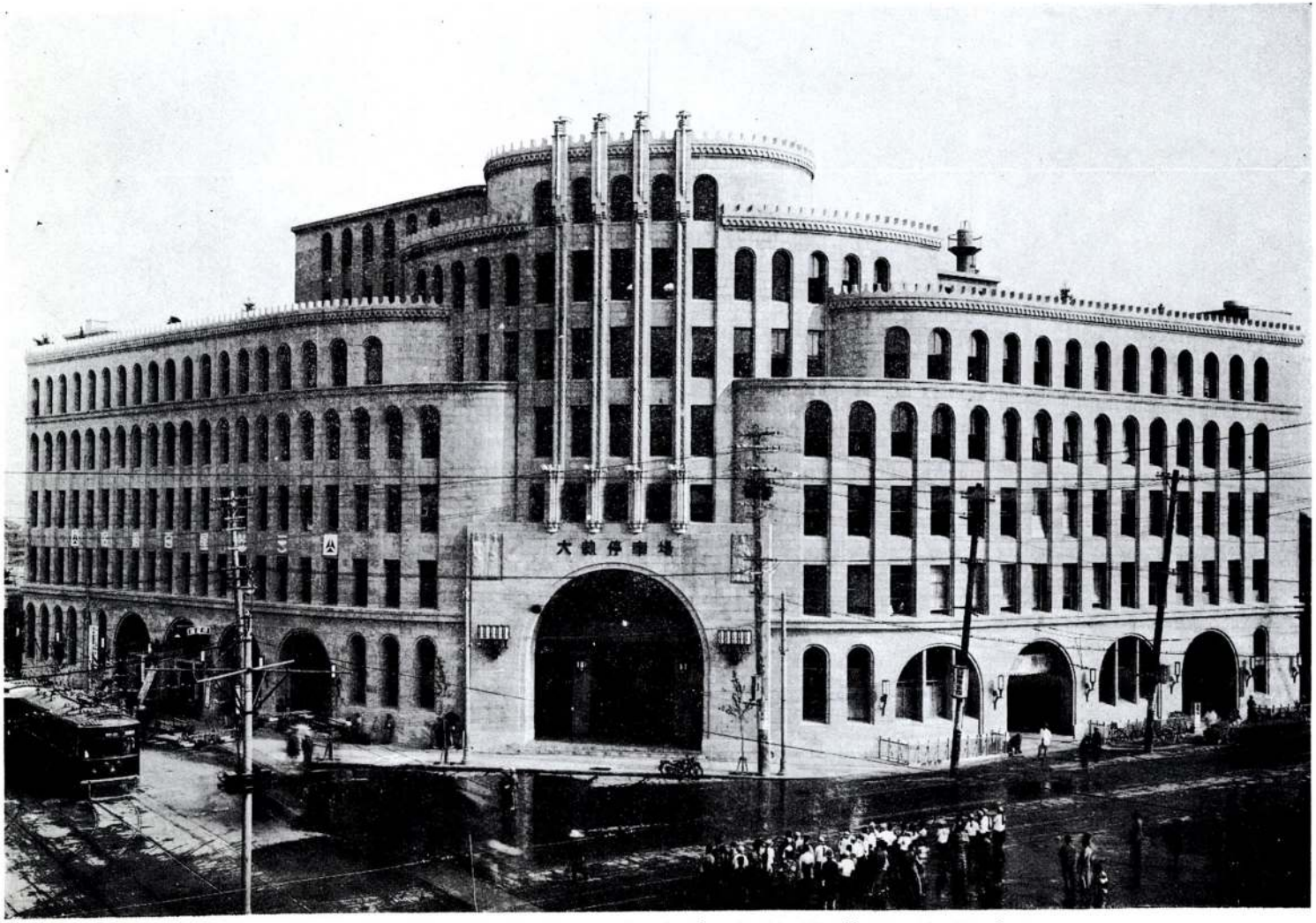
特長
- ○高尚ナル純白色
- ○強力甚大、膨脹龜裂ノ虞ナシ
- ○緩結性ニシテ使用容易
- ○凡テノ性狀普通「セメント」同等以上

兵庫縣飾磨港

飾磨化學工業株式會社

東京販賣所　東京市日本橋區本町三丁目山口ビルヂング五階　建興社

電話飾磨（二）〇一六番
電話大手（自九七五七番至五七九番）



大阪電氣軌道株式會社上本町本館（停留場）

——（大阪市東區上本町六丁目）——



大阪電氣軌道株式會社上本町本館

――第一階「待合」より「プラットフォーム」を望む――

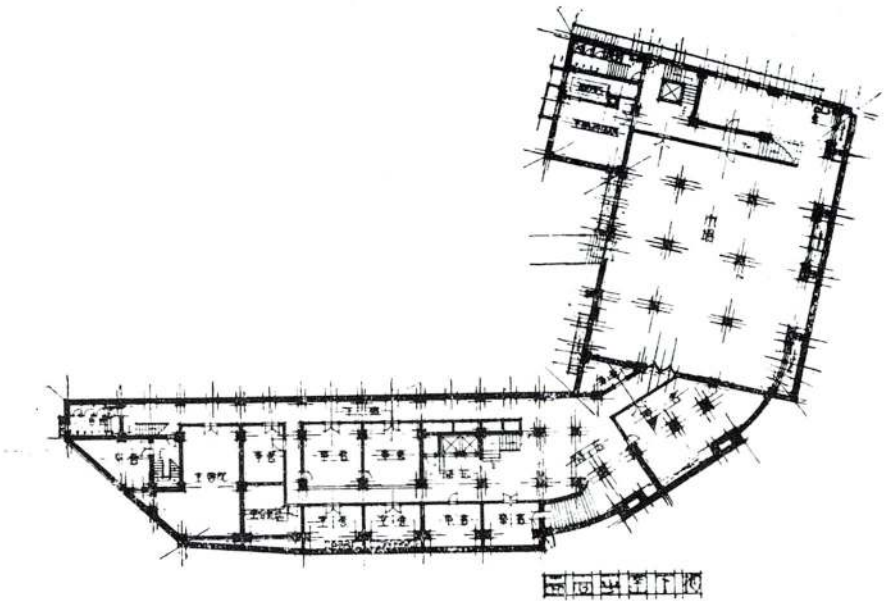


大阪電氣軌道株式會社上本町本館
——「談話室」の一部——



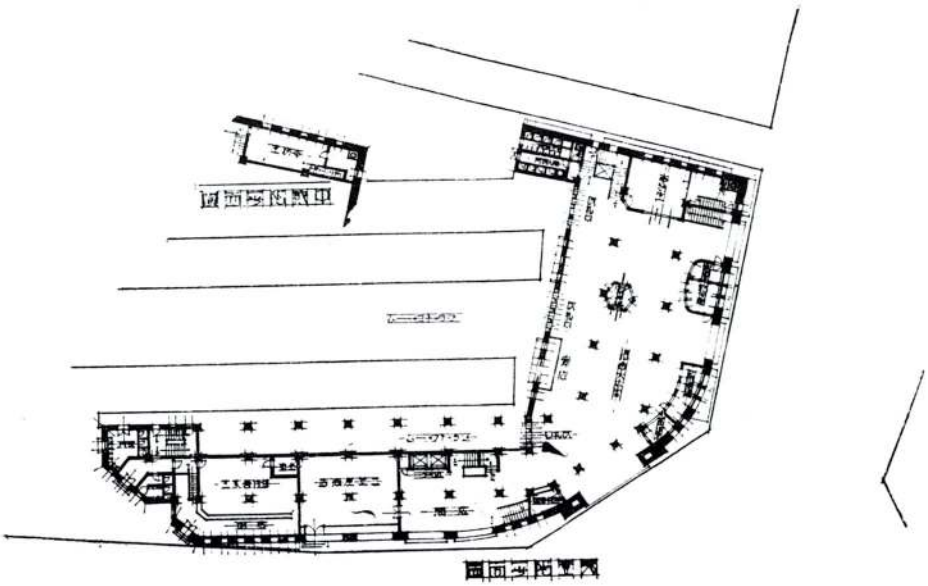
大阪電氣軌道株式會社上本町本館

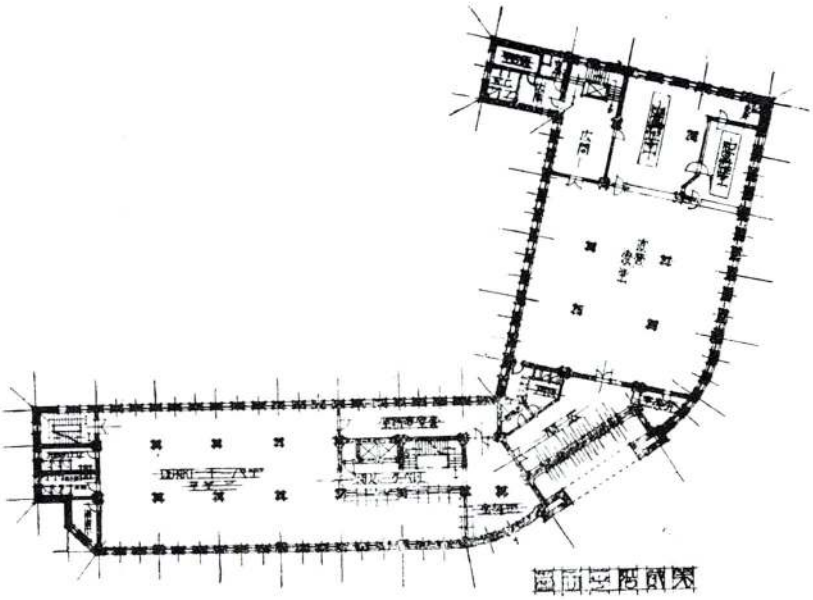
——「特別食堂」——



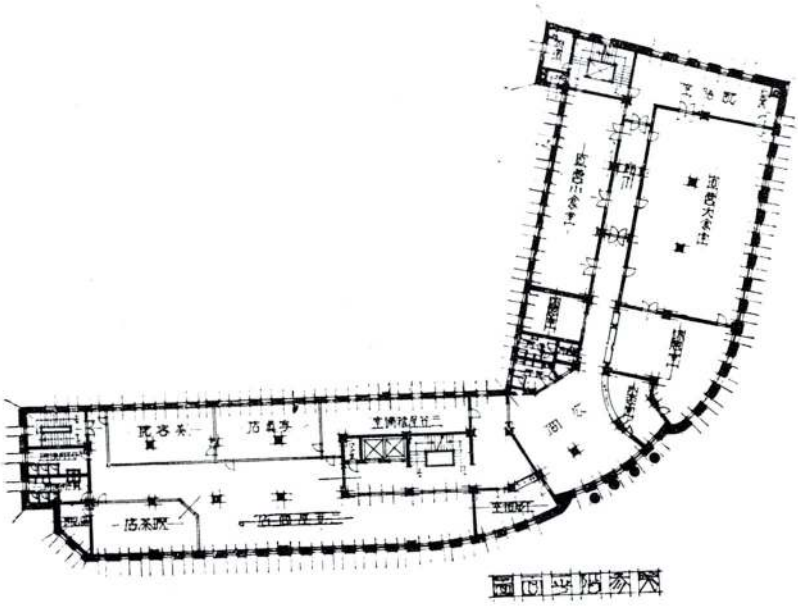
大阪電氣軌道株式會社上本町本館（停留場）平面圖

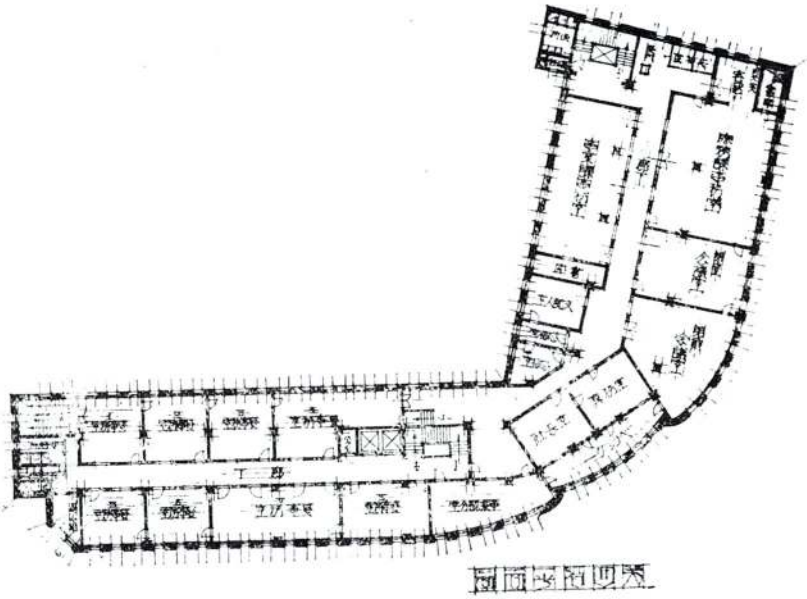
（一　の　そ）



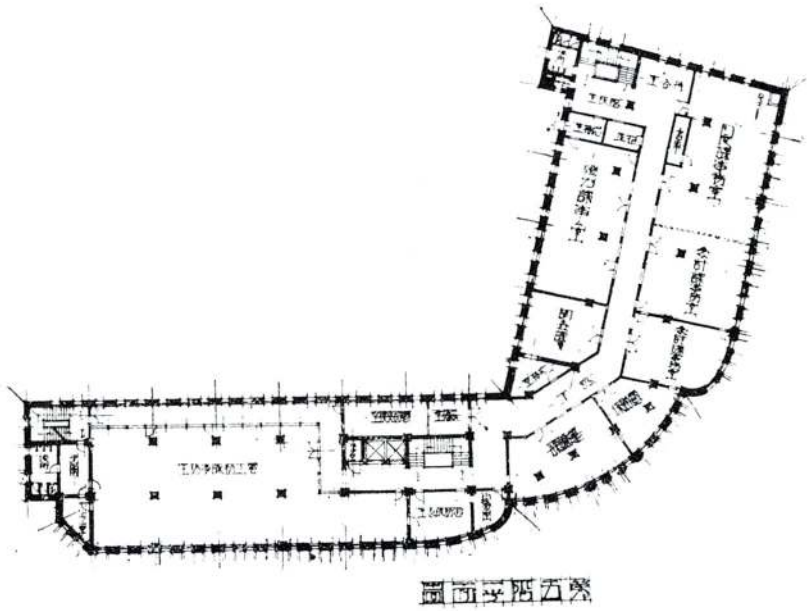


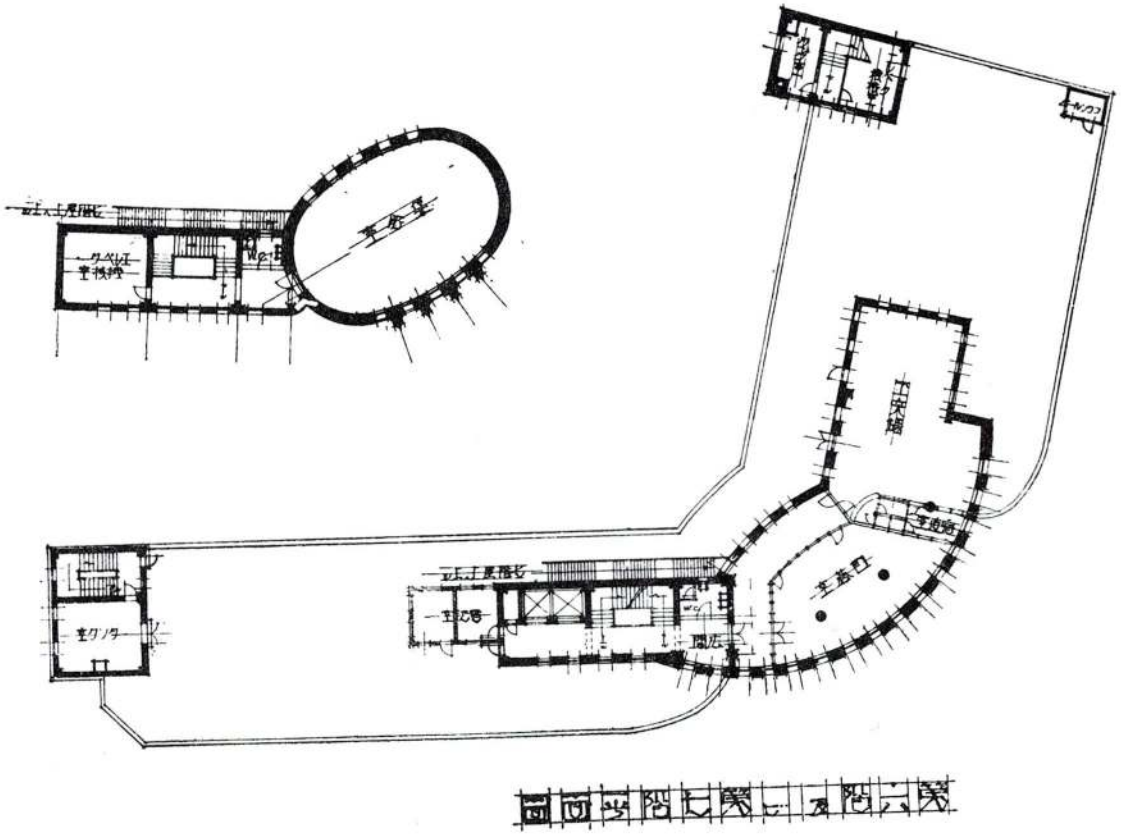
（二　の　そ）





（三　の　そ）





第六階及第七階平面圖

（四のそ）　第六階及第七階

『建築と社會』表紙懸賞募集

一、題　號　建築と社會第拾輯第壹號（日本建築協會大正十六年一月一日と適當に配列すること）。

一、寸　法　四六版（竪二五〇、横一九〇）

二、色　面　（紙色の外）

三、圖　意　原圖紙を用ひ現寸とす。隨意なるも本誌の特質を表現するに足るもの。

四、賞　金　一等一人金百圓。二等一人金五拾圓。三等一人金貳拾圓

五、期　日　本年十一月十日締切。但郵送のものは當日の消印あるものに限り審査開始迄受附く。

六、版權　當選せる圖案の版權は當協會の所有とす。

七、審査　當協會の理事會が依囑せる特別審査委員の合議に依り當選を決定す。

八、符合　圖面には適當の符合を附し別に符合。住所。氏名。を記入せる半紙四ツ切りのものを封書にて差出すこと。

九、發表　建築と社會第九輯第十二號誌上にて發表。

十、圖案　應募したる圖案は返却せず。

日本建築協會

第三回美術展覽會出品募集

會期　自大正十二年十月三十一日
　　至同　十一月十五日

會場　天王寺公園内勸業館

部類
第一部　日本畫
第二部　西洋畫
第三部　彫塑
第四部　建築
第五部　美術工藝

出品搬入　廣ク一般ヨリ募集ス
出品目錄ヲ添ヘ十月廿一、二、三ノ三日間午前九時ヨリ午後四時迄ニ會場内受付（搬入セラルベシ出品目錄ハ本會所定ノ用紙ヲ用ヒラレタシ）

審査委員

第一部
庭山耕園氏　山口草平氏　矢野橋村氏
深田直城氏　北野恒富氏　水田竹圃氏
菅　栖彦氏

第二部
齋藤與里氏　小出楢重氏　赤松麟作氏
宇和川通喩氏　安藤靜也氏　松田　儉氏
足立源一郎氏　鍋井克之氏　國枝金三氏
中村義雄氏　榊原一廣氏

第三部
田中圭水氏　黒岩淡哉氏
第四部
宗兵藏氏　日高胖氏　長谷部鋭吉氏
安井武雄氏　本野精吾氏　古宇田實氏

第五部
金屬工藝　飯田勝美氏　大國壽郎氏
漆器　川合漆仙氏　安原祥窓氏　島野三秋氏
迎田秋悦氏
陶器　吉向十三軒氏　藪　明山氏　伊東陶山氏
河村蜻山氏
指物　芦田眞七氏　久須來郎氏
籃竹器　木下翠香氏　山本竹龍齋氏
織物　龍村平藏氏
刀劍　月山貞勝氏
彫刻工藝　利山藻晃氏　伊藤鐵石氏
圖案　土山隆克氏　松村景春氏　村雲種夫氏
大野忠二氏　佐川愼太郎氏

優秀ナル作品ニ對シ大阪市美術協會賞又ハ寄託賞ヲ交付スルコトアルベシ

注意事項

◇同一人ノ出品ハ各部二點以内トシ一人ノ占メ得ベキ壁面ハ四間迄トス　但シ第五部ノ出品ニ限リ三點以内トス
出品ニハ適當ナル裝飾ヲナスコトヲ要ス
◇解說ヲ要スルモノハ之ヲ添付セラルベシ
◇無鑑査規定以外ノ出品ハ總テ鑑査ノ上之ヲ陳列ス
◇出品物ハ總テ一個毎ニ必ズ命題、氏名、形式（六曲一双、二曲半双、三幅對、花瓶一對等ノ類）ヲ明記セル紙片ヲ貼付シ尚別ニ左右二、三等ノ順序ヲ明記セル紙片ヲ貼付セラルベシ
◇既ニ公ニ陳列シタルコトアルモノハ出品スルコトヲ得ズ
◇出品物ノ運搬費用ハ往復共出品者ノ自辨トス
◇本會ノ定メタル陳列ニ對シ出品人ハ異議ヲ申出ルコトヲ得ズ
◇本會ハ陳列品ヲ撮影刊行スルコトアルベシ
◇陳列作品ハ閉會後ニアラザレバ搬出スルコトヲ得ズ
◇出品物ハ總テ本會ノ通知ニ依ル指定期間内ニ搬出セラルベシ
◇出品物ハ充分ナル注意ヲ以テ鄭重ニ保管ヲ爲スト雖モ不慮ノ損害ニ對シテハ本會其責ニ任ゼズ
◇陳列作品ノ賣約ハ無手數料ニテ本會之ヲ取扱フ

尙詳細ハ事務所ニ照會セラレタシ

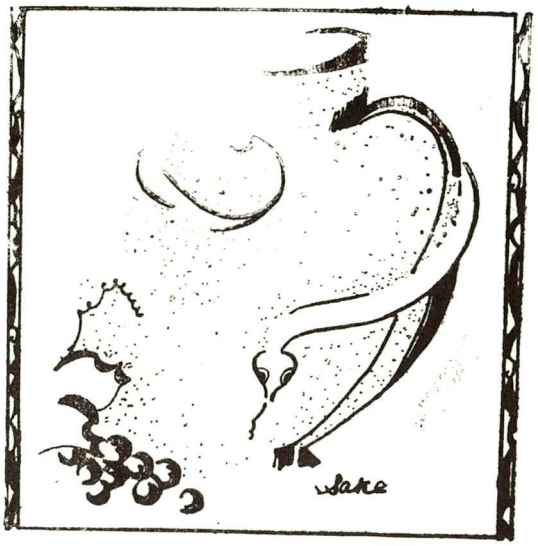
大阪市美術協會



想像力の役割

『藝術と科學とを對立させるのは、間違ひであると同時に正しいことである。藝術の領域と科學の領域とは全く異つたものであるといふ意味に於ては、それは正しくあります。藝術は内生觀念を用ゐるものであり、科學は外生觀念を用ゐるものであります。けれども、學者の知的勞作と藝術家のそれとはあまり異つたものではありません。吾々は、疑ひもなく逆語の形式に於てゞすが、藝術は内生觀念の科學であり、科學は外生觀念の藝術であると云ふことができるのであります。一般に、想像力は科學に何等の役割をも演じて居らぬと考へられてゐます。或る青年に向つて、君は想像力が多過ぎるから科學者にはなれないなどと云ふ人があります。これは、寧ろ想像力が足りないから科學者にはなれないと云ふ方が正しいでありませう。何故かならば、想像力は科學に於て重要な役割を演じてゐるからです。若し學者の想像力と詩人の想像力とを比較しようと思ふならば、古代の宇宙論と現在の宇宙論とを比較せられんことを望みます。古代の宇宙論、支那、印度、ユデア、エジプト、ギリシア等の詩人の作品は、科學的天文學とくらべると、他愛のない子供だましに過ぎません。

（ピエール・デルベ氏『科學と實在』：郊邨）



住居の三問題

廣田精一

私は素人であるから、專門家の間に伍して彼是言ふことは差控へるべきであるけれども、住宅を用ひて居る方の側として遠慮なく何か話をしろと云ふことであれば、それは多少の考もある。併し私共の言はんと欲する所は既に專門家の方でもお氣づきになつて、一二ケ月前の東京の時事新報等にも其の邊の意見が現はれて居つたやうであるし、今更私が特に述べる程の必要もないかと思ふのであるが、何か話をしろと云ふ御註文であるから、簡單に述べることにする。

寒國に於ける住宅問題

此の問題は私としては國家的の非常に重要な問題であると考へて居る、即ち目下人口問題がやかましく論議され、日本の國を去つて、ブラジルまでも出掛けて行かうと云ふ人達もある場合、北海道や樺太には今猶ほ多數の人を收容し得る空地が到る處にある、數日前私は或西洋人と一緒にケーブルで摩耶山に登り、あの山の巓から神戸の市街を瞰下ろして、日本は人口が多く、斯んなに家が建てこんで、もう殆ど住む所がないと云ふやうな狀態である、と言つた所が、其の西洋人はそれを言下に打消して、僕は一月前に北海道から歸つて來たのであるが、北海道の汽車に乘つて居ると、幾ステーション行つても、一軒も家が無いやうな所がある、日本人は何故あんなに彼處を空けて置くのか——斯う言はれたので、私は一言も無く息詰つてしまつた、そこで直ぐ考へるのであるが何故北海道に人が行かないのであるか——それは其の西洋人も言つて居た、所々に人の住んで居たらしい家も見たが、それが皆空家になつて居る——即ち勇敢なる移住者は行詰つ

て内地を離れて、新天地をめつけやうと思ふて、曾ては出掛けて行つたのに相違ない、所が住宅が悪い爲に、死に絕えたか、或は病氣になつて内地に歸つて來たかで、それ等の空家が所々に見受けられたものと思はれる、從て此の住宅問題を解決すれば、それが即ち人口問題を解決する鍵になる譯である、此の意味に於て建築家諸君が今後是等寒國に於ける住宅建築の研究に就て大に重きを置かるゝことを希望する。

又現在都市として多くの人が住んで居る石川縣の金澤市であるとか、或は新潟市、秋田市と云ふやうな所では、肺病患者が多く、其の爲に非常に悲慘な狀況を呈して居る家庭も隨分あるやうであるが、是等も住宅の改良に依て容易に避け得られるものでないかと思ふ、即ち是等の雪國に於て家屋の採光が十分でなく、又暖房の裝置が不完全であると云ふ、此の二つの缺陷から、肺病患者が非常に多いと云ふことになるのであらう、已に朝鮮に於て『オンドロ』が發達し、南滿洲に於て露西亞人が遺した『ペチカ』がある以上、石川縣、新潟縣等に於ても、少くとも是等の應用を建築家が率先して進めらるべきではないかと考へる、露西亞人が造つて居る丸太小屋とでも云ふか、あの『ログ、ハウス』のやうに、壁が分厚な、即ち五寸もあるやうな羽目で出來て居るものと、高々一分しかないやうな板割の羽目とは、寒氣を凌ぐ上に於て非常な差があらうと思ふ。

此の夏私は金澤、新潟、秋田等を旅行した、是等の都市に於て所謂文化生活の樣式を取入れ所々に新しい鐵筋建築が見えるのは一寸頼もしく思つたが、其の中に入りて、直ぐ裏切られた、それは何であるかと云ふと、先づ其の窓が歐羅巴の寒國で見るやうな二重窓でなく、普通の一枚硝子で出來て居ると云ふことである、是では寒風は遠慮なく吹込むし、又一枚の硝子では十分寒氣に堪へられぬだらうと思ふ、何故建築家とも云はれる人は、二重硝子制度を採り、又硝子窓の建付に青羅紗を張るだけの用意をしないのか、札幌の第一等の旅館山形屋でも、暖國の建築其の儘の障子や襖を使つて居るのと同じやうに、新潟、秋田等の新建築に單一硝子戸を用ひられて居ることは、如何にも殘念に思はれた。

私は切に望む、大學又は專門學校等で寒國建築講座と云ふものを設けられ、特に北海道の建築に付て研究をして貰ひたい、完全な住宅さへ出來れば、スキーやスケートの出來る北海道の生活は決して不愉快なものではない、現に私は北緯五十二度半の伯林に居つた時、スケートが面白いので、冬の期間の盡きるのを歎いたことがある位である、從つて日本の人口問題も是が研究に依て比較的容易に又速に解決されることであらうと思ふ。

暖國に於ける住宅問題

從來の日本住宅が暖國建築から發生して居るが故に、寒國に不適當な如く、近頃建てられる西洋擬ひの所謂文化住宅と稱するものは大體北歐諸國の建築を眞似て居るが爲に、暖國にはふさはしくないやうである、關西で御影、芦屋、關東で大磯邊の住宅を車窓から見ても、夏などは暑さに堪へ兼ねて折角綺麗な意匠を凝した建物に汚い葦簀を掛けて居る家を多く見受ける、內田信也氏の須磨の宅には、見苦しい此の葦簀を避けて美しい縱縞の布の日除を六尺餘り張り出して居られ

るが、是は確に葦簾よりは餘程體裁も可しい、從て今後の文化住宅は東南西の三方面には必ず日除を設けるべきであると思ふが、日除は布である故に、年々取替の手數が要る、そこで寧ろ設計の當初より從來の日本建築に見るやうな椽側、即ち西洋の『ヴエランダ』を設けることが必要であらうと思ふ。亞米利加でも華盛頓以南の暖い地方では皆此の『ヴエランダ』を設けて、それが日除の働きをして居るやうである、此の肝腎な設備を日本の暖國建築に忘れて居るのは、非常に遺憾に思ふ。

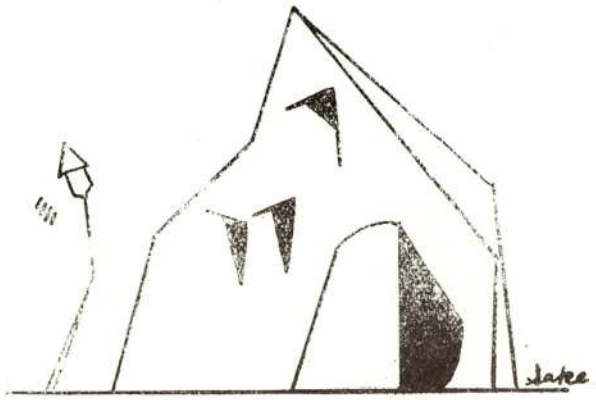
理化學の應用

之を要するに、建築は固より體裁ばかりでなく、住み好いことが第一の主眼であるから、裝飾的意匠のみならず、種々の理化學的研究も併せ進められべきが當然である、已に暖房通風、衞生光學などの學問が建築學の中に含まれて、十分理化の必要は認められて居る、然るに實際の建築に當ては案外理化の方は忘れられて、兎角意匠の方にばかり氣を奪はれる傾きがあるのは遺憾に思ふ、然るに今春渡邊節先生の御監督の下に出來上つた御影の市川誠次郎氏のお住居を拜見した所湯殿に湯氣が一ぱいになつて鬱陶しいのは困ると云ふので、湯殿の中に特に英吉利から取寄せられた一種の暖房裝置がしてあつて、天井は空氣抜などはなく、密閉されてあつた、是は極めて適切な處置である、無論湯氣の籠るのは、外氣の冷たい爲であつて、之を防ぐには、外氣の入らぬ工風をせねばならぬ、所が從來の湯殿と云へば、必ず天井に空氣抜を造つて、能々冷たい外氣が湯殿の中に下りて來るやうに裝置してある、即ち其處から湯氣が脫けると思ふと間違ひであつて、却てそれが爲に湯氣が殖ねるのである、斯う云ふ簡單な理學の初歩すら分らずに造られたのが從來の日本の建築であつた而も現在の理學を修めた建築家が相變らず從來の通りにやつて居られるのは洵に心得ぬことだと思ふ。西洋式の『バスルーム』に行つて、天井に孔の穿いて居る所は一つも無い、渡邊氏が大英斷を以て天井を塞ぎ、且暖房まで置かれたのは敬服に値ひする、斯うした理化學の應用方面も建築學者として輕視せらるゝことがなければ幸である。

地震の反復性と復興建築

地震は必ず同一周期に繰返すものであるから彼の大正十二年の大地震を濟んだからとて決して安心は出來ない、何れ又從來の歷史が示してゐるやうに或る時期には地震が襲來する覺悟でなければならぬ、此地震と最も密接な關係のあるものは家屋即ち建築であるが最近では皆殆ど西洋の模倣ばかりして高い建築物所謂摩天樓が續出して來たが之れなどは大いに考へなければならぬと思ふ今度の震災では比較的鐵筋建築物が丈夫であつたので今では一にも鐵筋二にも鐵筋となつてゐるやうだが同じ鐵筋でも設計や工事の如何によつては案外脆弱なものもあるから只机上の設計で鐵筋が一番よいなどと考へるのは不可である木造建築が都市の建築物として不適當であるとゝふのは大なる間違ひである今度の震災で芝の增上寺や淺草の觀音堂などがビクともしなかつたのに徒しても明かであるから我國としては何か其處に獨創的の建築物を編み出す必要があらう唯木造建築物の缺點は火災に對する點であるが今日では既に志賀博士の耐火用不燃性木材であるとか種々なものが發明されてゐるから技術家達が此の點を考慮して設計すれば火災に對する危懼は全く除かれる譯である從來軍艦は以前から火災を恐れて家材道具は總て鐵材を使用してゐたのであるが今日では殆ど不燃性木材を使用してゐる狀態である、之等の點を考ふると實に思ひ半に過ぎるものがある。

（末廣工學博士談）



都市問題の一考察(一)

震災後の都市計畫思想の變遷と都市人口集中の學說(序論)

楠原祖一郎

一序論

我國の都市運動(都市改良運動 Town Reformational movement)の黎明時代は、大正六年にその端を發し、大正八年の市區改正設計に依準して東西二都市の都市改良が發表されたる前後を以て該時代と見得るのであるが、當時の都市改良運動は、行詰れる都市の形態を如何にして切開くかの上部的表面的の形態改善の意味に留まり、都市經濟政策を中心とする根幹的のそれではなかつたのである。かくて都市改善的施設の微温的行動は必然的に都市の内部的頽廢を却へつて曝露せしめ、黎明期思索の所産たる該運動は、高速交通機關の擡頭と共に漸次綜合的都市改良を意味する所謂我國初期の都市計畫的思索に進化した。

併し乍らその計畫の如きも徒らに我國諸都市の歷史的特質 Historical characterを無視し、歐米先進諸國の遺鉢を享けて滿足するの狀態に留まり、都市生活の創造的完成に意圖とを用ひざる嫌ひがあつた。

而して一九二三年(大正十二年)九月關東大震災の突發するあり、この事變によつて我國諸都市の都市計畫的考慮を根定より改訂の必要に至らしめ、本邦都市改造運動に、一のエポック、メーキングを劃するに至らしめた事は何人の記憶にも新たなる所である。この結果として私が後に詳論せんとする

所の如く、都市計畫的施設に對して震災以前の都市計畫とそれ以後の該施設との二に分つて論ずるの餘儀なきに至らしめたのは蓋し當然の歸結であつて、かくの如きエポック、メーキングに直面せるものにありては、又その前後の二期に分ちて論ずるの必要なるは言を容れざる所である。

さて私は本稿に於て試みむとする論策の概要に就て一言を費したいと思ふ。素より本稿は都市問題の一面的考察であつて、主として非常時の突發を豫期せる都市政策を理論的に考究せんとするにあるのである。その論述せんとする範圍は、先づ都市計畫思想の學的討究を試ろみ、就中人口都市集中の學說を最も歸密に考察してその本質を明かにせん事に努め、後各特殊問題に及び、道路、住宅、公園の各部を論じたる後震災後の一般的都市政策を檢討し以て本稿を結ばむとするのであるが、その所說の如き視る人によつては或る過去の問題の如く見ゆるも、私は決して然かく考ふるものではない。かくの如き問題は將來に殘されたる問題にして決して論稿そのものゝ新舊を問ふべきではない、然かもかの大自然の敎訓は冷却して常人の顧みざる所となり、都市の人格的頽廢は今やその地を拂はむとするの時、敢へてこの一稿を世に送くり、自己の所信を江湖の諸賢に陳述せんとするものである。

A　震災前の都市計畫と震災後の都市計畫

都市計畫とは關一博士の言葉に從へば『住心地よき都市を造り出す』にある計畫を云ふのであつて日本では從來是の計畫を市區改正設計と稱へて居たのである。所が市區改正設計では意義は極めて狹いものであるから、更らに社會政策的意義を加味せる所の都市計畫 Municipal planning, 又はCity planning と云ふ名稱を以て稱ぶ事になつたが、此の名稱は主として英米流の意義を含むで居るのである。

今都市計畫なる意義を說明するのも、迂愚な次第であるが併し事の序でに大體述べて見たいと思ふ。元來此の事業の最も早く發達したのは英國であつて、就中英國でもグラズゴーバーミンガム、ロンドン、リバプール等は最先に此の事業に着手したのである、然し乍ら元來英國は十八世紀のころからアダム・スミスの有名なる Laissez faire（自由放任主義とも譯し得る）の思想が發達して居る國であるから、都市の改良事業に當つても、妄りに政府即ち國家が個人の立場を侵害（壓迫）するが如き事業は、國民の間には嬉ばれなかつたのである。その點からして後代獨逸の都市が採用した樣な、科學的計畫に基づく保護干涉的都市改良政策は同國民の間に發達しなかつたのは、固よりその自然の數と云はねばならない。故に英國の都市計畫は、大低個人の意志を尊重して、その市の市長が事業執行の主體となつてゐる、獨逸の如く國家がその主體とはなつてゐないのである。米國はその關係を見ると稍々獨逸の政策に近い樣であるが、是れとて多くは私的事業 Private Ownership を買收しその事業を公共的經營團體 Public Service Cooperation に依つて管理し、活動せしめたもので矢張り英國流の都市計畫である事は免れなかつた。

而して我が日本の都市計畫事業は、大體に於て政策上獨逸流を奉じて居るらしいが、その活動 Operate の方法は英國流であるから、先づ英獨の折衷主義を奉じて居るとも云ひ得

るのである。即ち國家がその事業執行の原案作成に當つて一半の責任を負擔し、且つその裁可權を持つて居るから、都市が勝手にその事業を行ふ事を得ない、そして日本の狀態では特に外國と異つてゐると思ふのは、都市計畫事業は國家の事業であるが、姑らくその事業執行都市に於て凡べての負擔に任せよ、國家はそれに對して一定の補給の責に任ずると云ふのであつて、解釋の仕樣に依つては日本の都市は隨分國家から或る意味に於て Plaything なものにされてゐるとも云ひ得る。然してその證據には、その財源となるべき土地增價稅の勅令發布は、小數の反對に遭つて見ると立ち消へになりかゝつたり、一定の補給に任ずると云つた口先きで、その補給額が事業豫算の利子にも足りなかつたりする狀態であり、それのみならず政府の決定次第で事業公債の發行が承認せられなかつたりするのであるから、日本の國家は都市に對して債務の履行を怠つてゐるものと見られても文句は云へないのである。

さて右の狀態であるから、日本の都市計畫事業は貧弱なる國民經濟力の上に立つて、その事業公債をさへ是れを國外に求めなければならぬ實情であり、更らに政府の無理解は當路の意見を最高政策の名に依つて壓迫して憚らず、市の當局者に有能の士を戴いて居り乍らも、その市の市民の無理解無知識のためにその目的が阻まれて居る有樣であるから、日本の都市計畫事業は實に前途多難であると云はねばならぬのである。

日本の都市計畫思想の黎明期は、東京大阪兩市に於ける市區改正設計決定のために、內務當局者との間に屢々會合が催され、都市計畫事業の必須缺くべからざるを指示された大正六年以後大正八年ごろにかけてゞあり、大正八年以後十年ごろまでは、その論議時代であつた。多くの學徒は興味ある研究問題として都市問題を自己の問題とし、都市計畫熱を興張せしめた。即ち都市計畫事業の過渡期を作つたのである。大正十年以後震災直前までは、都市計畫執行都市指定時代であり、六大都市以外に中小都市三十五に向つてその指令が發せられたりしたが、その執行の原案は、道路網と廣場の設置を主とする市區改正的都市計畫事業であるに過ぎなかつた。そこには社會政策を基本とする即ち獨逸の諸都市の公稱標語たる『都市社會主義』Stadtsozialismus 的都市計畫事業としての意義を見出す事は出來なかつた。約言すれば日本の都市計畫事業は、震災以前までは、只だ從前の形に幾分かの改良を加へんとするに止まつた市區改正的のものであつたとも云ひ得る（尤も東京大阪等の大都市に於ては一概にそうでもなかつたが）。

然し乍ら一九二三年九月一日の大震災は、日本の都市計畫事業の遂行に當つて大なるセンセーションを捲き興したのである、その結果東京大阪京都名古屋橫濱神戶の如き六大都市に於ける都市計畫事業は、震災の事跡に鑑みて徹底的に變改を加ふるの必要に迫られたのである。凡そ我國諸都市の都市計畫事業の遂行に當つて、第一に實行に着手さるべき運命を持つて居る道路網計畫の如きは、そのためにその原案の儘で實施する事が出來なくなつたのである。少くとも大阪市は都市形成の事情を東京市と略同じうして居る關係上、震災以前の計畫をその儘實施するに躊躇を感じたのは當然の事である。

從つてこゝに震災以前の都市計畫と、それ以後の都市計畫とがその色彩に於て甚だしく相違點を現したと云ふのは自然の數と云はねばならぬ。

そこで震災地たりし東京、橫濱兩市の如きは、全然その計畫を一新するの必要を見るに至り、東京市は帝都なるの故を以て、政府自身が復興局を特設し、從來の事業計畫中燒失地區に對しては、先づその基本計畫として土地區劃整理を斷行する事としたのは、當然の處置であろうと思ふ。道路網に依る街衢の整備も一適法ではあらうが、それにも勝つて根本的なのは全地區そのものゝ形狀を整備するに越した事はないのである。而して此れが完成の曉きに於て、初めて路面の問題が、論議されるのである。從來の都市計畫事業は、根本に自然の大災害と云ふ觀念が濃厚に描かれてゐなかつたが故に、路幅の問題、交通量の問題、——それは後段に於て細論するが——及びその伸び方等に於ても、凡て現在並びに將來の人口增加を豫想して、必要なる限度に制限されてゐたが、震災の結果は從來の手段目的並びに適用限度は、到底應急の用を充し得ない事が明かになつたのである。これが先づ我が國今後の都市計畫事業の遂行に當つて、各都市當局の間に考慮されるに至つた重大なる要點となつたのである。公園の多數設置されんとする實情を阻止せんとした大阪市の實業家も、彼の大震災の實況に鑑みて、廣場式公園の設置を自から希望するに至り、二十四間の廣路が廣きに失するとの誹謗もあつたが、それすらも自然に葬られるの狀態となつたのは、確かに大震災の結果に徹した敎訓の結果であらうと思ふ、京都の都市計畫事業の如きいつ果つとも知れない程の微々たる、而かも遲々として進歩しなかつた狀態も、此の大事業に刺戟せられて、漸く最近その主要路線とも見らるべき河原町線（南北幹線）の實施にかゝり出したのである。

即ち一方では彼の大震災の結果に鑑みて、從來の都市計畫の既定計畫中、重要なる關係的性質を有するものにありてはその部分に變改を加へ、他方に於ては能ふ限り事業年度を短縮し、より集約的に事業を遂行せんとする傾向を醸成したのである。

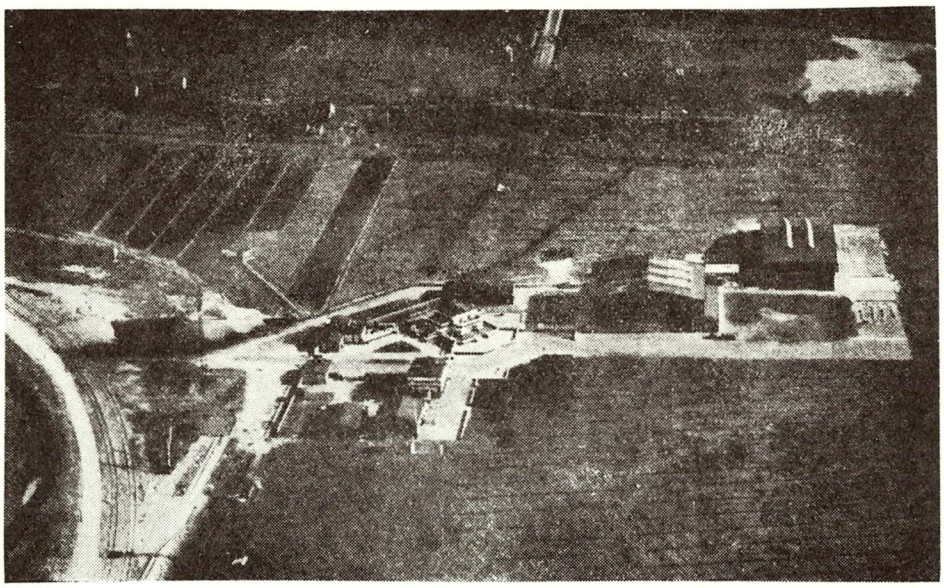
之を要する震災事前の我國都市計畫事業は、現在の都市生活を整備し、その生活を平安なるものたらしむるにあつたのであるが、震災事後のそれは、現在の都市生活を淨化するのみに止まらず、將來自然に行はるゝ無警告の狂暴に對して、一定の防止施設を實施するを以て、都市計畫事業の中心生命とするに至つたので、かくの如き大なる覺醒は全く巨億の富と十數萬の人命とを失ひて得たる敎訓に依つて齎らされたる賜物であると云はねばならぬであらう。

B　集中的都市と分散的都市の諸傾向

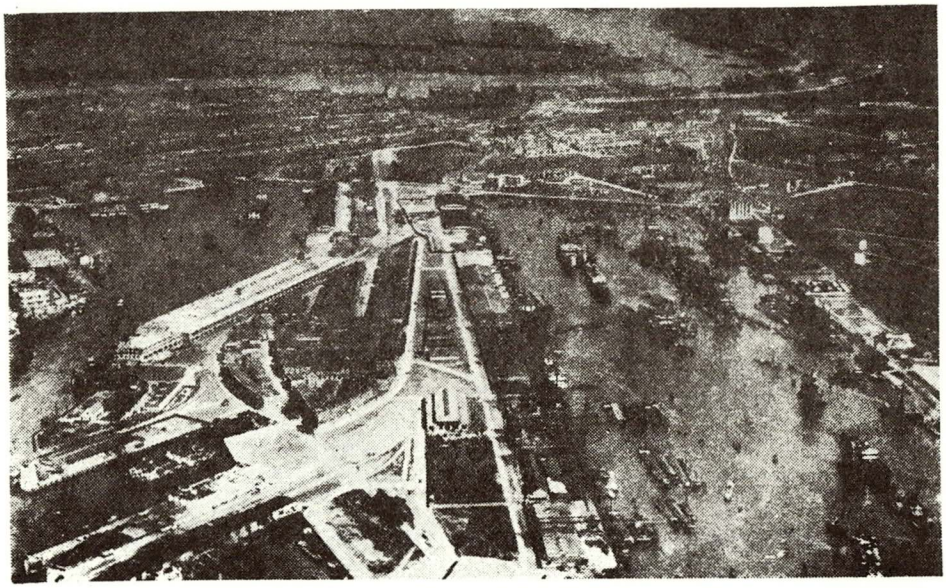
震災の結果都市計畫事業に與へた觀念上の變革は、上述の如くであるが、こゝに又それと關聯して、集中的都市（コンセントレーテッド、シティー、ダンヂー、トシテー）と分散的都市（小都市又は田園都市）（インデザインストリアル、スモールタウン、ガーデンシティー）が果して何れか都市生活の文化的意義を代表し得るかの問題が、目下國際的に論議されてゐるのである。震災と都市計畫を論議する本項では、此の問題は相當に重要なる性質を有するものであるから、以下その點に就て少し述べて見たいと思ふ。

今日都市問題 Municipal problem と名づけらるゝ特殊的社

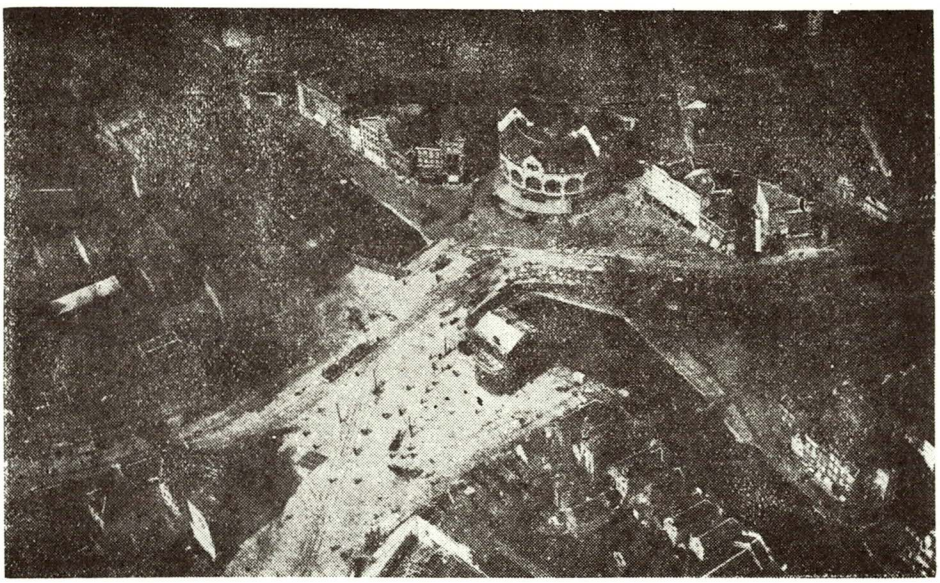
世界の都市計畫
（一）



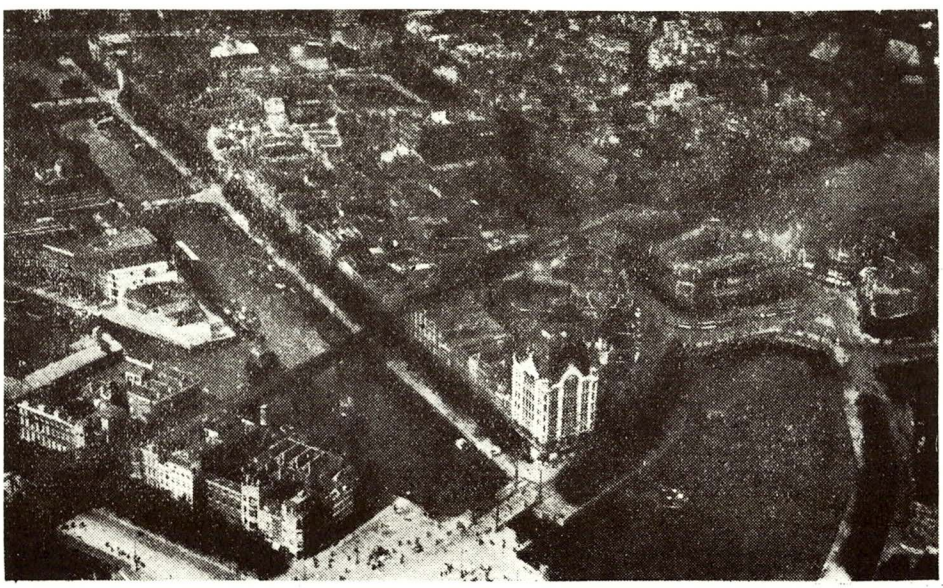
（1）　都市計畫の作業工程
——「ムダルテツロ」——



（2）　都市計畫の作業工程
——「ムダルテツロ」——



（3）　程工の業作畫計市都
——「ムダルテツロ」——



（4）　程工の業作畫計市都
——「ムダルテツロ」——

會問題は、基本的論據を集中都市か、又は分散都市かに置いてゐるのであるが、都市は人口の食盡者なりとする學者の立場に立てば、大都市(集中都市)よりもそは小都市(分散都市)にその論據を置かねばならなくなるのは當然である。而して今日の都市問題は、殆んど全部的に人口問題と見ても大過はないのである。されば今歐州に於ける人口の都市集中に關する諸學者の所說を窺ひ、大都市に關する傾向を明かにし、以て小都市に論及したいと思ふ。

ジャコビーに依れば、(1)一國の文明程度を測定せんとせばその地方に於ける人口密度の百分比の高低を標準としなければならぬと論じて居る。即ち人口の密度は文明程度に直接の關係を及ぼすものと考へられるのである。

而して彼は更に論據を進めて人口の發達過程を論じて居るが、要するに彼は都市の人口增加を以て文定測定の基本尺度と解してゐるのである。そは蓋し一面の眞理はあらうがそれを以て人口の都市に及ぼす關係を得せんとするは少しく妥當を缺く嫌ひがある。

又コストに於ては、前者の論據を一層精密に分解して、一國の人口動態を論ずるに當つて絕對的人口指數を設定し、これと都市人口指數との關係を基礎として、之れに依つて各國の社會的進步の度を、比較的に測定し、彼の云ふ合理的測定法 Sociométrie Rationnelle を設定せんと試みた。然し乍ら人口の性質から見て絕對的人口指數の成立し得ざるは明かであるから、之れを標準として論ぜんとするその根據に對しては、多くの學者に於て反對して居る。私も又その反對を以て當然の事と考へる。

凡ゆる科學、凡ゆる思想は凡べてギリシャに通ずる如く、都市問題の發生もその源をギリシャ時代にまで遡及し得る。已にギリシャの都市に就てはベロッ等の詳密なる研究はあるにしても、然し乍ら果してギリシャ時代の都市人口の狀態が如何樣であつたかに就ては、吾々はそれを知るに甚だ苦しむのである。卽ち彼の詳密なる研究を以てするも、人口の程度を確知する事は出來ない。

それに就いてウニバーは人口十萬以上の都市は可成り存在して居たと云ひ、タウルワルドは同じく、人口二萬以上の都市は大都市と見られ、人口十萬以上を有する都市なるものは實際に於ては一ケ所も存在しなかつたと云ふ。

而して現に世界の都市中人口密度の最も過惡なる倫敦の如き、十二世紀時代に於ては、僅々人口が四萬人を超へなかつた。十四世紀に於て獨逸のリューベックは、是れ又人口僅か八萬に過ぎなかつたのである。(ヤストロウの所說)

ヤストロウに據れば、人口の都市集中は、這は全く都市が經濟的に發達せるためであると見てゐる。而して彼は第十五世紀と十六世紀との人口の變化を次表に依つて示し、以て自說を證明せんとした。

都市別	第十五世紀	第十六世紀
ニュールンベルヒ	二〇、〇〇〇人	四五、〇〇〇人
ダンチッヒ	一六、〇〇〇人	五〇、〇〇〇人
ストラスブルグ	一六、〇〇〇人	三〇、〇〇〇人
ベルリン	一〇、〇〇〇人	七五、〇〇〇人

而して十六世紀の初頭に於ける全歐洲の都市人口の狀態は人口十萬人を超過するものとて僅かに六七ケ所に過ぎなかつ

た。所が同世紀の終末に際してその數が十三四ケ所にも增加した。第十七世紀は彼の有名なる宗教戰爭が勃發し、尙各地方に內亂が續發したので、人口の增加も一時停滯するの息むなきに至つたが、そのために大都市の數も增加するに至らなかつた。併し乍らそれでも都市の人口だけは、平均して四割は增加した。而して十八世紀に於ては、人口は都市田園ともに增加したが、その增加割合は約五割であつた。今サンドベルグの調査に依つて同世紀の初めに於ける、主要大都市の人口增加の傾向を示すと次の如きものである。

ロンドン	一、〇〇〇、〇〇〇人
コンスタンチノープル	六〇〇、〇〇〇人
パリー	五〇〇、〇〇〇人
ナポリ	三五〇、〇〇〇人
モスコー	二五〇、〇〇〇人
ペトログラード	二五〇、〇〇〇人
イエナ	二三〇、〇〇〇人
アムスツテルダム	二三〇、〇〇〇人

又一九〇〇年獨逸帝國統計年鑑の示す所に依れば、第十九世紀の終りごろより第二十世紀の初葉にかけて、全歐洲には人口十萬以上を有するものゝ數は一五〇都市、北米合衆國及加奈陀四二都市、南米一〇都市、亞弗利加六都市、濠洲四都市、亞細亞七〇都市となつて居る。

或る經濟學者の所說に依れば、都市に對する人口集中を以て、十八世紀英國產業革命以後の事象と認むるものもある、成程それは一面の眞理を含むでは居る。然し人口の都市への集中は記錄に依ればブレ、ヒストリツク時代からであるとも云ひ得る、ギリユーの說明に依れば、ホーマーの詩中に發見し得る所のユリズの言に於てその事實を知る事が出來る。(4)

(4) (Yuillou, Lémigration des Compagnes ver villes, Inntroduction)

ピユヒアーも同じく人口の都市集中は、決して近代に初まりしものに非ざる所以を說明せんがために、その著に於て(5)主として中世紀に於ける獨逸の傾向を論じ、十四世紀十五世紀の兩時代に於ける人口の都市集中は、決して十九世紀のそれに劣るものでないとまで論じて居る。

(5) (Bucher, die Entstehung der Volksmirtschaft)

而してケネーはかくの如き人口上の都市集中を以て、田園の生產行程の上に憂ふべき結果を齎らすものとして Léncyclopédie で自己の立場を述べて居る。蓋し重農主義者としての彼が所說を寄せて自見を述するは至當の業であらうと思はれる。

又彼の政算術の開祖たるジョン●グラウントは、倫敦市に於ける出生及び死亡證書を調査したる結果に依つて、(5)倫敦市の人口が死亡は洗禮よりも多數であるから、その人口が減少しつゝある筈であるが、實際は然らずして日々新しき住宅は建設せられ、大家屋は小さき共同長屋 Tenements に變化されつゝある。這はその人口が返へつて增加しつゝある一の證左であらうと述べ、その原因を彼は田園からの都市移住に求めてゐるのである。

ハンゼン氏は又都市の人口を以て(6)本來は減少して行くものと見做し、此の死滅し行く傾向を補塡するものは田園の移住人口に依つてゞあると斷じ、都市人口そのものは增加能力

なきものと論じた。

アムモン氏は之と同一の見地に立つて(7)都市を以て一國人口の食盡者なりとの悲觀説を述べた。都市人口は自身の減少を來すに止まらず、移住人口までも死滅せしむる傾向があると論證したのである。

今グラウント。ハンゼン、アムモン三氏の所説は都市人口はそのまゝでは死滅し行く傾向があるとしたのに反して、之れが所説及び統計に破壞的の批評を加へたのがクヽチンスキーである。(8)彼は都市の衛生狀態は年々佳良となり、從つてその保健も增進さるべく都市人口が死滅し行く等と云ふ傾向はどこにも見出されないと極論してゐる。

これは北米合衆國の狀態に就て見ると、バーメリー(アヽデグード)博士はその著に於て、(9)一九〇〇年及び一九一〇年の十年間に於て都市人口は三四、八パーセント增加し、田園人口は僅か一一、二パーセントだけが增加してゐない。是の爲には耕農地は合計人口よりも急速に增加し、而して田園の人口が移動するにつれて、都市人口が增大すると述べて居る。而して十九世紀に於ける都市人口の發達の狀態は、一八八〇年から一九一〇年までに都市の人口が、一四、七七二、四三八人から、四二、六二三、三八三人に增加して居る、同時に田園人口に於ても三五、三八三、三四五人から、四九、三四八、八八三人に增加して居る。一八八〇年には都市人口の構成割合は全人口の二九、五パーセントに相當し、同時に田園人口は同じく七〇、五パーセントに相當した。又一九一〇年の狀態では、都市人口は全人口に比して、四六、三パーセントの相當する增加を來し、田園人口に於てはその割合は、七〇、五パーセントから五三、七パーセントに減少してゐる。此の記述に依つて見ると、都市人口は段々急激(ラピッドリー)に增加(インクリユード)して行くに反し、田園人口の構成割合は、段々と減少(デクリーズ)して行く事になる。而してバーメリーはその原因は田園より都市に向つて人口が移動(ムヴメント)するによると云つて居る。

英國に於ける同狀態を紹介すると、十八世紀の初葉までは都市人口と田園人口(アルベンホビユーレーション、リユーラルホビユーレーション)の全人口に對する構成割合は四五對五三パーセントの關係にあつたのが、第十九世紀に入つてからその狀態は急激に變化を呈し、七五(都市)對二五(田園)パーセントの關係に置き替へられた。かくの如き狀態を以て見るに、人口の都市集中は、決して十八世紀産業革命後の特有現象ではないにしても、その傾向の著しき狀態を呈し出したのは、十九世紀以後の事であるとも見られる。

以上は大體に於て、歐米に於ける人口の都市に集中する傾向に就て、諸大家の所説を窺ふたのであるが、云ふまでもなくかゝる人口の都市集中は、一面に於て文明の爛熟を齎すとは云へ、他面に於ては非常なる頽廢を生み出し、『英國の諸都市が裏通りの露路に煌々たる電燈をつけるのは、照明のためのみではなく、人心の矯正及び都市惡の防止の意味をも含むでゐるとさへ云はれてゐる程に(F.C. Howe, The Modern City and its Problems, 1915 chap.XI)その頽廢 Degeneration が深刻化されて行くのである。こは全く前言せる如く、都市問題は全部的に人口問題とも云ひ得る所以なのである。

かくの如き都市的頽廢 Municipal Degeneration を救出する唯一の道は、全く都市人口の適當なる分散にあるとは當時英國學者の唱導する所であつた。而して此の運動は一八九八

年にハワード(Ebenezer Howard)がその著 the Garden City of Tomorow を公刊して以來具體化し來り(F.C. Howe, The Modern City and its Probems 1915, p. 290)一九〇三年には此の思想が或る協同團體に依つて實際化さるゝに至つたのである。今それに就て以下少しく田園都市運動の發達及び田園都市の計畫に就て紹介して見たいと思ふ。

ハワードは自著を公刊して以來その翌年此の運動を實現せんがために自から主唱者となつて田園都市協會(Garden City association)を設立して、大いに講演文書等の手段に依つて田園都市熱を宣傳した。その結果ハワードの說に共鳴し、大いにその計畫に物質的の援助をしたのは彼の有益なる石鹸製造業者レバー、及び『チョコレート』製造業者カドバレーであつた。此の二人はハワードの計畫を援助してレッチウォース田園都市事業を完成せしめ、而かも各自又別個の計畫に任じて彼の有益なるボートサンライト、及びバルンビールの新農園都市を實現して、中外に於ける田園都市の模範たらしむるに至つたのである。

今その中最も著名なるハワードの新畫せるレッチウォース田園都市(Letchworth garden city.)の組織に就て若干述べて見やう。

レッチウォース田園都市は、總面積は六千エーカー(二千四百餘町歩)に達し、その中から一千エーカーを市街地面積に充當し、五千エーカーを以て農耕地とするの計畫を大綱としてゐるのである、而して今その內部の組織を見るに、市街地には五エーカーの花壇を設け、之を中心として音樂堂、圖書館、劇場、博物館、公會堂、病院等を建設し、外部には一四五エーカーの中央公園を設け、水昌宮即ち大温室を建てゝ美觀を添へた。

而して全市街を六條の大道路に依つて六區に分割し、その何れの區よりも他の區を望見する事を得せしめた。更らに五條の還狀路線を開設し、之が中央の第三街路をば幅員四百二十呎を有する大廣路とし、中に六個の地所を選定して寺院及び學校の建築地に充當したのである。その全形態は圓型であつて、一圓型中に之れだけの組織を計畫した。

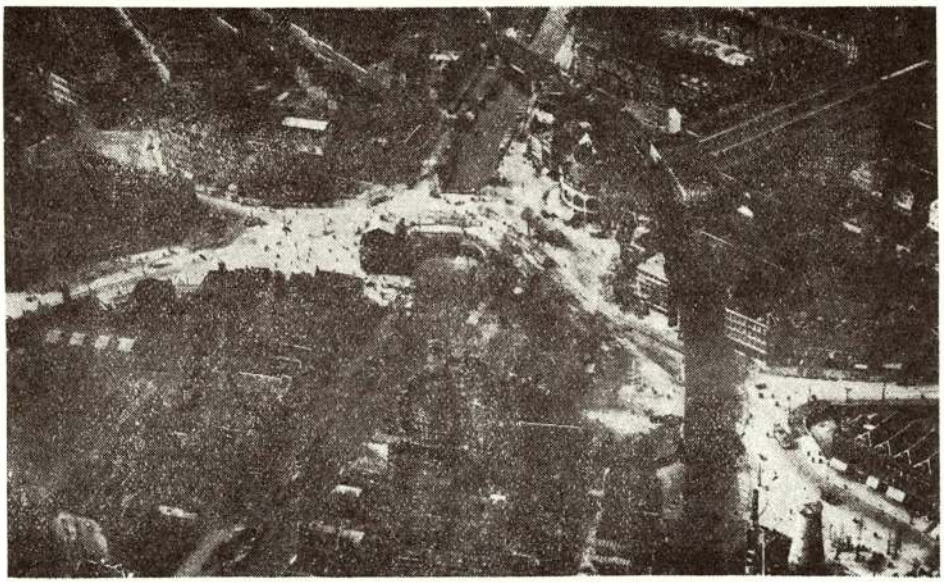
住宅に就てはハワードは一戶宛の面積を限定し十分の一エーカー(百二十坪强)を以てその限度としたのである。

而して此の計畫が、一九〇三年レバー及びカドバレーの兩氏等の援助の下に新に田園都市會社が建設され、その會社の手に依つて具體案を實行せんとしたが、最初は時人は夢想の計畫として冷笑的に見てゐたのであるが、倫敦を去る西北三十四哩の地に(ヘルトフォルドシャーの北境ヒッチンとバルドックの間)四百六十五萬坪の耕地を買收し、之をレッチウース田園都市と命名したに、初まるのである。而してそれは東西二哩南北三哩に亘る面積を持ち、交通は北境のヒッチン驛より分岐せるケンブリッチに通ずる鐵道が市の中央を貫通し同名の驛が設置されて中央都市との連絡が極めて頻繁である。

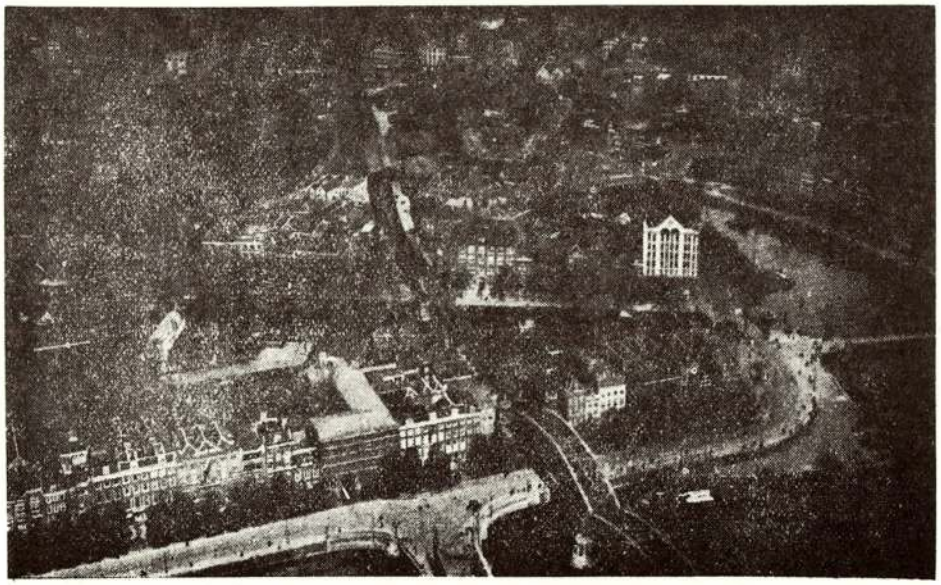
而かも同地は一帶に緩やかな小丘であつて海拔百〇五乃至三百五十呎の傾斜地であるがため、保健狀態甚だ良好を示し淨水の供給一日に十二萬ガロンに達し、尙二日分の餘剩を充し得る狀態である。

而して全市街は人口三萬乃至三萬五千人を收容し得る設備

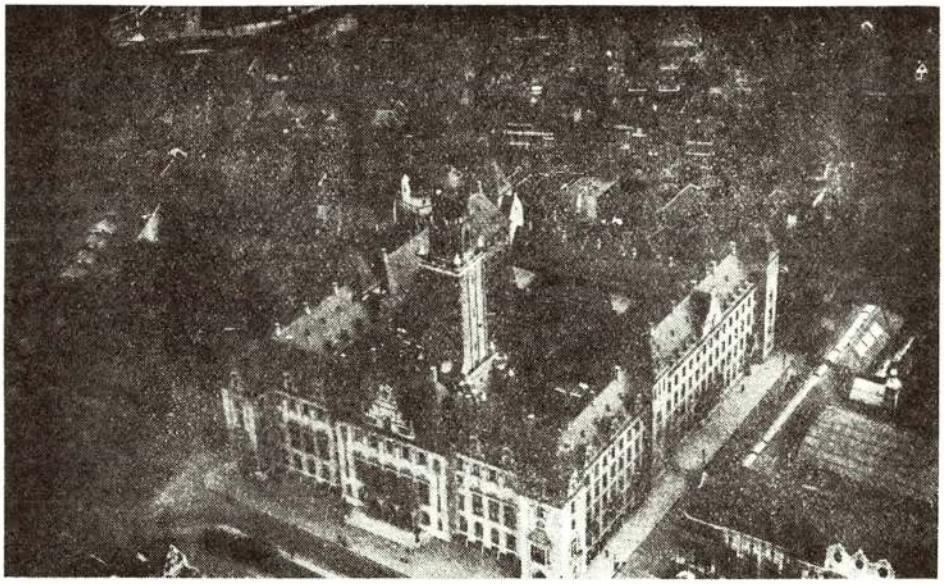
世界の都市計畫
（三）



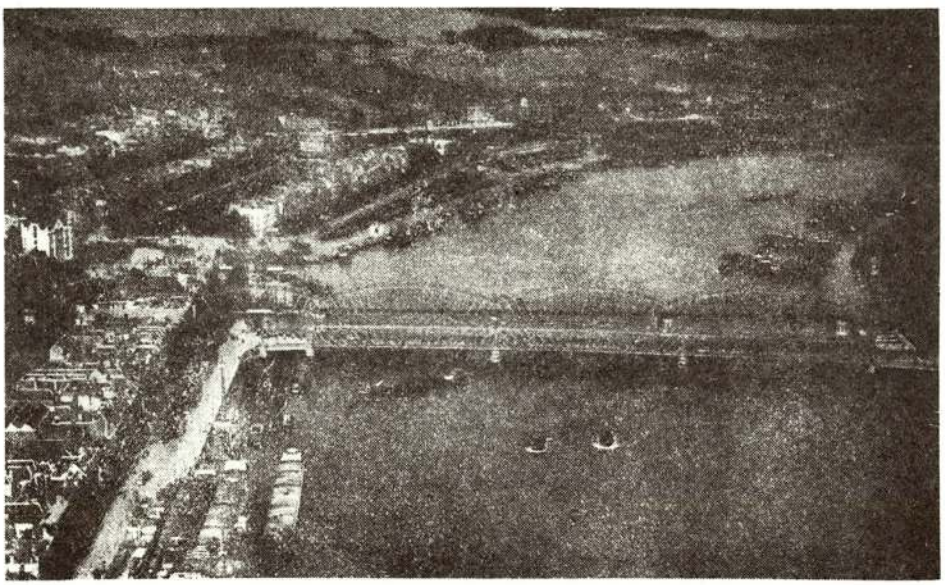
（5）　程工の業作畫計市都
——「ムダルテツロ」——



（6）　程工の業作畫計市都
——「ムダルテツロ」——



（7）都市計畫作業の工程
——「ムダルテツロ」——



（8）都市計畫作業の工程
——「ムダルテツロ」——

を完了し、中央路の幅員は百乃至五十呎とし、如何なる小路と雖も四十呎から六十呎までの幅員を保たしめ、街路の總面積は百四十六萬坪を示し、空地を七萬八千坪も有して尙その他にも同樣の地を殘し、將來市街の發展によつて土地を購入することを避けしめたと云ふことは、該計畫の如何に完美せるものなるかを略推知し得るのである。

又同じく有名なるポートサンライト田園都市及びバルンビール新農村は、ともにカドバレー及びレバー兩氏が、ハワードのレッチウオース田園都市計畫に模倣て各自考案せるもので、ポートサンライトはリバプールを去る三哩の地點にあつて、田園都市の一模範となつて居る。而して是れ等の組織は何れもレッチウオースのそれと比較して一得一失はあるが、然し乍ら人口の過密に依る都市的頽廢を救出せんとする目的に於ては、全くその企を一にするものである。今ポートサンライト、バルンビール兩都市の組織を詳述することを省略するが、此の種の運動が十九世紀の終末期から二十世紀の初葉にかけて、英國に擡頭し出してから、ドイツ、アメリカ合衆國等に於て、就中後者には人工的田園都市製造熱は盛んとなり、大學其他の學校の擴張又は新設には必ずその學校を中心としての學園都市が新生する等、大都市から小都市へ向はんとする自然的の企圖が、ハワードの主唱せる田園都市協會の國際化によつて、新に國際田園都市協會 International garden city association, の設立せらるゝありて、日下の狀態では此の傾向が國際的運動を起しつゝあるのである。

飜つて我國に於ける此の傾向を見るに、近時大都市の弊害に鑑みる所あり、都市人口の分散を援くるに土地熱が一部企業家の營利行爲に依つて煽られ、何れも居宅の安全率を高めんがために、市外に向つて住宅地が延張し行くの傾向を示した。而してその傾向が更らに轉化して田園都市熱となり、現に東京府下玉川沿岸の蒲田田園都市は我國に於ける最も著しきものであらう。最近に於ては帝都の大震災の結果、市の郊外に居を避けんとする傾向漸く著しきを呈し、各大學等競つて郊外に移轉するの傾向を示せるため、それらに附隨して一二大學都市の計畫が發表せられた等、その成績の今後に待つべきもあらうが、然しその計畫及び經營が英國の如き特志家の義俠的行爲とは別物であるから、奈邊まで發達するかは疑問でなければならぬであらう、何れにしても質に於ては英國のそれに及ばないであらう事は想像するに難くない。

要するに集中主義的都市是か、分散主義的都市非か、その是非は俄かに斷ずる事は出來ないにしても、分散的都市にはよりよき生活の淨化を齎らし得る可能の含まれてゐることだけは爭はれない所であらう。而かも一朝變災に際遇せんか、その安全率は後者に於てより高度を示すものなるは何人も疑はざる所であらうから、震災によつて洗禮されたる我國都市問題研究家は、等しく此の點に留意してその得失を究めん事をのぞむものである。

C 震災後の都市計畫

されば震災後の都市計畫は如何なる考察に基づいて行はるべきか、之は震災と都市計畫を論ぜんとするに當つて極めて重要なる意義を有する問題と思ふのである。

道路問題、住宅問題、公園問題、地域問題等凡べて從來の

程度の考案では、第二第三の變災に處し得ないと云ふ事は、固よりその所でなければならぬ。道路に於ては路幅を極度に擴張して交通量の急激せる一時的膨脹即ち大擧して、安全地帶に避難せんとする場合に際遇して誤らざらしめんがための計畫が必要となり、然かも路幅の擴張は防火線を設定するの効用を呈し、その幅員の廣きは二重三重の効用を有するは今更喋々を要しない所である。

住宅問題に就て見るに、我國都市住宅の全部を鐵筋コンクリートの耐震耐火構造に改むるは國情即ち風俗人情の許さざる所であり、又僅々一家屋内に數人を收容するに過ぎない住宅を、全部的に耐震耐火構造に改むるの必要もないが、然かし乍らそは比較的安全地帶に接續せる所のものであつて、大都市の中央部に於ける建築物の從來の儘なるは固より不可なるは論を俟たざる所である。故にかゝる地域に於ける住宅問題は、極めて至難なる意義を有するものであつて、蓋し都市計畫事業遂行上、幾多の困難なる問題を惹起するに至るは決して想像に難くない所である。然して此の問題に就いては別項に於て私見を論述するつもりであるから、こゝではあまり論じないであらう。

而して住宅問題に次で重要なる問題は、公園問題である。彼の大震災に於て幾多の生命と財產の安全を完ふし得た人々は、凡べて此の公園の設備に依つたがためであるとも云ひ得るのである。かくの如く公園は平時に於ては都市生活を美化し得る効用を有し　災時に於てその避難場となり、生命財產の危險を防止する重大なる任務を有するものであるから、都市計畫事業遂行上、事情の許し得る限り新地區にそれを設置するの必要あるは當然である。而かも公園系統を有機的に配置し、そのよろしきを得れば、大都市を幾多の部分に分散し得る事も可能となり、數多の効用を呈するに明かなる所である。されば大震災に鑑みて今後の我國都市計畫は一層此の點に留意する必要があるのである。尙公園問題に就ては後章に於て詳論したいと思ふ。

而して今都市計畫事業の實際問題として地域制度 Zoning System なるものがあるが、這の地域制度の主なる目的は、都市生活の混亂を防止するにあり、而して這は一定の秩序の下に統制ある都市生活を遂行せしむる上に於て欠くべからざる組織である。此の組織は全市街地を住宅地帶 Housing zone, 商業地帶 Commercial zone, 工場地帶 Manufactoring zone, 並びに混合地帶 Mingling zone, の四地帶に分類し、各地區はその名の示す如く、全く獨得の地區たらしめ、住宅地區は市の中央部を離れてその最も靜寂にして高層なる地帶たるを要し、商業地區は市の中央部都市交通の幹線に面せる地帶たることを必要とし、工場地區は運河・鐵道の便を有し、荷物の散集配分にその機關を利用し得るに便なる地帶たる事をその地區設定の第一條件たらしめねばならぬのである。而して是の他に尙住宅地帶と商業地帶の混合地域商業地帶と工場地帶の混合業地帶の混合地域・商業地帶と工場地帶の混合地域の設定も、都市生活の機能の上から見て必要なるは論を容れない所である。

地域の設定は、現に我國諸都市に於ける該計畫事業中、道路・公園兩系統の設定と共に三つの法律的事業の中の一部分である程に、重要なる意義を有する所以のものは、全く前言

せる所の如く、都市生活を一の統制あるものたらしめ、惹いてその混亂を防止し、一面都市衛生上不可欠の傳染病の豫防、保健の增進等、公園の機能と相俟つて併進さるべき問題であるから、震災後の我國都市生活の改造に鑑みて、大都市は云ふまでもなく、現に行はれつゝある所であるが、それ以外の中小都市に於ても、彼のレッチウォース田園都市、及びボートサンライトの田園工場都市等の組織の長を取つて以て參考たらしむる必要があらうと思ふ。

震災後の都市計畫として識者の已に着目せらるゝ所は蓋し此の點に存ずるであらうと信ずる。以下更らにその所見を論述したいと考へる。『未完』

═參考文献═

本稿を起すに當り參酌せる文献は大要左の如きものである茲に揭げてその學恩を感謝する次第である。

(1) Iacoby, L'études Lur La Sélection dans Ses Rapport Avec l'Hérédite chez l'Homme,

(2) Bloch, Bevölkerung der Griechisch-Romischen Welt,

Weber, The Growth of the Cities in 19 h Century,

Thuruwald, Stadt und Land in Lebensprozess Der Rasse,

(3) Jastrow, die Volkszahlung Deutschen Stadt in Mittelalter,

(4) (uillon, L'énigration des Compagnes Ver Villes Introduction,

(5) I. Grount, Natural and Political Observation Made up on the Bills of Mortality 1665

(6) Hansen, die drei Blvölkerungsstufen Ein Versuch, die Ursachen

Für das Blüen und Altern der Stadt, 1897

(7) Ammon, die Natürliche Dlouslese Beim Mnschen, 1893 und,

die Gesellschaftsordnung und thre Natürlichen Grondlagen, 1895,

(8) Kuczynski, der zug Nach Stadt, 1897.

(9) M. Parnelee, Poverty and Social Problem, 1921.

F. C. Howe Modern City and its problem, 1915.

等閑にされた諸所の改善

小室、押入、戸棚、椽等

1、二疊か三疊位の狹い部屋で、押入れを設ける餘地のないときは釣押入れを設けるのがよいです其の方法は室の一隅に、天井から疊面の三尺五寸位の上の方までの所に押入を釣り下げるのでありますさすれば押入には可なり物が入れられて室の全面積は矢張り使用されます。

2、「押入内は鴨居の高さに天井を張り鴨居の下部の小壁を穿ちて小さき押入とし、前面は袋戸棚見たやうに、引違ひの襖戸を設けるのです」もつと手輕にするには天井緣に蝶番の引揚げ戸を設けるか、又はカーテンでも附けるのです。此方法は室の種類によつて其の品位を下ぐるの嫌ひがありますから客間や應接室等は勿論いけません、居間等に附ける場合でも脇壁の明かり取り窓が小壁の中央にあるときは此押入もそれに準じて中央に附くれば決して見憎くありません又廊下などでは張出し戸棚とするも便利です。

3、肘掛窓のある部屋では、其の窓下の小壁を穿つてそこに押入を作るのです、小道具や書籍など入れるに便利です。

4、近來往々見受けますが、室内から壁を穿つて筭筒の深さ(厚味だけ)に外方に向つて板壁の飛出しを作り、そこに筭筒を嵌め込みます、作り方次第では濕氣が少くて結構です。

5、和風座敷の椽幅を廣めて(四尺或は五尺等)洋風家屋のヴェランダーのやうにするのです、此廣い張出しの内三尺幅通りに簿緣其他の敷物を敷くのもよいのです、板張面の拭き掃除手間を省き又椅子卓子等を置くの便があります。

6、押入も戸棚も棚を固着せしめないで、内部に留棧を設けて入れる品物に應じ、棚の高の高さを上下自在にし、棚の中央の撓むときは臨時に支柱を用ふればよいのです。

7、兩室の中間又は折廻しの角に當る所にある押入若しくは戸棚は表裏兩面か前横兩面に打通しに出入口を明ける便利とします、甚だしきは四方打通しにすることも出來ます、是は入れる面積の廣くなるのと、出入の便利と掃除の便利と濕氣を少くする等の利益があります。



人間の都市（上）

藤田進一郎

一

かつて人形の都市と論じておいた。人形の都市を、いかにして人間の都市にするか、人生の大問題であるが、都市經營の目的、理想は、一にそこにあると見られてゐる。都市經營はその方法、手段として、形而下的（フィジカル）なものばかりを取扱つてゐるが、しかし、詮ずるところ、それは生きた人間を取扱つてゐるのである。生物學的でもあり、心理學的でもあり、形而上的でもあるのである。

都市計畫で街路を擴張する、公園を新設する。シヴイックセンターをつくり、公會堂を飾り、美術館を建て、高架地下の鐵道を敷き、港灣を改築し、運河を掘る。しかもその目標とし、對象とするところは、街路そのものでもなく、公園そのものでもなく、シヴイック・センターや、公會堂や　美術館そのものでもなく、鐵道や、港灣や、運河そのものでもない。實は、このうちにある生きた人間である。人間の肉體であり、精神である。人間の肉體を壯健にし、人間の精神を爽快にし、かつ道德的にするにある。都市計畫は即ち人間計畫人形になつた人間を、いかにして再び人形から人間に還元するかを知らなければ、都市計畫の眞髓はもちろん、都市經營の本義が了解されるものでない。都市經營を生物學的、心理學的、形而上的に見やうとするのが本論の骨子である。

二

都市の形骸から見た都市計畫の目的は、大たい、安全、便利、快適、文化の四つに分けることができる。理想の都市は少くとも、この四つの點において、完全であるを要する。第一には安全である。むかしの都市は軍事上の立場から、要害堅固の土地を選んだ。今日の都市には外敵なるものはないが火災や病氣や、地震や津波や、その他一般の人災、並に天災に對して安全に防護されねばならぬ。第二には便利である。都市の內部における、および內部と外部とを連絡する交通網

は、人體の血管のごとく圓滑に自由でなければならぬ、第三には快適である。なるべく自然の形態をとりいれて美觀を添へ、休養、娯樂の設備を整へて、なるべく住みよき環境をつくらねばならぬ。第四には文化的である。學校や圖書館や博物館をもつて、市民の智識の水準を高め、それをもつて物質的にも精神的にも日常生活の內容を豊富にしなければならぬ

右の四つに對照して、人形の人間を、もとの本當の人間に還元する人間計畫の目的をも、幸福と、友情と、美感と、智識との四つの點から觀察することができる。產業主義　大社會主義の機械文明のために、人形のやうに取扱はれつゝある人間を、再びもとの單に生存するにあらず、眞に生活する人間とするには、第一に現在よりも本能的の幸福を滿足するやうにしなければならぬ。本能的幸福の滿足といつたところでそれは自然主義文學の說いたやうな本態まるだしの生活をいふのではない。またルソーの敎育主義のやうに、自然原始の狀態にかへれといふのでもない。たゞ、しかし、本能的幸福が壓迫されすぎた狀態は、それが滿足されすぎた狀態と等しく非人間的なものである。たとへば、何人も、家庭をもちたい、可愛い子供を育てたいといふ本能的慾望をもつてゐるに拘らず、都市生活のせちがらさから自己一人の命をつなぐための食物を得るに忙がはしく、妻や子を扶養するだけの資力なく、結婚をなし、家庭をもつだけの餘裕がないといふことになれば、こゝにこの子女愛育の本能が滿足されずに壓迫されることゝなるが、かうなれば、ちやうど、自由戀愛などゝ放肆な生活にたゞれるのとおなじやうな、精神的頽廢を生じ社會に害毒を流すことになるのである。

また、人間は一面に賑やかなどんちやんさわぎを好むと同時に、他面に靜寂を樂しむ本能的慾望をそなへて居る。あるときは人巧の世界に、その不自然な虛飾をこよなき享樂の對象にするかと思へば、またあるときはそれを蛇蝎のごとく忌み嫌ひ、大自然のまゝの姿にあこがれ、雪、月、花の樂しみにうつゝをぬかす本能的慾望をそなへてゐる。夜ばかりつゞけば夜にあきて晝を慕ひ。晝ばかりつゞけば晝にあきて夜をなつかしむ。美人の長袖をひるがへす舞踊もいゝが、月星の光りもまた捨てがたい。かく相反した兩面の慾望を適當に滿さなければ、本能的の幸福は、その兩面のいづれからも壓迫されることになるのである。

かつてニューヨークに住んでゐたときに、夜電光の海とまで稱せらるゝ不夜城のまつたゞなか、タイムス・スクエーア一附近を過ぎ、都人がこゝを先途と着飾り、人爲的の享樂を逐うて、潮のごとく群がりつゝある光景をみて、旅人の胸は何ともしれぬ鼓動のひゞきを高め、さすがは世界第一の歡樂の巷、かくてこそ人間も生き甲斐のあるやうに感じられるのであらうと思はれたが、それからアップ・タウンの方へ自動車をかり、五十九丁目のコロンバス・サークルから一步センートラル・パークに足をふみ入れると、太古のやうな森林の梢には、月輪高くさえ、晝夜熱鬧の大都市のまんなかにあつて幽雅靜寂の別天地をつくり、まるきり心機を一轉せしむるのを見て、こんな都市に住んでゐる市民こそ實に幸福なものであると、しみ〴〵羨ましかつたのである。わが國の大都市の現狀では、このやうなことは、とても思ひもよらない。

人間は田舍ばかりに生活してゐても飽き疲れる。されば

て都會ばかりに生活してゐてもまた同じ程度に飽き疲れる。神は田舍をつくり、人は都をつくるというが、人ばかりでもゆかず、神ばかりでもゆかない。結局は、田舍と都會、人と神との調和のうちに、人間の本能的幸福は、適當なバランスを保つて滿足されるのである。近ごろ西洋で都市計畫のみならず、農村計畫とか、レジョナル・プランニングのやかましく論ぜらるゝやうになつたのも、これがためであらう。

人間の本能的幸福の問題に附隨して注意を要するのは、幸福の增進に必要なる本能的慾望のごとく見えながら、その實生物學的にも、心理學的にも、何等の根據を有しない、わせ慾望の數多くあることである。本能的の慾望の滿足は、幸福の增進に必要であるだけ、それだけこのえせ慾望の滿足は、幸福の增進に障害となるのである。それは一例を示せば酒や煙草のやうなものである。酒や煙草は、人間の生存を助けるわけのものでもなければ、子孫を多からしめるものではない却つてその反對に、生存に障害を來し、優良なる子孫の蕃殖を妨げるものである。またこれらのもの、滿足せしむる慾望は先天的に內在してゐるのではなく、後天的に習慣づけられたものであるから、何等心理學的の基礎を有しない。つまりえせ慾望であるのである。こんなえせ慾望の滿足は、却つて大に幸福の增進を妨げるのである。文明が進むに隨つて、人間の感覺が銳敏になり、甚だしいのになると、感覺ばかりの生活をしてゐるものもある。否、文明人の生活、特に都市の生活は、感覺ばかりの生活に陷りやすい。人間にはダンス本能がある。何か嬉しいことがあると、手の舞ひ、足の踏むところを知らぬ。しかし、それが、西洋のやうに、社交の必要事となつて、日常生活の組織のなかへ同化されず、少しく精神に異常のある新物喰等の皮相な猿まねの文化生活に弄ばれると、單にそれに伴うたセンセーションだけが高調され、その結果せつかくの『脚の詩』も、下劣な變態性慾的遊戲となり『感情をあらはす筋肉の旋律的運動』も嚴格な兩性道德に對する、ぬけ參りの道となるのである。つまり本當の本能的幸福の滿足に役だつダンスの實體が、どこへやら飛んでしまうて、そのセンセーションだけが殘り、旋律と諧和とそなへた肉體の運動によつて、高尙な精神を鼓吹し、生活の內容を豐富にするためのダンスがなくして、そのセンセーションだけがあることになるのであるが、單なるセンセーションの滿足か、本當の本能的幸福の滿足でないことは、いふまでもない。都市の休養、娛樂の機關が、單に感覺ばかしを刺戟し、感覺ばかりを滿足せしむることによりて、人を呼び、人氣に投ぜんとする商業化されたものばかりに任せておかれぬ理由はこゝにある。

三

第二には、人間同志の間で、今少しく友情をもちあひ、お互ひに仲善く暮すやうにしなければならぬ。凡そ人間と人間との間の關係に對する精神的反應は、友情か、敵意か、もしくはこの二つの混合したものかに大別することができる。即ち、他人の善運に對しては、快樂を感じ、惡運に對しては苦痛を感じるかも知れないし、或はその逆に、惡運に對しては愉快を感じ、善運に對しては苦痛を感じるかも知れない。或はまた、ある點に對しては愉快を感じ、ある點に對しては苦

痛を感じるといふやうなこともあり得やう。この三つのうちなるべく他人の善運に對しては愉快を、惡運に對しては苦痛を感じるやうな友情を涵養することが人形の人間を、本當の人間にする必要條件の一つなのである。

人間の人間らしい點は、獸類などの思ひも及ばない大多數のものが、組織ある社會を意識的に作り、お互ひに幸福に仲善く暮してゆくことにある。人間には戰鬪本能もあるが、それは戰鬪を職業にせんがための戰鬪本能ではない。戰鬪をなくするための戰鬪本能である。歐洲戰爭中聯合國の方では、自らの戰爭を、戰爭に反對する戰爭（„war against war“）と呼んで、宣傳のモットーとしたが、人間の戰鬪本能についても、この通りのことをいふことができる。

人間に戰鬪本能があるから、いつまでたつても戰爭はやまず、社會の個人的、階級的爭鬪の絶ゆる期なしといふのは誤まつてゐる。鬪爭は人間社會の常態ではない、非常態である人間の努力次第で、もつと人間が仲善く暮すことができる常態を保障することができると思ふ。それには、都市を大きな一家族と見れば都合がよい。そのうちで金持と貧乏人とが、嫁と姑とのやうにいがみあつたり、市民同志が赤目をつり合つて兄弟喧嘩をしたり、家風家憲の亂れるやうなことはあつては、とてもその生活は愉快にも幸福にもならないであらう『公共的に壯麗で、私的に簡易』（Publicly grandeur, Private simple.）といふ言葉はあるが、これは人情增進のモットーとしてよからうと思ふ。西洋の大都市をみると、公園とか、運動場とか、圖書館とか、市民がよつてたかつて一緒に學び一緒に勉强する施設はまことに壯麗にできてゐる。個人の庭園とか邸宅とかは、なるべく質素にして、市民とともになるべく一緒に樂しまうとする考へらしい。文王の囿、方百里、民とともに樂しむの類である。かうすれば市民の相互の間に友情や好意が、自然に泉のごとく湧かざらんとするも得ないであらう。市民がその故郷の都市をもつて、自己の家とし、個人の住家たる小さな家の代りに、大きな都市の家を誇りとするやうにならなければならぬ。個人の邸宅は、いかに壯麗を極めても、限りがある。また個人の生活はいかに贅澤をつくしても限りがある。限りのないのは、大なる家、都市の壯麗である。都市の施設である、都市の美觀である。何百萬人といふ大集團の大都市になると、いかやうにも壯麗にし、世界の誇りたらしめ、人類の誇りたらしめることができる。永久の都ローマの生命もそこにあつた。現在のパリー、ロンドン、ニューヨークあたりも、ローマのやうに、歷史の廢墟のうち、市民協同の大事業としては灼たる光輝を放つかも知れない。

中世の西洋の都市は、今日に至るまで、そのりつばなカシードラルの遺跡に、市民の友情にもとづく協力同心の、いかに緊張したものであつたかを示してゐる。そのうちに居住する藝術家も商人も、學者も役人も、平民も、貧乏人も金持ちも、おの〳〵の都市自らの力のおよぶ限りをつくして、めい〳〵の誇りとするところの都市の表徵として、その寺院の規模を大にし、裝飾を美にしたかゞ察せられ、その熱誠と、精進とには、一種の目に見えぬ光りにうたれ、轉た襟も正されるのである。この市民的名譽は、決して、中世紀の人々にのみ獨占せしむべきものではない。

私はかつてヨーロッパの都市に、これ等中世の遺跡たる大寺院を訪ひ、むかしの市民がかゝる輪奐の美を極めた共同の大記念物を建立し、そのうちに袖をつらね、手を携へて、親しく睦まじく、敬虔にして質朴な態度で、神を祭り、神に祈つた有樣を想像し、かくてこそ初めて、人間が人間に還り、現代の人形の人間の代りに、人間の人間を建設し得ることを考へ、低徊これを久しうしたのである。（つゞく）



五十年前の米國建築界（二）

葛野壯一郎

此回にはトーマス・イー・トールマッヂ氏の『過去及び現在の樣式』と題する記事を紹介する。何處の國でも五十年即ち半世紀といへば、可なりの變化が色んな方面にある事は勿論であるが、國が若くて新興氣分に富んで居つただけに、此間に於ける米國建築界の變化は、その形式や樣式の上にもすばらしいものが有つたので有る。トールマッヂ氏は『ホームス・オフ・アメリカ』即ち『亞米利加の住宅』と題する古い圖書のことから書き初めて居る。それはかうで有る。

『私は一冊の古い書物を持つて居る。その書物の型は、その當時一般に呼び慣れて居つた、或は今でも多分左樣かと思ふギフト・ブック即ち贈呈向圖書の體裁をもつたもので有る。それは非常に大型で、學生用の書棚向ではなく、明らかに客室裝飾用に設計せられたもので、客間の卓子の大理石の甲板の上に、稍斜めにして飾つて置くには適はしいもので有る。緣金であり、靑色の布製の裝幀には大きな風流な字で『亞米利加の住宅』と題されて居る。使つて居る紙質は光澤あるつや紙で、『コロニアル・ホームス』『レーター・ホームス』及び『モダーン・ホームス』即ちコロニアル風の住宅、後期の住宅及び最近の住宅と斯う三段に分けて精巧な木版圖が入つて居る。而して『モダーン・ホーム』といふ言葉は、恰うど『アメリカン・アーキテクト』誌が創刊された其當時に於ける、流行と建築的端麗を表示する最新の言葉であつたので有る。表紙を開くと『美くしい住宅』と記した題字があり、一千八百七十九年刊行と書かれて居る。』

一千八百七十九年といふと今から四十八年前であるが、トー氏は此古い圖書について右の樣に記した後更らに筆をすゝめてこんな風に說明して居る。

『過去五十年間に於て古い樣式がすたれ新らしい樣式の創ま

る事實を、最明白に如實に物語る實例としてはアメリカの住宅に及ぶものは無い。人は心にアメリカの住宅といへば其れは富有な人の住宅で有り、少なくとも一等他からぬき出て居た人の住宅である事を思ふ。何故かといふと當時の社會には三つの階級があり、其一は富有な人達で、それ等の人々はキユポラ即ち丸屋根を持つた大邸宅と、二頭立二人乘の四輪馬車で代表せられて居たので有る。第二の階級は時折富有な人の食卓にもつく事のある、月給生活をして居る專門家及び知識階級又はあんまり成功して居ない商人と云つた連中で、此人達は代表物としてはボーデイング・ハウス即ち下宿屋や乳母車位より外には無い連中である。第三はいふまでも無く貧乏人である。此階級はサンクスギヴイング即ち感謝日やクリスマスに、富有な人々から救助を受けるには及ばないといつた人々、いはゞやつと生計をして居るといつた連中で、其内には多數の機械職や熟練な勞働者が含まれて居たので有る。斯ういふ階級の人々は現今では、自分自身の家を持ち、自分の自働車を運轉し、多くはその息子や息女を專門學校へ出して居るので有る。』

斯うした記事を讀むと、五十年前のアメリカの社會狀態がよく吾邦の現狀に似て居る樣な心持がする。日本の住宅といへば其れは明らかに富有な人達の家の事である。此階級を別にしては、日本人は殆んど住宅らしい住宅を持つて居ないと云つても敢て過言でないと信ずる。近時小住宅の建設の發達と共に、中流階級の所謂ト氏の記して居る樣な月給生活者やあまり成功しない商人達の間にも、小さいながら住宅を所有し得る便宜が一面には開けたようでは有るが、其れといつてもなほ一部分に止つて多數は貧弱な借家住居である。第三の階級に至つては論ずるまでも無く、ト氏の最後の言葉の自分の家に住み、自分の自働車で走り、息子や息女を專門學校に送るといつた狀態まで進むには、とてもの事此先五十年では覺束ないので有る。更らに本文に歸つてト氏の記事を紹介すれば斯うである。

『今日でもなほ凡てが併行したとは云へない。でも富の分布が可なりよく擴げられて、左樣いつた區分を奇麗にぬぐい去つた。中には『アメリカの住宅』の著者と同一の熱心さを以て、商人王即ちマーチャント・プリンスの名で呼ぶ樣な人も有るには有つても、それは特例で五十年前とは全く樣子が違ふ。』

これからト氏は、所謂『アメリカの住宅』の有數なものの名をあげて居る。

『ゼイ・クックの家なる『オゴンツ』それはマンサード即ち腰折型の屋根と七十の部屋を持つて居る。ダブリユー・エッチ・アスピンウオールの家、サミユーエル・コルトの大別莊、ホドソン・リヴアー・スクール・オフ・ペインテイングの學長アルバート・ビールスタツトのスウイス・チヤレット即ち瑞西に於ける百姓家風の別莊及びミチガン湖畔のポッターパルマーの金魚城。中には少數では有るが稍少いさい、然し簡單とは云ひ得な種類のものも有り、ナタニエル・ピー・ウイリスや、エフ・イー・チヤーチ及びシヤーロット・クッシユマンの物がこれ等に屬する。

『五十年以前に建てられた家は、吾人にとつては決して珍らしい變つたものではない。又それ等の家は其時代の木版によ

つてのみ見らるゝので有るから、自然と同情のある観方をなし易いので有る。

其頃の大邸宅にはきつと腰折型の屋根や丸屋根があり、縁側だの張出し窓だの出窓だの、車寄せ、温室といつたものが附いて居るのが常である。』

西洋でも日本でも同じ様に、昔の家はすべて一定の型にはまつて、有る可きものは何の家にも凡て一様に設けらるゝのが常で有る。田舎の大家など、同一の地方では屋根の形が一つ格好である許りでなく、門の位置、玄關の居所、土藏物置勝手元の構までが盡く一様に見受けられる。五十年前のアメリカの富有な人達の家にも、やはり是れと同じ事實が認められたので有る。ト氏はなほ住宅の庭園や周圍の模様についても次の様に記して居る。

『家を取り圍んで陰氣に茂つた月桂樹と枝の滴つて居る柳の樹がある。それは何うかすると吾人にセントヘレナに於けるナポレオンの墓や、クリスチナ・ロセッチを想ひ起させる。前面には廣やかな且つ非常に滑らかな芝生がある。常に左樣だとは云へないが併し割合に多い例としては、名ある鑄物の鐵製の狗を据えて番をさせて居る事である。此狗のお仲間には有名な鑄物の鹿もある。又處々にカンナやグラヂオリイの花壇があつて、其れが妙に獨逸の庭師によつてよく用ゐらるゝ星や、新月や、錠等の形に出來て居る。』

その昔ポンペイでは大家にはきつと番犬を置き、門番は必ず番犬を連れて來客の取次をする習慣から、引いては家の入口の處に番犬の彫刻をする風が出來、現にポンペイの遺跡に其れが觀られるので有るが、是は又鐵製の犬とあつて面白い、筋は全く違つても心持は同じ樣なもので有る。吾邦の神社の高麗犬、或は鑄物の神馬、神牛など又必ずしも緣がないとは云へない。よく富豪の庭園に鶴の鑄物を置た例などが有るがあはせて考へると面白く感ぜられるではないか。

ト氏は筆を轉じて大分芝居がかつた事を書いて居る。

『二匹のすてきに好い紅鹿毛に挽かせた美くしい二人乘四輪馬車からエルシー・ヂンスモーアは、晴やかな袴と飾りつきの帽子を裝ひ、レース製の日傘を持つて元氣の無い歩みを運んだ。彼女は婀娜な併し女らしい瞥見を、頬髭のある高い帽子ときつちりと締つたすぼんを附けて居る伯父のジョージと、よい犬のダッシュに小枝を投げて居る樣に見へる少いさなローの聾の耳に、自然の驚嘆す可き事を說明して居る貴族のアルバートに投げかけて居る。遙か彼方にはホドソン河の擴い流域があり、それが此洗練された華やかな仕合せの光景にかぶさつて居る異常な雲を反射して居る。』

エルシー・ヂンスモーアーが何なのか、斯うした方面の智識を欠いて居る私にはよく分らないが、五十年前の邸宅を考へる事によつて、それに關連する斯んな情景が、今目前に見る樣に思ふ浮べられるのは幸福で有る。

『諸君が豫期する事は確かである內部に就ては、玉の樣な內と外との首尾一貫するといふ事に對し、吾人は遺憾ながら其當時の建築士達に協議しなければならぬので有る。眞すぐな狹い廣間、項上で急な曲りのついた一方昇りの階段、その曲りの處にはニッチュ即ち凹壇があつて、曲るから氣を附けよと注意でもして居るかの樣に想はれる、カノヴァの若い女神像や、パワース・グリーク・スレヴが置かれて居る。高い狹

い窓、高い狹い部屋、高い狹い椽側、高い狹い浴槽と、そこでは凡てが高くて狹いといふ主旨を遺憾なく仕遂げる事の外は何物も無い樣に見へる。』

パワース・グリーク・スレーヴとはやはり希臘神話の何かで有らふが、よく分らなかつたから其儘に記して置く。記事の上の多少の誇張もあるのではあらふが、兎に角五十年前のアメリカの邸宅といふものは、恐ろしく天井が高くて、廣間や部屋の形が頗る細長く巾の狹いもので有つたと見へる。而してト氏は其後にこんな風に附記して居る。

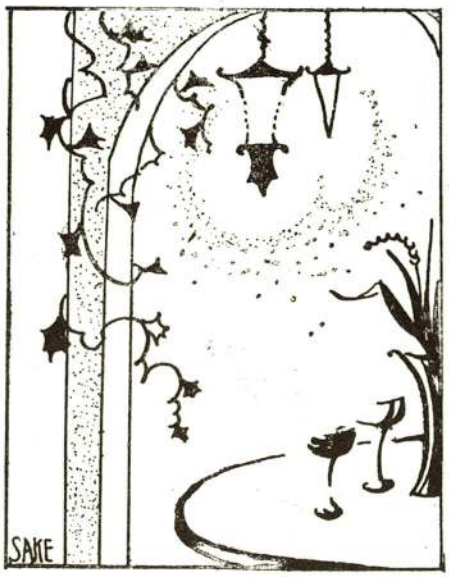
『併し今では是等の醜くい事も時代といふうす物がかつて尊とくなり、記念す可きものといふ事が、その廻りに寬恕の露を吹きつけた。』

是れは確かに何處にも有る事である。物が古くなると醜いところが自ら消えて、何だか一種の尊さが生れる。美術品や工藝品には、其當時左程でも無つたものが、後世には意外に珍重される。時代といふ錆がつくと、一種いふ可からざる味が出て來るので有る。古い建築物等にもこんな事實は決して少なく無い。而して少々のきずや缺點が發見されても、古いといふ事で大抵は寬恕されるので有る。

『此項を終る前に、年代記者として純粹な建築上のやり方の一般を記さなければならぬ。當時には兩方相對して二つの影響が有つたので有る。其一つはフランスで有つた。これはオーダーの慣用の外に內外に於ける重い蛇腹、マンサード屋根精巧な鍍金の額緣を持つた高いブレート硝子の鏡、大理石製の暖爐、寄木細工の床が證明して居る。ガルニーエの歌劇場が多くお手本になつた而して其剛健な花環や住宅には不向の餘りに華麗すぎる玉飾りのある柱頭が多く用ゐられて居る。』

ガルニーエと云へば彼の巴里に於ける大歌劇場の設計者である。同劇場は最も華麗な裝飾文樣に富んで居るので、吾が邦でも一時は、左樣したデテイルが色んな方面の建築に模寫された事が有る。

『他の同等に有力な影響を與へたものはイギリスで有つた。其れはクリストファー・レンのイギリスでは無く、ゴシックの復興に苦しみ惱んで居たイギリスで有つた。ラスキンやピユジン、ギルバート・スコット、ノルマン・ショーの生むところで、ヴイクトリアン・ゴシックと呼ばれて居つた。此外に今一つイギリスの影響があつた。それは外では無い『イーストレーキ式』で、俗受のよくない多少一般には『しほから』と云つた感が有つた。サー・チャールス・イーストレーキは室內裝飾の圖書を著した。彼れはそれでクラシックの復興を最後の足まで皮を剝いだ。而して適切なる裝飾に就て辯明を試みた。木材は塑造的ではなく彫刻で裝飾されなければならぬ。構造は明白であらねばならぬと云ふので有る。此目立つ著書には、主として家具の多くの獨創的な意匠圖が示されて居た。其れは實に藝術及び手藝運動の第一步であつたので有る。是れ等の意匠は非常に通俗なものであり、多數の手藝家や裝飾家はフイフやハリソンの傳統を忘れて一種の恐怖をなした。圓盤や切れ〳〵の小麥の莖狀繪樣の不思議な彫刻の飾をもつた頭でつかちの胡桃製寢臺、面取りの轆轤挽の細長い脚に幾層かの棚をつけた暖爐前飾、鮮やかな色のタイルをはめ込んだ板張りの腰羽目、垂れ飾りあるブラッセル敷物、蠟細工の花『スース・クローシユ』恰うど胃のところに時計を持つて居る靑銅製のヴイナス・ド・ミロなど、凡てイーストレーキに屬する。(記者は屋根裏の物置に、今も斯うした時計の一つを所藏する)風を蒔いてつむじ風を刈取るといつた風の善良な目立つた人の珍らしい一例である。彼の名は恰かもカナダに薊を、オウスタラリアに兎を紹介したと全く同樣の意味で永久に傳へられるで有らふ。』(續く)



近世劇場構造（三）

Edward Bernard Kinsila
池田谷久吉譯述

蒸氣暖房設計に對する管系

Piping for Steam Heating Plant

重力歸管式（Gravity Return Pipe System）

新しく送り出す蒸氣と凝結の後ボイラーに歸るものとに對し同一のパイプを利用する單一歸管式は其の裝置費は安價であるかも知れませんが蒸氣と水とが絶えず同じパイプ內を反對の方向に流れてゐますから時によると俄に停止する樣な事があります。そこで單一歸管式の代りに複管式を用ひますとよりよく滿足な効果が求め得られることになります。後者即ち複管式に於ては蒸氣はボイラーから上昇管を經て流れ出て適當な蒸氣支流管に依つて射熱器に迄送り出されるのです、そして蒸氣が凝結した水は一本の小さい凝結管を通つてまたもとのボイラーに歸つて來ます。

そして蒸氣を射熱器に送る大きな支流管は射熱器が上昇管と其の距離が非常に離れてゐる場合の他は普通水平の位置に置かれます。

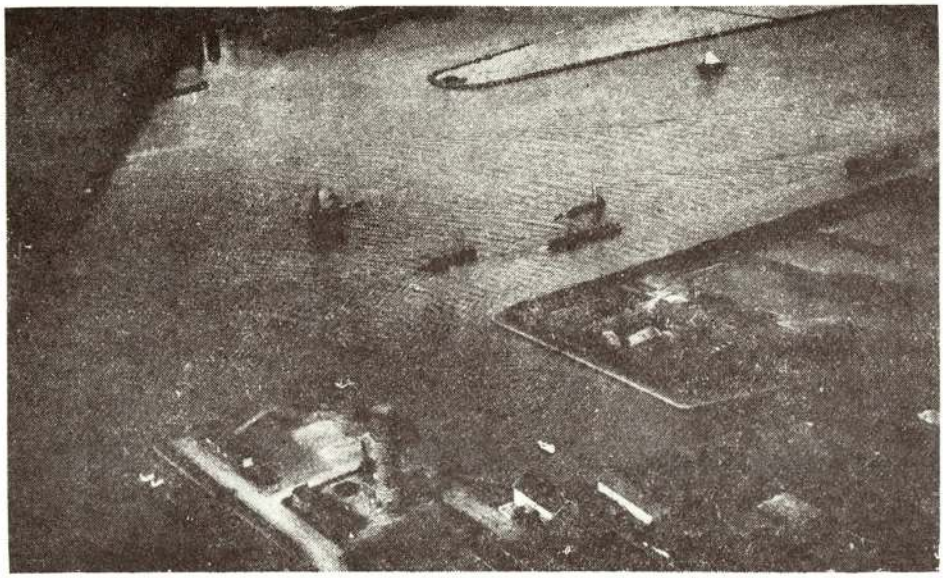
此の場合に枝管は非常に傾斜してゐるので其の中に出來た凝結水は射熱器の方へと向つて流れて行くのであります。

其の射熱器の點に於て水の其中に蓄積する事を防ぐために小さい補助管に依つて歸管の方へと流れ去り空にされて仕舞ひます。それを通してあらゆる凝結水がボイラーに歸される所謂歸還パイプは非常に傾斜してゐるのですべての水がボイラーの方へ重力に依つて歸つて仕舞ふのです。そしてそれから再び蒸氣となつて送り出されます。

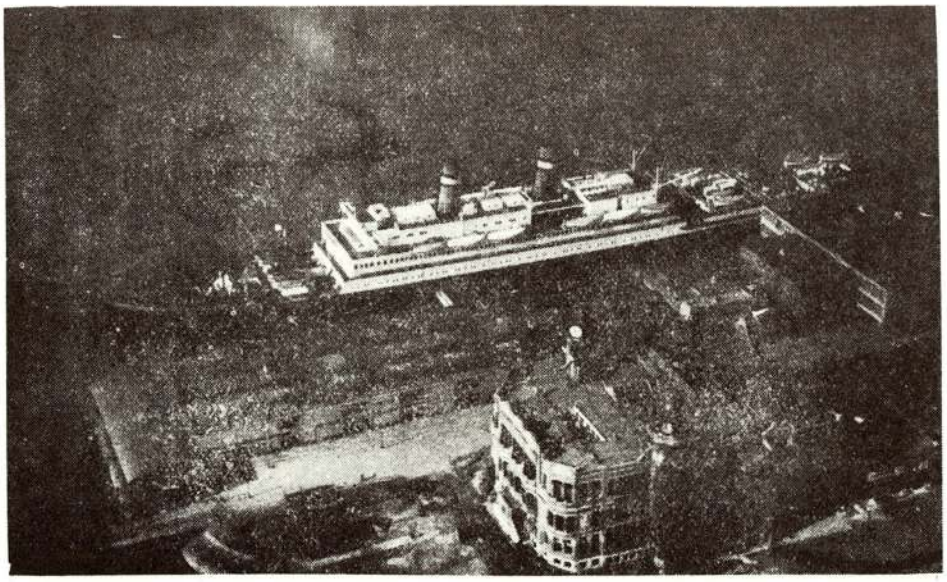
蒸氣の浪費を利用する廣く一般に知られた排氣と眞空式とは其の高價な特許裝置の費用を要しますが尙一般に其他の費用が隨分多額を要します。

以上述べた樣に重力式は卷管（コイル）又は管（パイプ）を以つて射熱器とそして蒸氣を送り出す主管と返送管とを接合するパイプとを必要

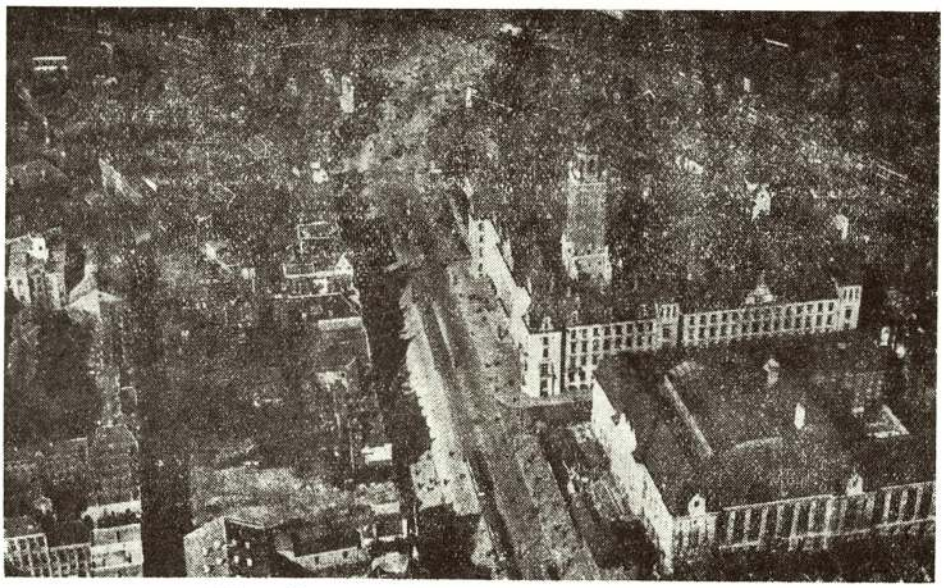
世界の都市計畫
（五）



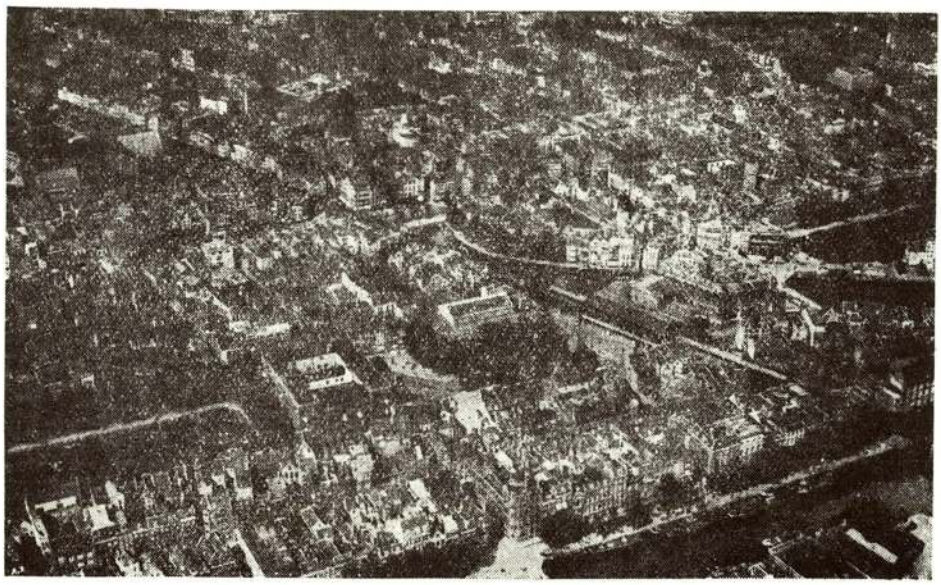
(9) 程工の業作畫計市都
——「ムダルテツロ」——



(10) 程工の業作畫計市都
——「ムダルテツロ」——



(11)　程工の業作畫計市都
——「ムダルテツロ」——



(12)　程工の業作畫計市都
——「ムダルテツロ」——

といたしますが眞正の鍛鐵パイプは其の使用し得る期間が最も長く且つ材料としても最も良いものであります。

其の接合するものも市場に於て賣出されてゐるものには各々夫々に差異がありますが最も希望されるものは辨の無い接合管であります。

普通一般に用ひられる射熱器は大抵銑鐵で造られたものでありますが、殊に二段になつた射熱器は最も其の熱が廣く行き渡つて、從つて最も多量に熱を與へ經濟的のものであります。

輕い壓縮金屬で造られた射熱器が壁等に取付する事も容易で且其の表面が平坦しかも直ぐさま綺麗になるので近來に到つて多くの人々の注意を惹き始めました。が其の耐久力を徹底的に試驗される程には充分な時間が經つてゐないのでその點はまだ〳〵疑問があります。

換氣法 (Ventilation)

運動、寒冷、適度 (Motionand Coolness necessary)

劇場に於て適用されるところの換氣法とは『適當な温度に或は温められ或は冷された新鮮な空氣の適量を劇場の觀客席の凡ての部分に一定に充分行きわたる樣な方法で供給する過程である』といふ事が出來ます。

換氣に最も重要な要素は運動と冷寒とそして適度の濕氣と新鮮とをいふ事であります、又、交叉換氣も重要な本質的のものであります、原則として空氣は沈滯の狀態に置かない樣にしなければなりません。損はれ、汚穢した、熱し過ぎられた空氣は精神の活動力を鈍にし、嫌な氣分を與へます、我々の呼吸器管は自然に戸外の大氣で生活する樣に發達して來て居るにかゝはらず進歩した文明は此の條件に相反してゐます。そして我々は一定の區域内に發生せられる惡氣の影響をなくする爲に人工的な手段を是非共考慮し設備しなければならなくなりました。

空氣の合成 (Composition of Air)

換氣の第一の目的としては一言につくせば即ち惡い空氣を排除し其の代りに新鮮な空氣を導き入れるといふ事であります、そして此れは自然的又は機械的方法に依つてなさるべきであります。

通常の人は十六回の呼吸に一分間毎に一立方フートの空氣を消費いたします。

七十度の温度と濕氣とを保つてゐる此の空氣は五分の一の酸素と五分の四の窒素とから成立つてゐます、しかも呼吸作用に依つて約酸素の五分の一又は二十パーセントが炭酸瓦斯となつて失はれて終ひます。かくの如く惡くなつた空氣が觀客席一杯に擴がり呼吸するに全く不適當になるのです。若し大量の他の清純な空氣を導き入れる事なしに觀客席から炭酸瓦斯を除き去る事が出來れば換氣法の問題は至極簡單に解決がつくのであります。然しこれは不可能であります

何故なれば急に擴がる炭酸瓦斯に關しては觀客席の空氣の新鮮を保有する爲に清潔な空氣を注ぎ込まねばなりません。

田舍地方のよい空氣は其中に僅々一萬分の四の炭酸瓦斯が含まれてゐるのみです、若し劇場内の空氣が此の炭酸瓦斯の含有量の二倍即ち一萬分の八位だとしても非常によい方と考へねばなりません。

一つの劇場に對して新鮮な空氣がどれ程必要であるかとい

ふに一人が一時間毎に千五百立方フートから二千立方フートの大量であります。

空氣供給方法の重要（Manner of Air Supply Important）

新鮮な空氣を觀客席に供給する方法は供給する量よりもよほど大切であります。

其の空氣が觀衆に呼吸せられる所まで行かずに室を横切つて流れ去る樣な事があれば如何程供給したところが何等の價値がなくなつて仕舞ひます。これと反對に程よく撒布せられた僅か千立方フートの空氣でもそれが全部觀客に呼吸されれば前述の浪費された其の量の十倍にも償することを考へることが出來ます、

芝居好きの人達が劇場内で彼等の周圍の人々が吐き出す惡い空氣を數時間も繰り返して吸つてゐるのだといふことに氣が付てゐる人は極めてすくない樣です、しかもその彼等の多くの人達は平常は衛生コップで濾過水を飲む事を主張してゐる氣六ッケし屋であることはむしろ滑稽であります、剩へ彼等は空氣が非常に惡く惡臭を放つ程にまでなつてゐる所に居る綺羅ビヤかな貴婦人ならびにむらがる劇場の雰圍氣の内に座席を占める爲にすいぶん多額の金錢を惜氣もなく支拂ふことにいさゝかの反對もしない矛盾は笑止の到りであります。

温度に於て寒冷の適度が重大であるといふ事は普通一般には空氣を流動させねばならぬといふ事程尊重されて居らぬ事も事實であります。

そこで觀客席に空氣が導き入れられる前に水煙でそれを清潔にするといふ事は芝居好きな觀客に對してはどんなに氣持のよい結果を與へることか知れません。

何故なれば、それは先づ第一に病原菌に犯され易い呼吸器の粘膜を刺戟する塵芥を空氣内より除去してしまうからであります。又水煙は空氣内の濕度の量を增すことが出來るので暑い夏の日に於ても空氣を冷たくすることも出來ます。

若しも水煙の水を人工的にもつとよりよく冷却させると其處を通過するところの空氣も自然冷たくされる事であります

浸入交換（Change of Air by Infiltration）

直接射熱に依つて保溫されてゐる劇場に於て新鮮な空氣が機械的に供給されてゐないところでも空氣が自然に浸入して來ますから一時間毎に一から三まで位の回數に依て完全な新陳代謝が行はれてゆきます。

この樣にして導かれた空氣の量は窓だとか其他色々の開いた場所の配置とか其の各々の特徵、位置に依つてまた相違のあるものであります。

小劇場の自然式（Natural System for Small Nouses）

小劇場に於ては通風器で不潔な空氣を排出する方法を使用して完全に換氣の實を擧げてゐます、冬期の換氣の爲には大きな煙突の中心に中心核の樣に据え附けられた重たい電氣鍍金をした鐵の煙突管が用ひられることもあります。

大劇場でも又小劇場でも所謂自然的換氣式といふものは完全な換氣を行はんとする嚴密な意味から考へると効果の乏しいものであつて殆んど設備されてゐないものに等しい位のものであります。

換氣の事を充分に理解するためには空氣循環に就ての智識が必要であります、空氣が熱せられると其の結果として體積を增し密度が粗大になります、密度が粗大なもの即ち『熱せられ惡くなつた空氣は上昇する、從つてかゝる空氣を除去す

る最も簡單な方法は天井に設備された通風器に依つてする事であります。此等自動的通風器にも多種多樣のものがありますが普通に用ひられてゐる最上のものは漏斗狀のものであります。他に通風の確實な方法は重力に依つて閉され重ねられ外部に出て行く空氣の流れの力に依つて開かれる開閉裝置になつてゐるベント、ハウスに納さられたプロペラを以つてする事であります。若しも送風機又は扇から外界に排除すべき空氣を送る導管を用ひる必要ある場合には導管は扇の交叉部に於て其の直徑が同一であることが肝要であります。

送風機又は扇（ファン）に依つて觀客席から惡くなつた空氣が排除せられる時、外界の氣壓より觀客席の氣壓の方が低くなり從つて此處に戸外の新鮮な空氣が押し出された空氣の後を滿たす事になります。

然し此れは夏期は非常に心持よいものでありますが冬期には冷たい空氣が通るのは餘り心持のよいものではありません

此れは新鮮な空氣を入れるに際して一度射熱器に依つて熱せられた出口を通して溫くするとか、又は壁の所の射熱器の背後に便利に配列せられた穴孔を通すとかの方法を用ひて加減する事が出來ます。

プレナム式（The Plenum System）

然し劇場を保溫し換氣する最もよい組織はプレナム式とか又は强制通風式と名づけられてゐる所の方法であります。此の方法は隔離された一室に外界から吸引された新鮮な空氣は一と先つ入室する時に溫められたり冷却されたりしてから觀客席に送風器又は扇に依つて送り出されるのであります。

此の室は觀客席の上に造られるか又は地下室（本誌前號三九頁插圖參照）に設けるかのいづれかであります。そしてその式を採用するといふ事は他の式と關係した直接射熱式を改變し同時に保溫と換氣とをする事にもなります。

又其の上に空氣が觀客席に導き入れられるに先立つてその空氣を洗滌する機械的設備をも必要であります。

空氣洗滌（Washing the Air）

かゝる式に於ては新鮮な空氣は加減辨——その辨の開口の大小は扇の大きさと其の劇場の要する空氣の量とに依つて加減せられる——に依つて閉止される樣になつてゐる扉と穴とからなる入氣口を通して外界の空氣が流れ込むのであります若し出來る事なら其の入氣口を塵が這入つて來ない程に充分高く設けたならば尙結構であります。さて空氣は冬に於ては密閉乾燥洗滌濾過器を通じて特に工夫された射熱器の方へと通る樣に設計されてゐます。そして夏になると大きな氷塊を入れた箱の上を通して其の空氣を冷却させるのであります。此の樣な狀態を經て後其の空氣は觀客席に導く電氣鍍金した鐵製の導管の內へ水掻き車の樣な扇に依つて入れられます。或る式では空氣は冬に於ては熱せられ夏に於ては冷却された水煙に洗はれるのもあります。

通風防止（Preventing Drught）

通風を防げる爲には空氣は座席の下に設けられ密に覆はれた溫湯室の出口を通して來る樣にされてゐます。此の空氣を溫くしたり冷やかくもするといふ裝置を完全に設備してゐる大會社は二三ありますが插圖に示せる如くそれを小さく家庭的に裝置すると同樣の目的を達する事も出來るのであります

此の空氣新陳代謝室を調製し裝置する爲には錫職工が普通

の加減辨に依つて調整せられた電氣鍍金の鐵製開閉扉と穴とを正しい形と大きさとに作り圖示の如く粗な針金の網でかこはれて裝置されます。

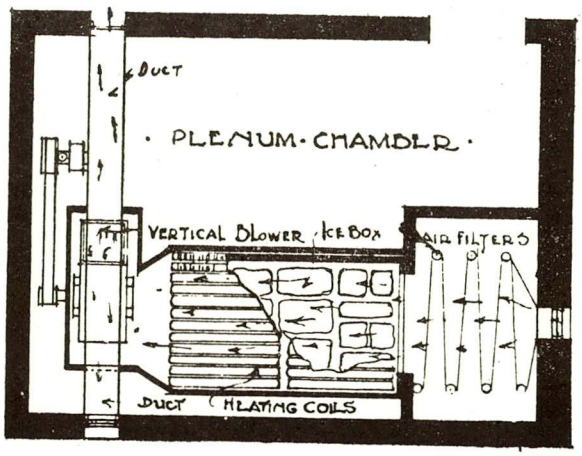
それから隔壁を以つて空氣濾過の裝置の爲めに空間を限るのです、此れは眞直な丸い二列の木からなりそれが天井と床とを支へます、頂から底まで強くきつちりとキザギザ形に張られたチツキン、ワイヤーの網（この網の目的は眞直な圓い木に鋲で打ち留められた同じ大きさのチーズ、クロース製で動かし得る樣に出來てゐる帳の障壁を支へる事であります）此等の布の濾過所は互に縫ひ合されたチーズ、クロースの巾廣い條布から出來て居りまして針金の網の反對の側にきつちりと張りつけられねばなりません。

斯樣にして出來た濾過面の總面積は入氣口の穴の大きさの約十倍程が頃合であります。此等の布の濾過布はあちこちへと動かす事が出來新鮮な空氣を代謝する前に徹底的に洗滌され乾燥されます、次に開閉辨裝置に依つて調節された二つの開口部の間に非熱處理部を持つた保温又は冷却の空間に通ずる二ケの開口部——一つは他の上にあるもの——を設けなければなりません。

上の空間場所に於ては彎曲せる鑄鐵温熱コイルは蒸氣に依つて空氣を温める爲に造られ下部の空間場所に於ては水の滴下するのを排泄する管を設けた普通亞鉛で裏打ちされた箱があります。冬期には濾過された空氣に六十度から七十度の温度を與へる爲めに必要なだけの數の温熱コイルに熱が與へられます、また夏期に於ては濾過空氣は氷箱に堆積した氷塊の上の下部空間を通り直接に通過するのであります。若しも熱が何時か必要な場合がありますと、濾過空氣の一部分を要求する温度に熱し又は熱しない上部空間を通過せしむるとよい事になるのであります。

空中濕氣の增加（Increasing the Humidity of the Air）若しも空氣中の濕度を增す事が必要の場合にはそれは屢々寒天の時に必要であります。

暖房技師は蒸發に依つて空氣が濕潤する樣に熱パイプの頂に水が滿たされた長い淺い口の大きな鑄鐵製の容器を設備すればよろしい、また孰れか一つが高價な固定的のものとして基本の濕潤器を据え付けて置かねばなりません、氣温七〇度の時四〇から五〇までの程度に濕つてゐるのが人間には最も愉快なものであります。



空氣が適當に温め或は冷され次に平行導管が小さい温湯室の出口かを通過して觀客席に送り込まれた後圖示の如く舞臺の方へ循環いたします。

舞臺に達したものは直接射熱器に依つて温められてゐる舞臺に供給したより冷たい空氣の流に遇ひ、そして小さい矢で

した様に上の方に曲線を描き天井の換氣器又は其の換氣の目的のために設けられた主なる出口を通して逃れ去ることになります。

温度の調節（Regulation of Temperature）

最後の問題は導き入れられた空氣の温度を調節することに注意せねばならぬことであります。

その結果は舞臺に供給せられた空氣は觀客席に供せられた空氣より一層冷寒な空氣の層が出來ます。そしてそれに依つて觀客席に送り込む所の程よくせられた空氣の循環が保たれる事にもなります。

主要な床上の温湯室の床の孔を適當に分配する事は外界からの大した通風はまづ不可能でありましてバルコニーへの上昇管に水平に置かれた穴は其の部分の外界からの通風を妨げることになります。

觀客席に導き込まれた空氣が動いたところで一秒毎に二フートを超る事はなかろうと思ひます。而も其の結果は觀客を非常に愉快ならしめるものであります。——完——

日本家屋と木材

手入法や修理法の科學的進歩

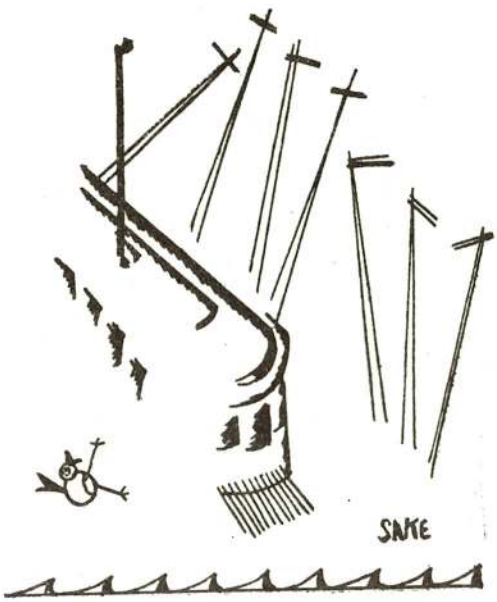
我々の日常生活して居る室内で、最も多く眼に觸れるものは壁や床天井を初め、建具にしろ家具にしろ、其の他一般の工藝品にしても木材で作られたものは頗る多い從つて家を住み心地良くするには木に關する智識を持つて、常に美事に手入れしたり壞はれた所は直ぐに手直して、何時もサツパリさして置くことが必要である、元來日本人は古から木に多くの親し味を持つ國民で、その自然の色と木目を愛することはその國民性の一つと言ふても良い、從つて在來の家の柱や長押などは多くは白木のまゝであるし、家具にしても頗る淡い仕上をして、その清楚の感じが最も喜ばれて居ります

× × ×

日進月歩の時代、殊に科學の進歩の著るしい今日に於ては、是等の家や家具類に對する今迄の仕上や手入れ方を見ると、如何にも舊式で、假令自然の美をその儘表すにしても、スタンパーとか、ダイヤモンドとか中々進歩したものがある、普通のニスやラツクにしても少し之を研究すると、最も手輕な方法で、家庭用として十分に適用することが出來る、殊に近頃の文化住宅などに於ては、凡ての木部が塗られてあるし、家具の種類も多いし、又その取扱ひなども餘程手荒くなつて來るから之が手入れや修理や或は時々塗り替なども必要になつて來る、獨り塗りに關すること許りでは無い、一寸した膠着の破損にしても、普通の膠着をするとなれば、家庭では中々困難であるが之にはカシダインとか或はカセイン膠の様な、何時でも直ぐ手輕に使ふことが出來て、而も普通の膠よりも力もあり、殊に水や濕氣にも耐える極めて進歩したものがある、其他日常最も起り易い壁の汚れや、或はヒゞ割れに對しては又石膏などといふ極めて良いものがある

× × ×

要するに家をいつも氣持良くする爲に必要な科學的の手藝、人間として或は又家を支配する家庭の主婦として、一通り心得て居ることが必要であろ。（木檜如一氏談）



建築物の彫刻

古塚正治

建築物に彫刻をつけると云ふこと、殊に重要視せられる如うな建物、斯うした建物には昔から彫刻を附けると云ふ慣例になつてゐる如うに考へられる。日本でも最近は、漸く斯の傾向が昂りつゝあるのではないだろうか。

世界の藝術史に徴してみても、建築と彫刻とが離るべからざる關係にあつたと云ふ事は、今更論ずる事でも無い程、兩者の間柄は密接なものであつて、建築を論ずれば、その結果として彫刻のことが出て來ようと云ふ譯なのである。或る場合には、より一層深い關係に結ばれてゐたこともあつた。

その構想と實施との必要を同じ一人の藝術家に見出したこともある。最初は建物を設計し、次いで槌をとり、鑿をとつて、其最も重要なるべき彫刻をなして、建物を裝飾した場合もあつた。

彼の古代希臘文化の象徴として讃へらるゝ、アクロポール丘上の殿堂を想起したい。一世の偉才フイヂアスが、あの建物の上に異常なる敬虔の念をいたし、その上に醇眞の愛着を捧げつゝなしたかを。……恐らく今日の彫刻家の比でなかつたことは確かである。今の彫刻家が如何に建築的知識に薄くそのなさるべき建物と彫刻の均衡や、想意に無頓着であるかは建築家諸君の周知の事實となつてゐようと考へられる。建物の彫刻と云ふ上では、少くとも建築家の立場になつて、其建物に拂はるべき當然の筈である醇眞の愛着を持ち得る人達でなければならぬ。勿論、精神的内容に於ても彫刻家と建築家との間に全き了解がおかれて、何よりも、その目的を表徴するに充分なるものでなければならない。

アクロポールの殿堂はフイヂアスをして、薄肉彫刻を必要

として彼れの創意を求め、彼れの決心として彼の構圖創案を與へしめて、階調の優れた醇眞善美の裝飾彫刻をなさしめたものである。

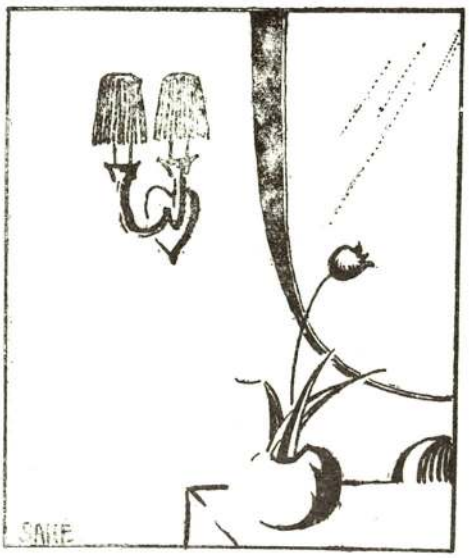
建築と彫刻、この二つの藝術の離るべからざる關係はゴチック時代にも見受けられる。石匠の手によつて、意匠と構造との二つの問題に解決を與へ、色々な題材によつて、彼れは彫刻家と建築家と云ふ兩樣の大匠として遺されてゐる。

ルネイサンス時代の伊太利でも同じ事實が見うけられる。西紀第十五世紀と第十六世紀の藝術至上の讃美時代に、稱へられた藝術界の偉才は、彫刻と建築との兩藝術の華やかな的であつたのだ。—或る人は建築家であり、彫刻家であり、且つ畫家でさへあつたとも少くなかつた。斯種の最も傑出した著名な例は彼のミケロ、アンヂエロー(畫家、彫刻家、建築家)の遺蹟である。相異つた三樣の藝術が、其藝術界に各々傑出せる三樣の天才的傑作と呼ばしめる處のものである。

それが他の何れの建物の場合に比べても、餘りに顯著に、總ての部分が好感的階調を保つて見へる。殊に、彼の彫刻が彫刻として好いのみで無く、建物の裝飾として、實に相應しいと云ふことは、建物の設計及意匠と裝飾とが、唯だ一人の統一された藝術家の精神の誘導によつて得た合理的の結果に他外ならぬ。悉うした場合を考へて見ても建物と彫刻と云ふ場合には、立派な彫塑の形を得ることも必要ではあるが、裝飾として、建物を損傷しないと云ふ點に留意せられなければならぬ。即ち、彫刻はそれ自身として、充分傑出せる者である許りでなく、其環境と一致し同じ精神の表徴と云ふ必要がある。

世界の嘆賞を集めてゐる多くの建物は、何れも斯う云ふ事實を裏書してゐるようである。前說せるパルテノンの一例を以てしても容易に立證し得られようと想ふ。實際、彼れの作品は、博物館や習作室ものとして見るよりも、それ等の彫刻の總てが、全然建物の裝飾として無比の好果をおさめてゐると云ひ得るものであると考へる。その細部の上に遺されたる個々の平面と、凹凸の配用、人體を纏へる着衣の襞と云ひ、その環境たる建築物の形をいづれも充分に矯飾してあまりありと云ひ得べきではないだろうか。逆にまた、それは恐らく彫刻的であると云ふよりは、寧ろより一層建築的な彫刻と云ふ方が相應しいと云ひ得まいだろうか。

ゴチック時代の建物上に遺された彫刻を見ると、總體的に悉うした見地からは稍々異つた、幾分虛飾と云ふ感じにも見られるものがある。けれ共、尙よく眺め入つてみると、建物と彫刻の形と云ふ間の調和、この點には全く同じ傾向にあることが氣付かれる。即ちゴチック時代の人像にしても、その着衣の上に刻まれた頑健な線のもつ感じや、人像の面相の手法が、建築物を形造れる柱の線や、ピヤーの線、ヴォールトやピネークルの線との間に共通な流れの感じをうけ入れられるでは無いだろうか。或ひは寧ろ此時代のものゝ方が、より一層に建築物と彫刻との調和、階調と云ふことの重且つ大なる事をより明白に、より力強く叫ばしむるものでは無いだろうか。即ち、斯種建物の形の調子と云ふことを考慮せば、斯の種彫刻にとつて歸納せらるべき絶對的必要條件と云ふことになりはせないだらう?。(つゞく)



石造九輪の發見

▼山村廢寺の調査

生田比左夫

本春以來我が古建築界に於て幾多未知の新事實が順次新發見され學界に一大衝動を與へ俄に大なる興味を持つて研究の中心とされたことは慶賀すべきである。

即ち先づ法隆寺五重塔心柱下空洞問題を初めとして當麻寺曼荼羅堂の奈良朝建築論、今亦之に亞いで奈良山村廢寺跡から石造『九輪』と建物の遺跡が發見されたことである。

山村廢寺は奈良縣添上郡帶解村大字山通稱『ドトコロ』（堂所？）と稱し關西線帶解驛から東へ二十町ばかりのところにて故文秀女王の御墓東裏手の櫟林の中である。

此邊一帶は地名の『ドトコロ』と稱呼せるに徵しても古來寺院堂塔數多建立されてゐたのである。

さて塔婆建築に於て九輪の構造は主として金屬製のものであるが今回の如く石造のものは未だ曾て見ざるところのものにして、極めて例外に屬すべきものである。

偶方形造屋根に於ける屋蓋露盤、寶珠等の石造のもの丶各地に存在してゐるものを見受けることがある、假定へば奈良縣生駒郡富里村古刹法輪寺の三重塔の露盤が石造で（現在法隆寺内庭、天保年間移す）あつて以前學界の一問題となつてゐたことなどは其一例であるがこれ等以外には何等古文書にも見えず、斯學界の學者に於ても夢想だにしなかつたものである。

元來九輪などは其形狀及構造の上から石造などは實に至難事と考へ得られるものが發見されたといふ事は確に建築學上の一大驚異である。

發見者は奈良縣西ノ京考古學研究者にして古瓦蒐集家として有名な稻葉憲一氏である。

氏は教育家にして夙くより古瓦の蒐集に沒頭され邸宅の大半は其用に供し日夜研究に餘念なき篤志家なるが今回の石造

九輪の發見も平素氏の蘊蓄の一端を示されたものに外ならない。

凡ての發見・發明の端緒は極めて些細なるものから求め得らるゝものにして、今回の如きも平素氏のこゝろへ出入する名もなき古道具屋からヒントを得たのである。

本年四月頃例の如く古物商人が古瓦數枚と九輪の破片の一部の拓本を持參して賣附に來たので早速購買する旨を約束したが、當時に於ては石佛の光背ならんと推察してゐた。暫くしてから古瓦と九輪の一部分の實物を持參して來た、此の時は或物の臺座にあらざるかと考へ至急全部取纏め持參すべき旨を傳へると間もなく全部を搬入して來た。

氏は一見して直ちに九輪に相違なきものと斷定を下したるも石造の九輪は未知のものにつき俄に出土地につき徹底的調査にかゝらんと決定し商人を探索するに帶解村山村附近との概略を知ることが出來た。

氏は六月十三日終日山村附近の山林田畑を捜査して終に樫林中の雜草繁茂し頗る難澁なところから礎石の發堀跡と布目瓦の破片並に紋樣瓦及九輪の塔擦を發見していよ〳〵此地と斷定するこそを得た。



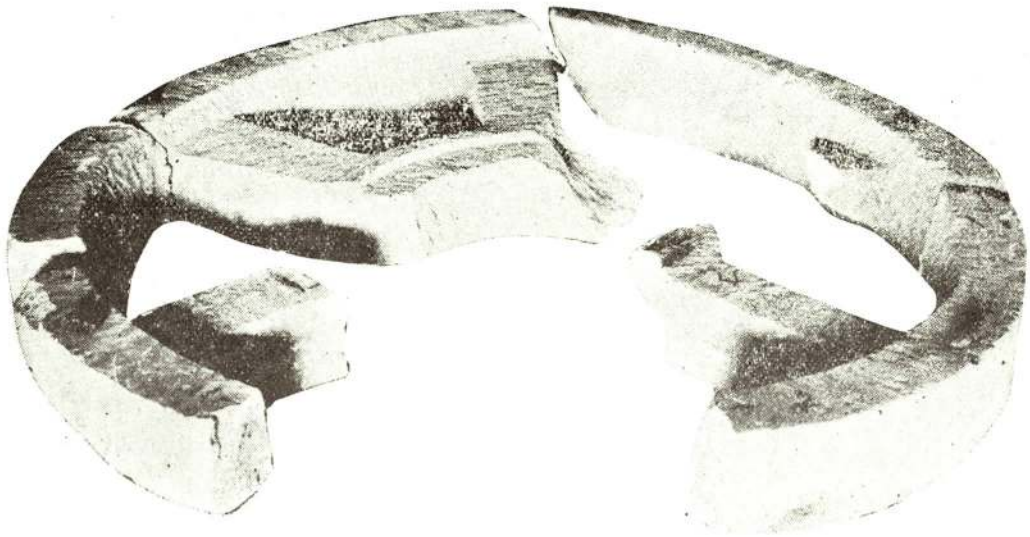
此處は同郡東市村に在つた廢寺八島寺（延暦二十五年創立）の系統に屬するものにあらざるかと考へられてゐるが今のところ明瞭でない。

現地は東西北の三方は急勾配なるジョウカンケ山に面し南方のみは少し開けたところである。然かも現在は狹溢なところであつて奈良朝時代の如き整然たる左右均齊の配置の七堂伽藍は建て得らるべくもなく、或は平安朝初期に於て所謂山岳佛教として土地の高低に從ひ自由な配置を取つてゐたものと推測することが出來る。

九輪――今回發見のものは九輪の破片十五個にして春日山系統に屬する凝灰岩の一種、和泉石と稱されるものを圓形に造り内部を操り抜き直徑二尺六寸、厚三寸の比較的少さいものである。中軸より放射狀車輪形を呈し、上部は下部より稍狹まり各面は圓味を持ち下部には風鐸を吊してゐた鐵の環の足がところ〳〵殘存してゐる。

出土品に就て――本寺の創立年代等に就ては今は全く廢寺となつてゐるために古文書もなく只出土品に依つて鑑定するの餘儀なきものである。

一、巴瓦　二種



二、唐草瓦　二種

以上のものに就て其系統を徴するに

A山田寺系統に屬する單辨蓮華紋(巴)

B東大寺三月堂附近出土と全然同一の複辨蓮華紋(巴)

C法隆寺系統の有節唐草紋(唐草)

D東大寺系統の唐草紋樣(唐草)

右に依つて二樣の推定が許される即ち

A地勢上建築プランによれば平安初期に屬するもの

B瓦紋樣によるとAC

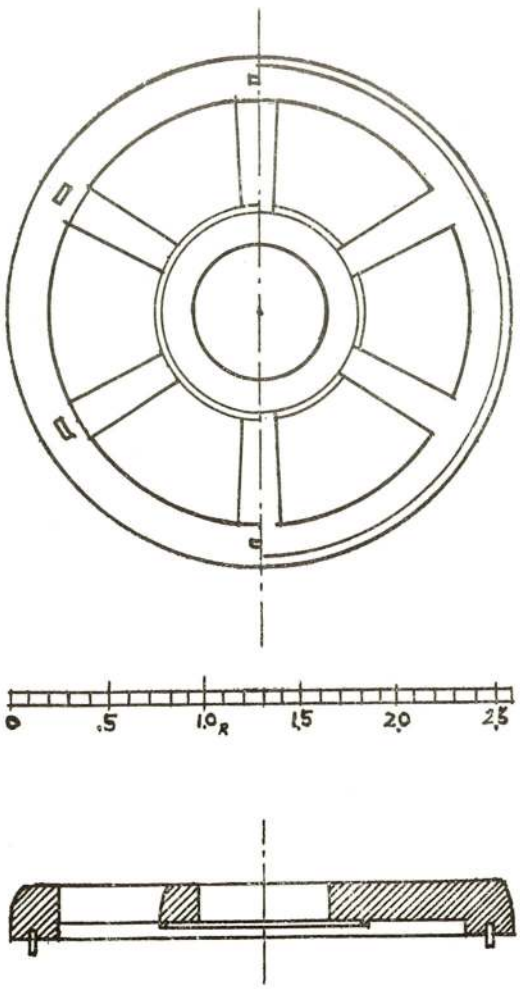
ACは推古系統に屬してゐるがかなり剛建の手法を失ひ豐麗に進んだ所は奈良朝又は奈良朝初期に近いもの

BD正しく天平時代のもの

今是等のものを綜合して(A)に從へば平安初期の宗教的山岳建築に際しACは推古朝を模倣したものであることは直ちに首肯し得る問題であるがBDは天平のものを模倣したとは思はれ難い點がある、或は某大寺の破棄品？剩餘品を流用したものと想像するは穩當ではあるまいか。

礎石發堀跡——圖中左は八角圓堂であつて右は塔の中心柱の跡と想像が出來る何れも礎石は既に他に搬出し只其の痕跡のみを殘してゐる。

出土瓦のACは八角堂のものらしくBDはは塔の方に近い所から堀出されてゐる點から考へて八角堂と塔とは創立時代を異にしてゐるものと推定することが出來る。



石造九輪　之は九輪中の一輪にして他の破片は之より稍々大なれば此の部分は上層に屬するものならん



レーゲンスブルグ

▼▼私の滯歐日記の最後の一節

叡汀生

年もつまつて來た。來春は早々此地を立つて、歸國の途につかねばならぬ身である。

兼ての宿望を果さうと、南獨逸に旅立ちました。

曇り日の伯林、バイエルンに入れば雪となり、細かな粉雪が汽車の窓硝子を打つ。牡丹雪が森の小川に降りしきる。Bamberg（バンベルグ）, Nürnberg（ニユールンベルグ）中世に榮へた町、白雪に蔽れた古都に旅の日を重ねて、十二月の三十日といふに、夜汽車でニユールンベルグを立ちました。

朝方から少し熱を覺へる、汽車で搖られ、夜遲く[*1]レーゲンスブルグに着いた頃は完全に下痢の徴候となりました。

三十一日。大したこともあるまいと、腹のいたみを押してホテルを出る。平素の樣に地圖、スケッチ帳と寫眞機を手にして。

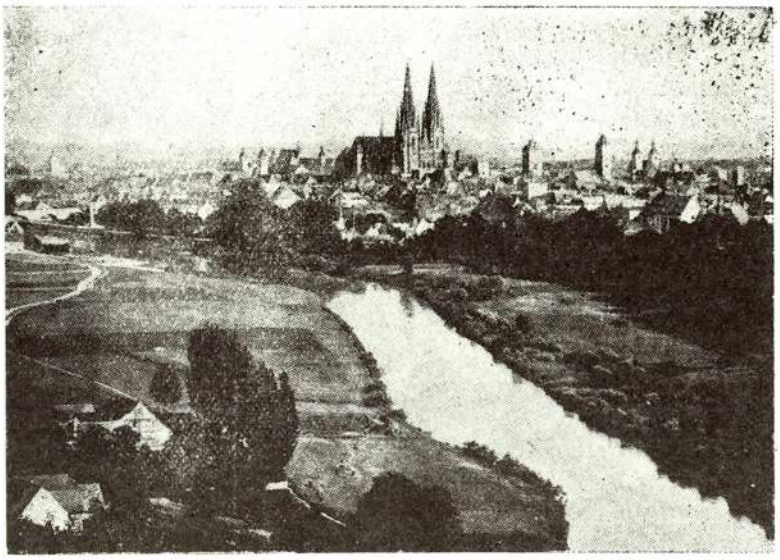
雪は膝を沒する。照る日はまばゆい。

その日の寒さ。宿の寒暖計は攝氏零下二十三度を示してゐた。

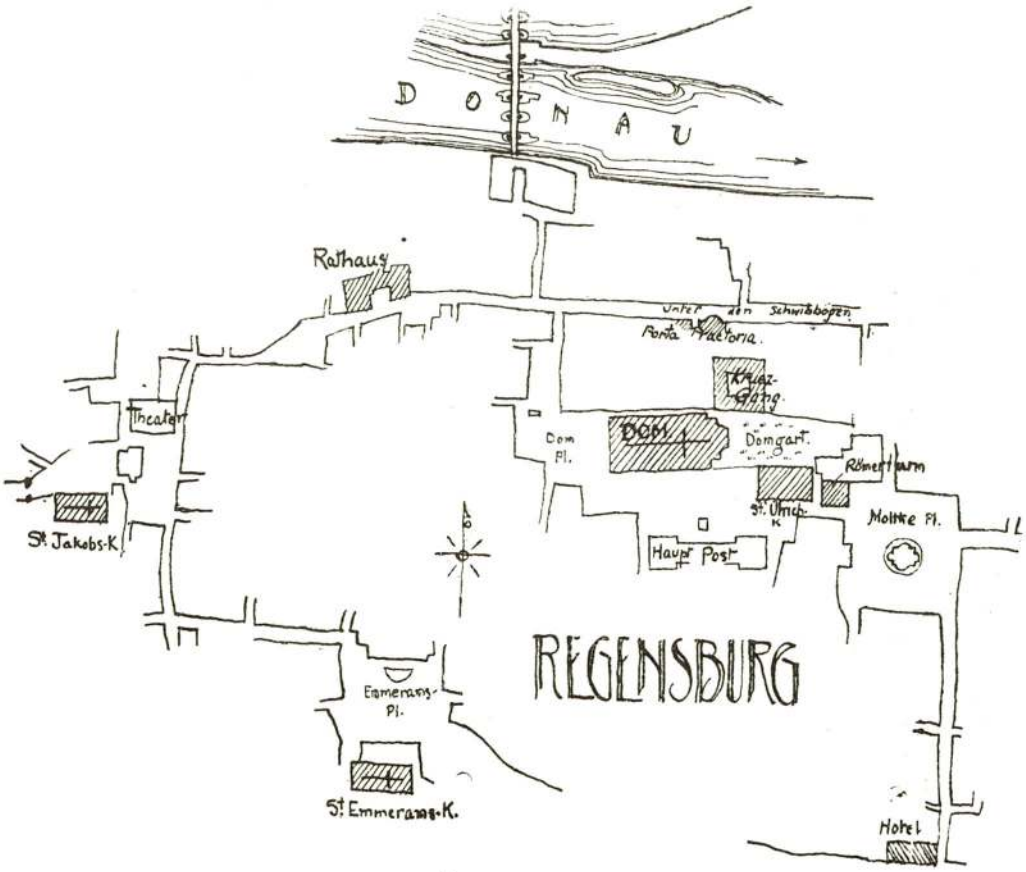
モルトケ廣場には、盛り上げた銀の中に、灰色のレーメルトウルム（羅馬塔）と低い[*3]サント、ウルリツヒの小寺が蹲る。

古都の趣は至る所の廣場に、人通り稀な小徑に溢れる。

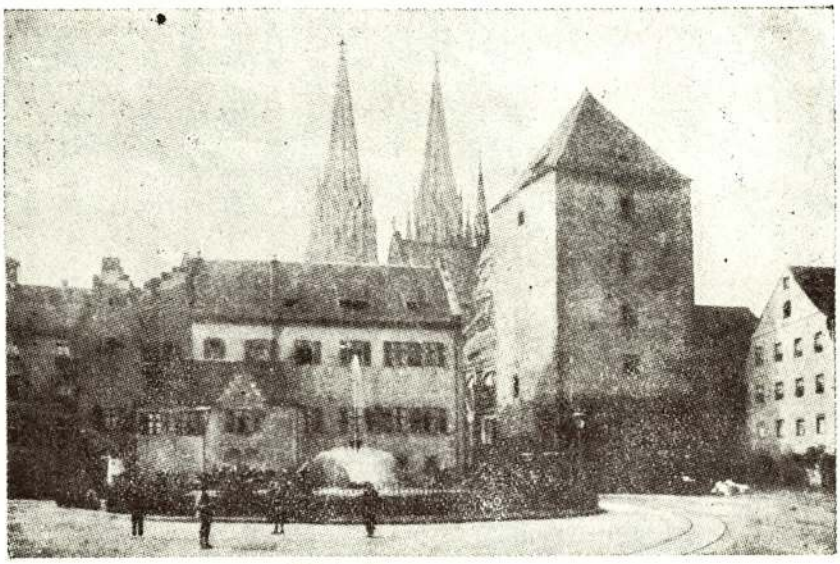
こゝは昔の穀物市場で、周の壁の中心をなすものは即ち、この羅馬塔である、その眞四角の胴體、ピラミッド形の屋蓋



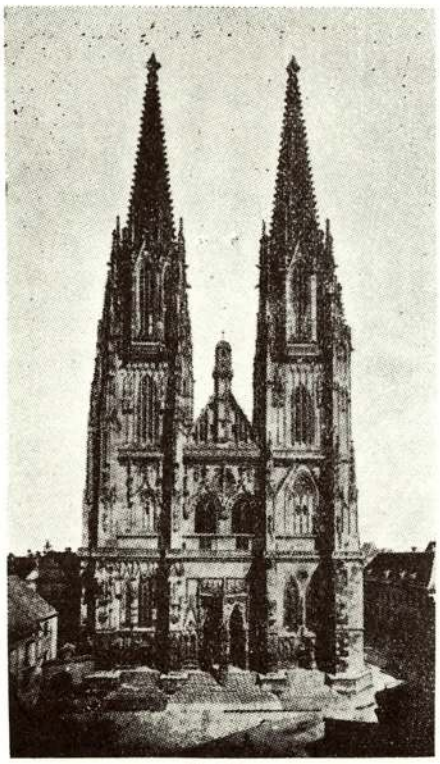
1. Regensburg.



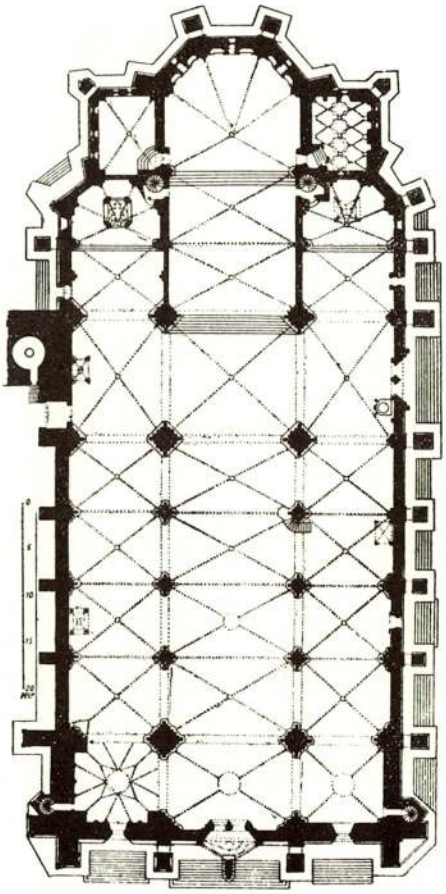
2.



3. Moltke Platz mit Römerturm.



5. Dom.



4. Dom.

上下唯一列の小窓列。その單純さ、その純朴さは後に脊向けて聳ゆるドームの賑やかな塔と面白い對照をなしてゐる。

狹い道をぬけると、突如として眼前に、高塔が、切妻(グーブル)が、飛控(フライングバットレス)が、尖窓が——大ドーム[*2]の後姿が完全に展開する

二度三度周をめぐつて、近く或は遠く寺を眺める。

ドームの影で番人の來るのを待つた、彼は十二時に、エーゼルストウルム(驢馬塔)の下を開けるといつたからだ。寒さは足元からしびれこむ、吹く息は輪を描いて黒ずんだ大伽藍に昇る。驢馬塔はいづこぞ番人は容易に來ない。

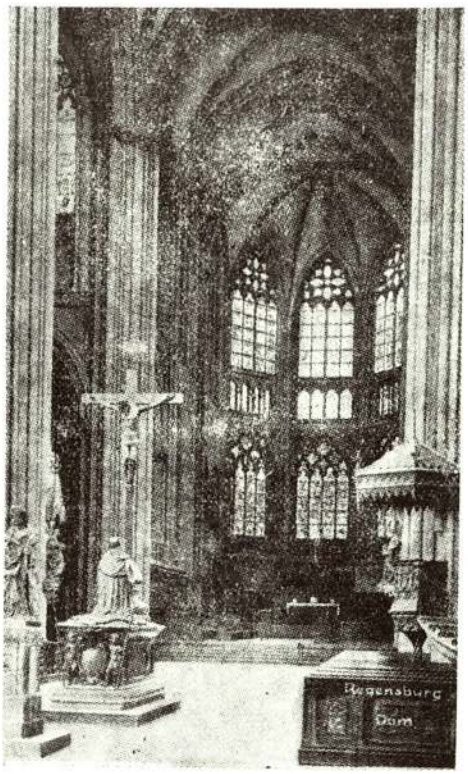
黒服の尼僧二人、裏の潜戸の内に姿を消した、私は急いで後を追ふた。

堅く氷りついた聖水の杯に手を差し入れ、尼さんは額より胸に、十字を切つて跪く。

ドームの内部は明るくて廣い。尼さんは何處かへか立ち去つて、私は廣い明るいガランとした内に獨り立ち呆然としてあたりを見廻した。

アミアンの寺、シャアツルの寺、パリのノートル、ダームはてはリンカーン、ソルスベリと、この數年の間にさ迷ひ歩いた大きい寺々を思ひ浮めるのであつた。

そこには皆、千年斧鉞入らざる深林に迷ひ込んだ暗さ、高さ、細かさがあつた。



6. Dom.

そこには神秘の靜寂と闇黒、四周より迫り來る恐怖があつた。遙かの聖壇のあたりに搖めく蠟燭の焔、淡く輝く十字架に慰と救とが漂ふ。

信仰の赤、神の靜かさの青、望みの黄、睡の綠、心ありげに高い頭上にクレアストリーから斜にま直ぐに五色の虹が流れる。

こゞまるところ柱といはず、床といはず、玄妙な呪文が輝く。

ゴシックの妙味はそれである、そこにゴシックの眞髄が横はると考へてゐた。

今私はその美しい幻想から見事に裏切られた。

これは現實の明るさであり、唯の廣い高いホールに過ぎない、窓には派手なステインド、グラスの畵が浮いてゐる。聖壇は眩しさうに、佗しく立つ。

輕い失望と反抗とをもちながらも私は、その氷る寒さの中で、明らかに見ゆる建物の細部を、靜かに心から味うことが出來た。

平面は長方形で、袖廊(Querschiff; Transept)が横にはみ出してゐない。三後陣(Drei Apsid)である。

平面は Troyes の St. Urbain 寺と極似てゐるが、彼は小さく凡そ半分大しかない。Hasak(ハザク)氏は此處の方が時代に於て

先立つてゐると主張してゐる。共に種々な點でStrassburg（ストラースブルグ）の寺に似て獨逸式ゴシック特徴を具備してゐる。

細部にはパリのノートルダムやDijon（ディジョン）のSaint-Benigne（サント・ベニーン）を想起せしむるものがあるが、一般に素僕で、彼の持つてゐる清新とか纖細とかの美は欠いてゐる。

斷面組織をランスの寺と比較して見た。

	a	a_1	a_2	b_1	b_2	c
Regensbg	35.3	15.2	10.3	30.5	16.1	7.8
Reims	32.6	15.4	8.6	37.0	16.6	7.4

（米突）

	$\frac{a_1}{a}$	$\frac{a_2}{a}$	$\frac{b_1}{a}$	$\frac{b_2}{a}$	$\frac{c}{a}$	$\frac{b_1}{a_1}$	$\frac{b_2}{a_2}$
Regensbg	0.43	0.29	0.85	0.45	0.22	2.01	1.56
Reims	0.47	0.26	1.14	0.51	0.23	2.40	1.93

一、身廊（A_1; Mittelschiff; Nave）、側（A_2; Seitenschiff; Aisle）、柱間（C; Joch; Bay）の幅はその全幅に對して殆んど同じ割合である。

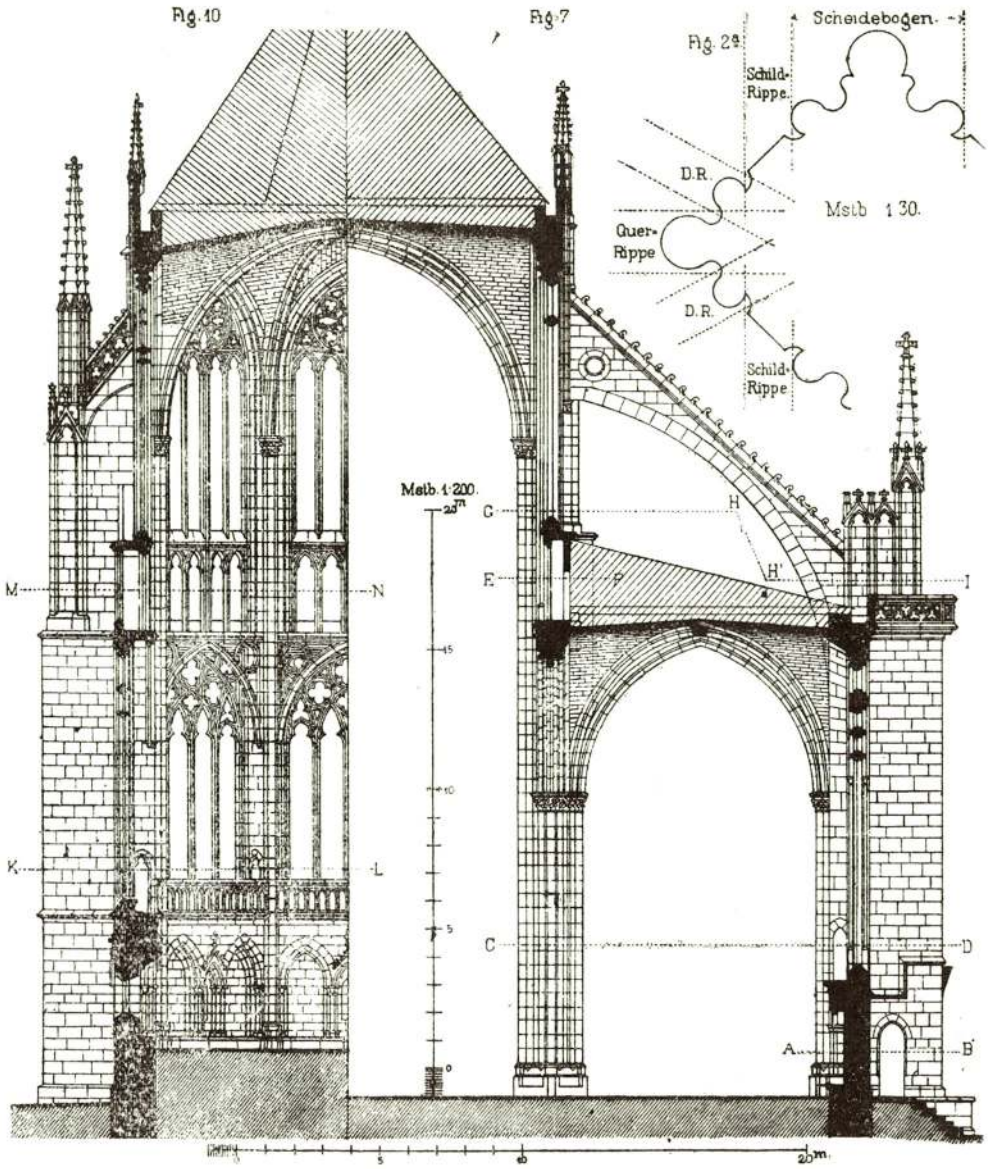
二、身廊の高（b_1）の比はランスのそれの大きに比してこゝの寺の外觀を誰しも伽藍建築の最優秀なものゝ一に數くないでしやう。然もその兩塔とその三角形の特異な玄關とのなす一種の階調及び各細部、彫刻類よりして、南獨に於ては特に見るべきものとして推奨するに躊躇しないでしやう。

は著しく低い。

三、兩寺の $\frac{b_1}{a_1}$ の比は一、一一。$\frac{b_2}{a_2}$ の比は一、二四で可成近似の値を示してゐる。

結果の詳述は避けるが、これはやがて佛國に發達したる純ゴシック建築と獨逸特有のHallen Kirche（ハッレン・キルヘ）（HallChurch）の發達の原因を示すものであらう。

高塔の竹籠細工様の石の透彫は純然たる獨逸式であつて、自國特有の趣味を誇るべき、大膽さと纖細さとをもつて人を威壓せんとする衒氣に滿ちたものである



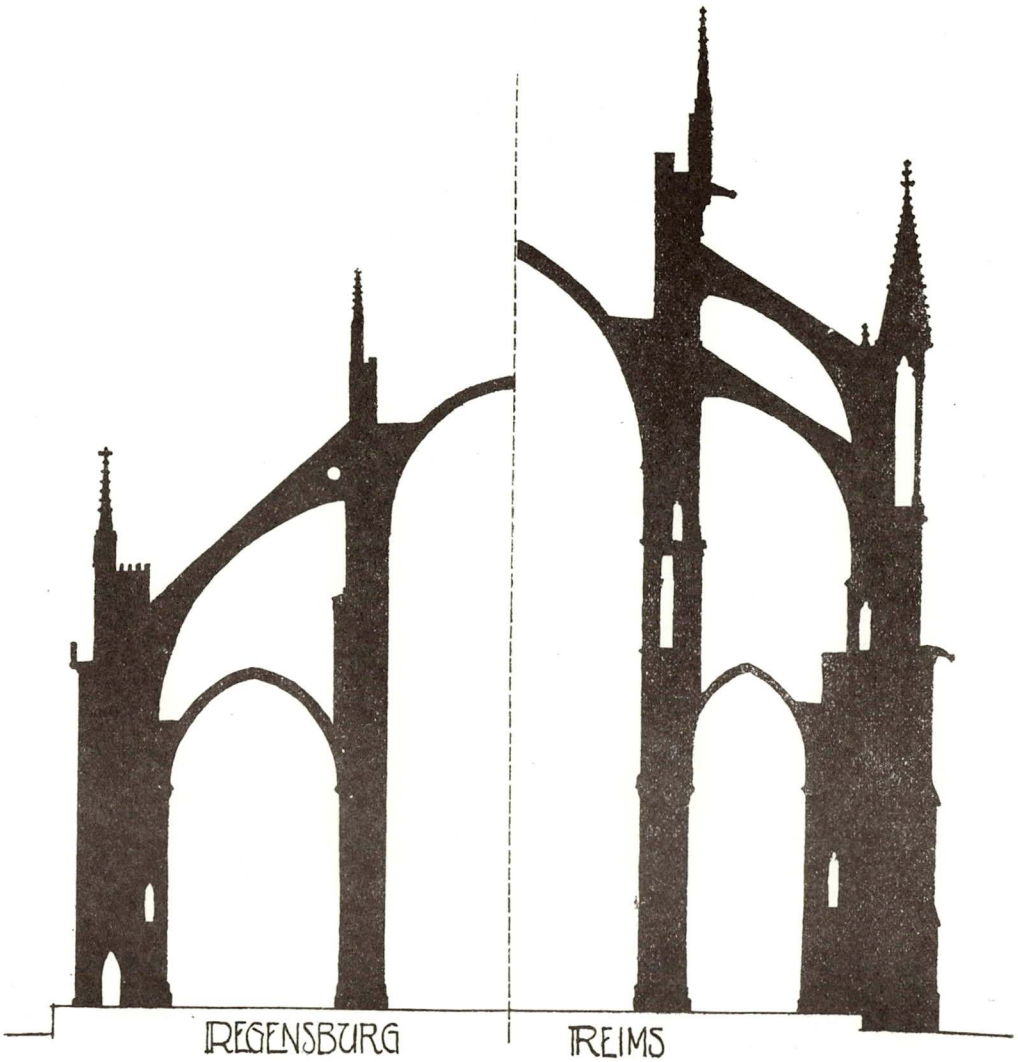
7. Dom.

傲慢不遜そのものゝかの獨逸人がその新興の國の勢もて、こゝかしこの古伽藍の上に新らしく積み上げた例の一つである。

ストラースブルグに。フライブルグに。ウルムに。いやしくも此國主要の寺にしてこの種の塔を戴かないものはない。

正面を觀察しやう。先づ低かりし兩塔基に八角の胴きをつけ、所謂竹籠造の尖塔あくまで高く聳えさす（一八五九年――六九年）。次に正面の大壁面を斷然と水平に三段仕切りなし、細長い小柱を並べ植へつけ、控壁を付し、窓の周圍を誇張する。かくて互に何等關係なく穿たれた窓を敞ひ隱して、ファッサードをまとめ上げた。その苦心と努力とは充分認め得る。然し、誇張と虛僞。衒氣と拙劣の譏は甘じて受けねばなりますまい。

さはともあれ、ドーム廣場（ブラッツ）に立つて、仰ぎ見るならば、天に昇らんとする勢の二龍の塔、美はしい彫刻、珍らしい玄關。心なき旅人すら堂々たるこの大伽藍の建築の威に打たれ

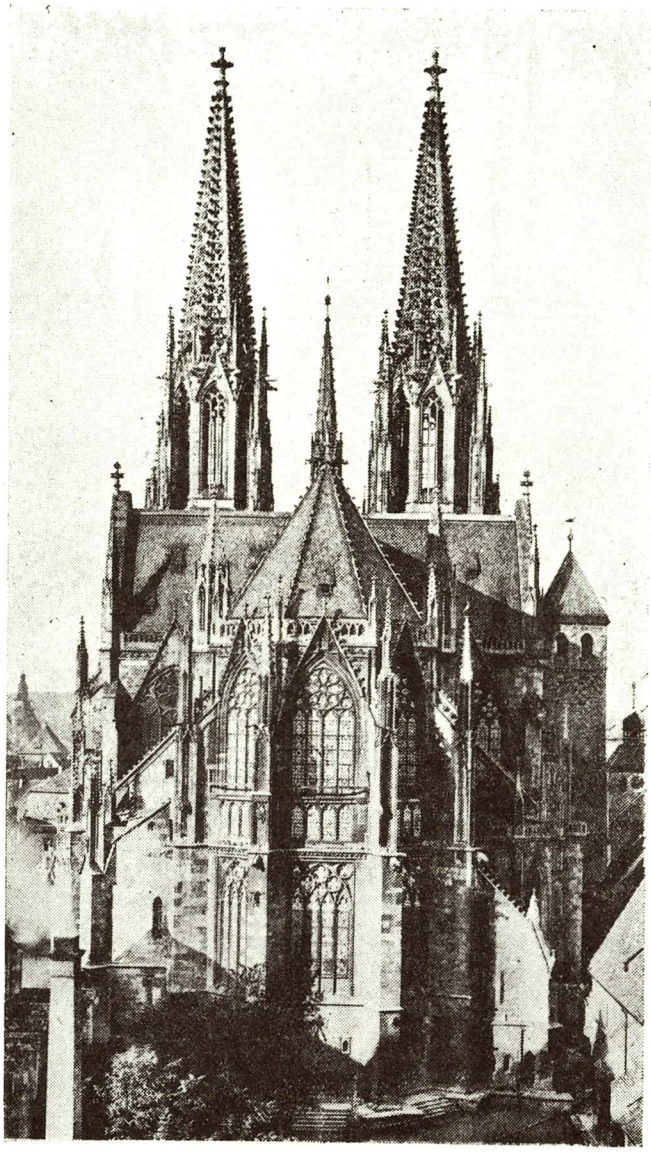


るのであります。

然し乍ら一度歩を轉じてドナウの古石橋上に立つて、その綠の水に落す影を見よ。或はドームの南の廣場に出で郵便局の石段に立ちて眺めよ。

其の雄大なる塔に比して、他の部分が如何に輕く貧弱なるかを容易に發見し得る塔の重さに前方に傾きつゝある古大寺を見るであらう古の巨匠は寺を徒に大きく見せん爲めにのみ總てを犧牲にして塔を高く高く積み上げしものか、國民性の一端が會々形となつて表れるものか。

兎に角側面は低く且つ單純に拙劣な手法を繰り返へしたのみである。稍太い下の控壁より突如として細まり登りゆく飛控。その上下の弱々しき尖塔、水平に切る繰形の力無き。クレアストリーの窓の三角形も彼のトロイエスのその優美なるに比して何等の相異ぞ。



9. Dom.

側面袖廊の切妻の細くして高き、無趣味に細く且つ粗に。たゞ失望と慨嘆あるばかりである。

されどもし此寺訪ふ人あらば、必ず寺庭（ドーム、ガーデン）よりその後姿を望むことを忘るな。人はその優しさ、その美しさ、而もその力強さ、その鋭さに魅さるゝであらう。

聳ゆる高塔尖塔、横臥する袖廊、圓く廻る後軒より斜に懸る飛控深く地の底にくひ入る控壁さては軒飾、窓、こゝに鬱然として互に相集り、冲天の勢をなし、萬人を歸依せしむるの優しさ。折から輝く白雪に黑く堅く決然とそゝり立つその大塊の力。

レーゲンスブルグの伽藍よ。汝は同じドナウの流に影を漂はすウイン、ウルムのそれに比して著しく遜色は無からう。

しかし佛蘭西のそれには比すべくもない。されど嘆く勿れ又捨て難き趣のあるを見出し得る旅人もあらん。

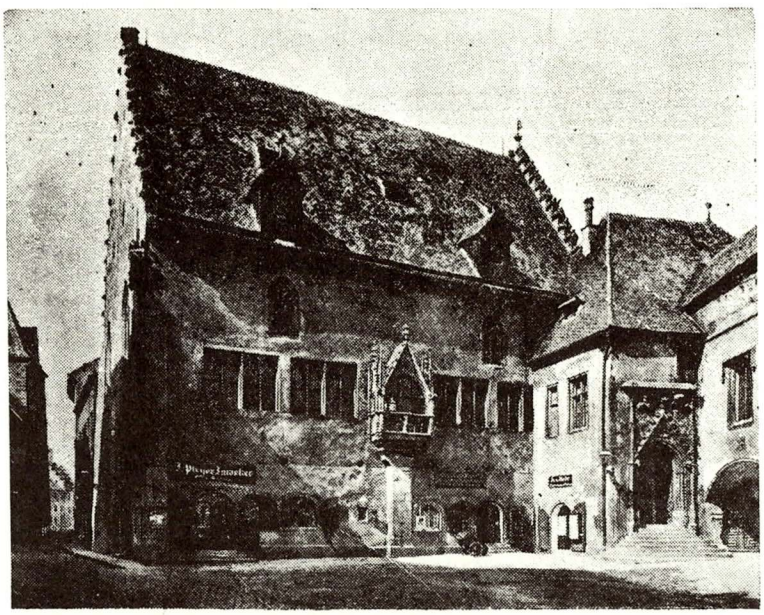
佛國の野に咲き誇る伽藍を萬朶の櫻に譬へれば、汝は正に荒野にたまたま咲き殘る野菊一輪である。日に荒み行く人の世の曠野に可愛く頬笑む一輪の野菊よ。信仰の光のもとに、慈愛の雨の下に、永劫に榮あれ。

ドームの裏の通の Unter der Schwibbogen に羅馬時代の古城壁の門の一部が永く壁の内に埋もれてゐた。この Porta Praetoria はラインのツリエールに殘る門と矢張同じ形式で大きな石灰石を大膽に積み上げたものである。

その前から折れてドナウの岸に出た。一片の白布空漠たる原野彼方に遠く空に連らなる。水邊の並樹は白銀の華を咲かし流水を浮べて走る紺青の水に姿を寫す。古き石橋は黒く無言に歴史の頁をくる。

中世紀の住宅がドームの附近に少し殘つてゐる。表の壁面一ぱいに大きくゴライアスとデビッドの闘の畫のある家(Thundorferhaus)も珍らしい。

*4 市役所(Rathaus)の建物も畫趣を帶びたゴシック式で出窓、入口など盛なりし昔時の面影を僅かに傳へて美しい。



10. Rathaus.

こゝには古い書紙毯を藏してゐる筈であつたが、今はその陳列室が貧民救助の爲めに使はれて見ることは出來ないのは殘念だと入口に立つ巡査は寒むそうに息を吹いて手を擦つて珍來の旅人をねぎらつた。西に劇場廣場からサント、ヤコブ寺のあたり、辿りついた時分には私は寒さに手足も凍へ切り、果ては顔まで堅くなつて、言いふ事すら出來なくなつた、暫し佇んで太陽に顔をあたゝめてまた夢心地に歩み出す。言葉も通はぬ萬里の異境に、黄面倭少の遊子獨りいづこにさ迷ひ、いづこに赴かんとする。堪へ切れぬ烈寒と突然再び襲ひ來る腹痛に、憩ふべき所を尋ね、街から街に迷ふ、數町終にドームの横のレストランにかけこむだ。

立代り入代り戸を叩かれ苦しい腹をかゝへて、數人列をなして待つてゐる薄汚い便所から逃げ出したのも今は可笑しい苦しい旅の思ひ出の一である。リチヌス、オエール一瓶を購つて雪の道をホテルに歸つて來る晝から夜にベッドの内に死んだ様に横はる。疲れ、寒さ、寢むさ、苦しさ。目覺めては又睡むる。

夜半に除夜の鐘が雪の町に響く。彼方の寺より、此方の塔より。プロジット、ノイヤール(御目出度う)。華かな聲が町

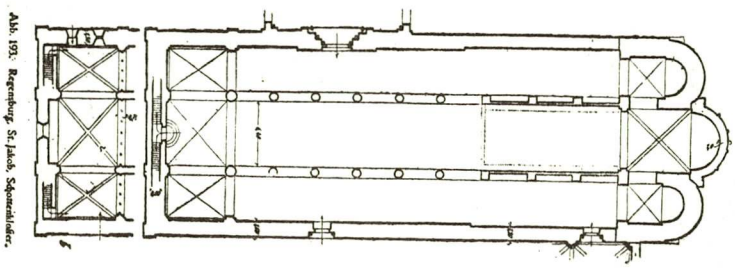
に満ちる。家々の窓からは明るい光が漏れる食堂にはシャンパニアの音が聞ゆる。廊下を走る愉快な足音。自分は闇の寝床に溜息さへせずに再び夢におちていつた。

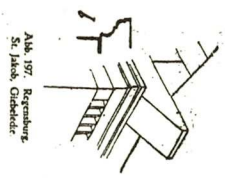
＋　＋　＋

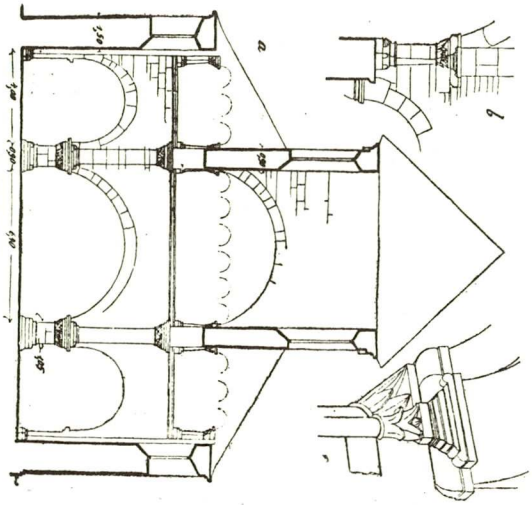
元旦である。旅なれば祝もせず。張りつめた寂しい心をもつて、また寒い町に最後の一瞥にと立ち出る。St. Emmeram（サンド エロメラム）寺から St. Jakob（ヤコブ）の寺に。

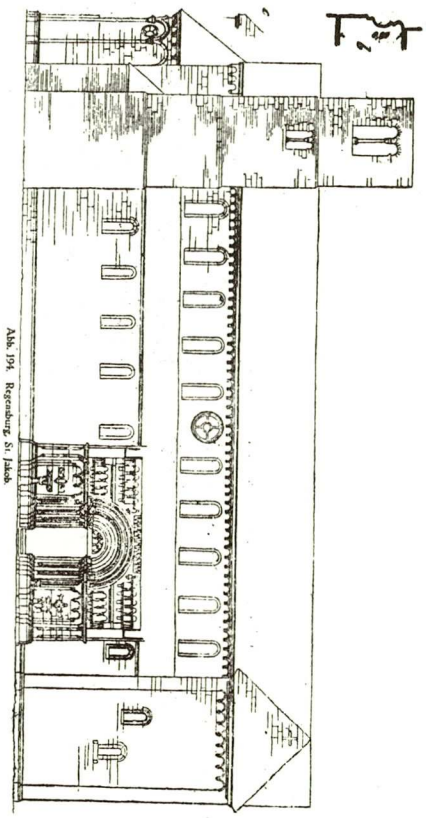
*5 エンメラムの寺は堅く鎖されてゐる。*6 ヤコブ寺の入口の珍奇な彫刻類・内部の太き柱列カピタルの様々異りたる意匠は歴史的に、意匠的に大きな興味を覚ゆる。

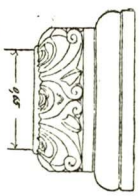
また昨日のドームに


Abb. 193. Regensburg, St. Jakob, Südseitenfenster.


Abb. 197. Regensburg, St. Jakob, Giebelrelief


Abb. 195. Regensburg, Benediktinerkirche.


Abb. 194. Regensburg, St. Jakob.


Abb. 198. Regensburg, St. Jakob.

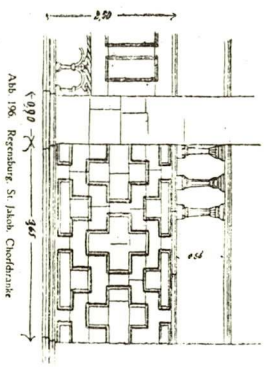
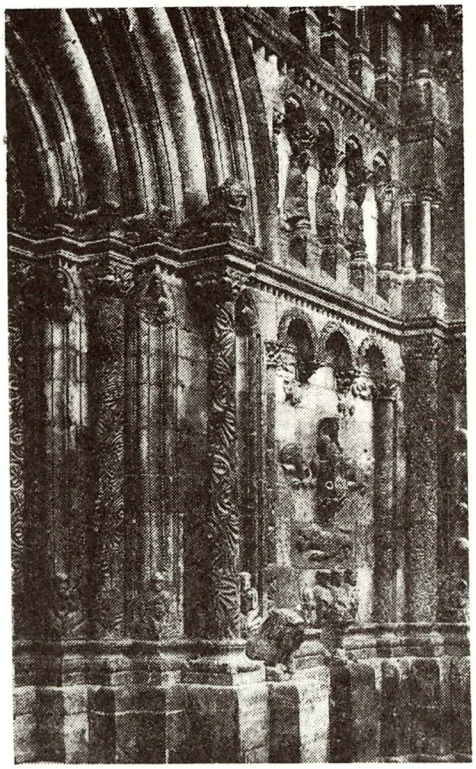

Abb. 196. Regensburg, St. Jakob, Chorfenster.


Abb. 199. Regensburg, St. Jakob.

11. St. Jokob.



13. Jokob.



12. Jokob.

別れを告げてホテルに歸る。

まだ此地にも訪ふべき古建築も可成殘つてゐる。尙充分に視察してみたいものもあつた。郊外の Walhalla にも Befreiungshall にも行つてみたかつたが又再び訪ふ日まで總てを諦めて此地を去らう。今十日もすればこの獨逸を出發せねばならぬ、ウイーンにブダペストに、プラーグに、訪ふべき地はまだ多い。先へ先へと急がねばならぬ旅である。

汽車は大雪で遲れる、昨夜汽車が半日も遲れてまだ着かぬ

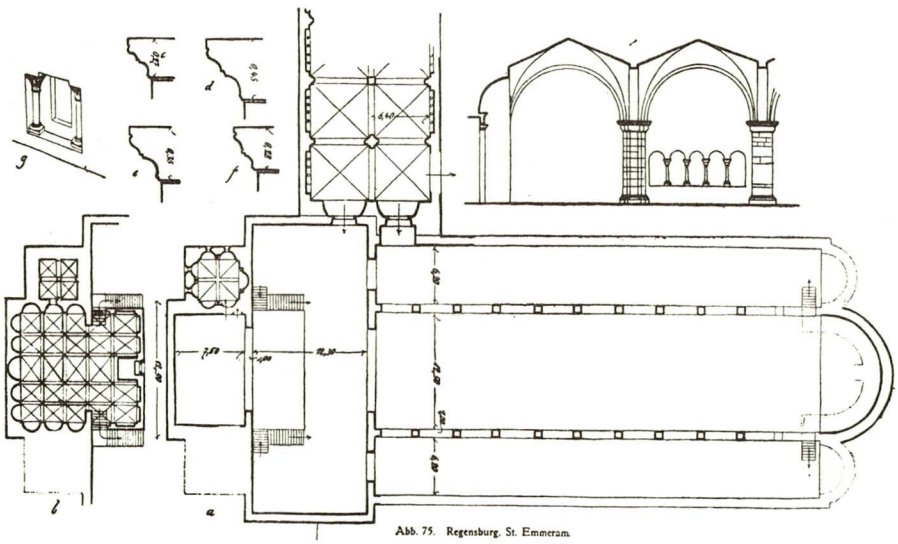


Abb. 75. Regensburg. St. Emmeram.

14. Emmeram.

ふ。夕刻田舍の普通列車に乘る。

雪に暮れゆく空寂の世界に古都の灯は次第に消へてゆく。

平原の森の樣に高まる甍の集に、極立つて聳ゆるドームの塔も今は彼方へ、彼方へと短まり、闇に入りゆく。

さらば、レーゲンスブルグよ。旅に病みし一異人の再び訪ふ日まで。

車は遲々として走る。寂れた寒村、薄暗い燈の小驛幾度か去來し。白雪の原野、廣漠たる丘陵、車は一筋に南へ南へと。

少さい客車に只獨りの私は。搖ぐランプの下で病苦にうごめいてゐる。私は何を考へて居るのか、果ては何をしやうといふのか、奇しき運命の糸の手繰らるゝまゝに。かく苦しみつゝ旅する心を我と我に問ひつゝ、病と寂さに目の濕をおのづと覺へるのであつた。

夜遲く國境を越して墺國のサルツブルグについた。

＋　＋　＋　＋　＋

かくて私は遂に美はしい山間溪谷のサルツブルグの宿に遂に打ち斃れた。病苦の長い夜は幾日も幾日も續いた。町は雪に埋れてゐた。

病の小康の隙々に、こゝからウイーンに。プラーグにと身を運んだのであつた。

故里へ急ぐ急ぐといふ心と、旅の疲れ、疾の苦み。

再び伯林へ。數年の假の宿へ戻つたのは一月の九日であつた。

そして船は一度と二度も延ばし、急ぐ心を抑へて靜養することにした。

脚註。

1.) Regensburg；現今 Bayern, Regierungsbezirk Oberpfalz und Regensburg の首都。人口五萬五千。Donau 川邊に位す。古羅馬時代より町。見るべき古建築多し。羅馬時代の古名 Castra Régina；獨名 Ratisbon；佛名 Ratisbonne.

2.) Dom, (St. Peter)
ゲイヒルン國內ゴシック伽藍建築の傑作の一、
1272年現今の位置に創立。
建築材料は Kapfelberg 產の綠黃色の砂岩。關係建築家は Konrad Roritze (1460以後)；其兩息 Mattäus 及 Wolfgang(1514歿)；正面は Matth. Rolitze により完成さる(1482～86)；兩塔高101米突、Fr. V. Denzinger に完成さる(1859～69)：

3.) St. Ulrichs-Kirche(Alte Pfarre),
平面長方形；ロマネスクの余風を帶びたる初期ゴシック式(1250)；現今は Sammlung des Historischen Vereins を納めて小陳列所となつて居る

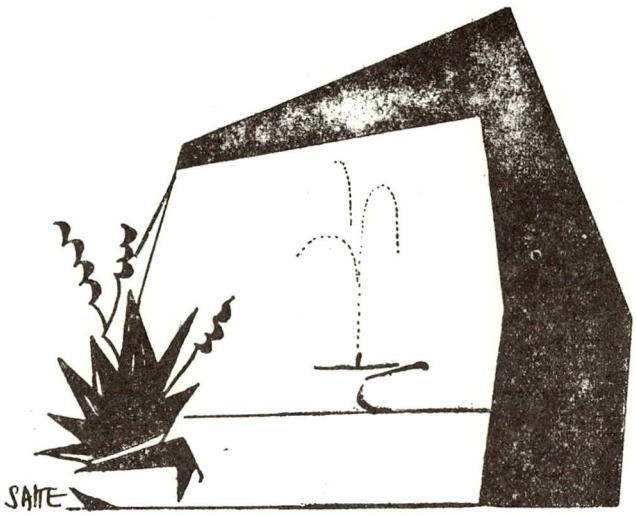
4.) Rathaus,
不規則な平面の繪畫的の建物。1904～7 修理す。西側の部分が古く十四世紀、美しいゴシック式の外觀を有し、可愛い出窓に、面白い玄關が目立つ內に藏する Bildteppich は大部分十四世紀から十六世紀までの立派なもので獨逸有數のものである

5.) St. Emmerams Kirche
獨逸最古の Benediktinerstift、一：西曆七世紀既に創立せられ、現存建物は1163～89の再建のもの、1731～3 バロック式に修繕せらる、大體はロマネスク式、Pfeiler Basilika；

6) St. Jakobs-Kirche (Schotten-Kirche),
1110創建；1152～84頃再建、ロマネスク式 Stulen Basilika；Nord Portal は特に注目に値する
奇妙なる空想的の人物、動物の石彫を配し中央に 基督と使徒の像あり、恐らく惡魔の世界より魂を救出す表象ならんかと想像せられてゐる

7) Walhalla,
Regensburg, の東方凡十粁、D nau 河斷崖上96米突(海拔 411 米突)にあり外形は Parthenon に摸す、"Tempel deutscher Ehren", 古來より獨逸にて傑出せる有名無名の士のために、1830年 Ludwig I 帝定礎せられた、Wilhelm I 帝は1898年に、Bismarck は1908年に、Moltke は1910年 Wagner は1913年、それぞれその內に加へられた

8) Befreiungshalle,
町の西南凡三十粁、Michaelsberg の上にあり
Leipzig, 戰の五十年の紀念に同じく Ludwig I 帝に1842年工を起さる、外觀はクラッシルク式圓堂である



獨逸で感じた事ども

小川市太郎

戰後とは見違へるばかり

六年前私が伯林に行つたときには、ボロ〳〵の補布（つぎ）のあたつた衣服を着た大人や、素足の子供等が往來にうよ〳〵してゐたが、いまは全く素足の子供も見へず、往來を歩く人の服裝なども當時に較べて見違へるばかり立派になつた。ウエルトハイム（伯林の三越）あたりにしても、この前私が伯林に居つた時には、碌な品物一つなく、實に淋しいものであつたがこの頃はナカ〳〵どうして、相應な高價品も陳列せられて繁昌してゐるし、そこいらの料理屋やカフエーに飛込むで見ても、千客萬來の盛況で、大勢の男女は盛にビールの滿を引いて樂しげに笑い興じて居るなど、戰敗の氣分などは何處にも認めることは出來ない。それから又方々の化學機械の工場や飛行機の製作所などに行つて見ても、大きな煙突から盛に煙を上げて、何千人かの職工が忙がしく立働いて居るので、復興の氣分は到る處に漲つてゐるやうに見へる。そこで私も初めは一般の旅行者と同樣に、この分では獨逸も戰前の狀態に復するのは、近きにありと思つた。

實業家側の悲觀

ところで段々獨逸の實業家の話を聞いたり、數字に現はれた經濟狀態から判斷すると、獨逸の前途はまだ〳〵容易に樂

觀を容さないものがある。獨逸は例のドウズ案を採用して、之を實行して以來、貨幣の相場も安定し、獨逸のマルクはその後英國のシルリングと略同一の價格を保つてゐるのを見ると、獨逸現下の經濟狀態は如何にも良好であり、且つ順調に進むで行つてゐるやうであるが、その實最近の獨逸に於ては金と品物が高いために、自國の製品は外國に賣れず、反對に外國品がドシ〳〵國内に入つて來るので、昨年の如きは八月まで〴〵廿七億馬克の輸入超過を見るに至つた。獨逸は戰爭のために、殖民地を全部失つた上にも、國内の重なる富源を取られて了つたために、必要な原料が安く得られないと云ふことは非常な苦痛であるが、獨逸の工業家に取つて何よりの打撃は、金利の無暗に高いことである。

クルップの縱覽お斷り

伯林あたりの重なる實業家の話を聞くと、昨年八月ミユンヘン市が米國で募集した市價の利率は七朱五厘であるそうだが、これなどは全く例外で、普通信用のある商人が獨逸の銀行で金を借らうとすれば、どうしても年一割二分の利息を拂はなくてはならぬ。そこへ持つて來て鐵道の運賃も、勞銀も原料も何も彼も無茶苦茶に高いから、どうしても算盤が採れず、如何にもがいて見ても事業には手も足も出ないと云つて居る。そのためであるか如何かは知らないが、漢堡あたりの造船所を窺いて見ても、目ぼしい船の註文は一つもなく、全く火の消へたやうな有樣であり、クルップの工場なども不景氣で仕事のないために、淋れた内幕を見られるのが厭さに、一切外國人の縱覽を謝絶するに至つたやうな始末である。

第二回賠償金の案が立ちない

こんな風であるから他は推して知るべしで、二流どころの企業家などは、手を拱いて何時か來るべき好景氣に、果敢ない望を繫いで居るやうな氣の毒な狀態である。たゞ染料であるとか、化學機械であるとか、或は藥品であるとか、獨逸でなくては他に出來ないものだけは特別で、世間の不景氣も知らず顏に依然として活氣を呈して居る。外國人などは、獨逸は綺麗に第一回の償金(ドウズ案に據る十億金馬克)を拂つたのを見て、獨逸人の懷にはまだ相應の餘裕があるやうに思つて居る者もあるけれども、それは甚だ皮相の觀察であつて、その實この次獨逸は如何にして第二回の償金を支拂ふべきかは、大なる疑問とせられて居るのである。第一回の償金にしても、實際獨逸の財布から吐き出したのは二億馬克の鐵道收入だけであとは全部借金で僅に義務を履行したに過ぎない。處で今後そう何遍も〳〵借金で償金を返して行ける譯でもなし、伯林あたりの實業家などは、ドウズ案による第二回目の償金の支拂は、先づ難かしい者と見て居るやうであつた。近着の外誌によつて見ても獨逸政府は償金の支拂について泣言をならべて賠償委員に覺書を送つて居る。それであるから獨逸の財界は貨幣相場の安定によりて一時小康を得、外國からの借款によりてちよフと息を吐くことが出來たが、サテ之から如何にして借金を拂い、又如何にして國民の經濟を立てゝ行くかと云ふことになると、何の當てもなく唯成行に任かして行くの外ないといふ有樣である。

給料取の困難と青年勞働者の惡化

同じ獨逸國民のうちでも、地主と農業勞働者のみは、農產

物が騰貴したお蔭で景氣は好いが、商人階級は全くあがつたりで破産相次ぎ、官公吏、會社員等の俸給生活者はインフラチオン時代に殆んど一物を殘さず賣り盡した上に、財界安定の今日となつても、收入は物價の騰貴に伴はず、且つ近年に於ては事業縮少の影響を受けて失業者が續出しつゝあるに加へて、工場勞働者の狀態も決して一般に良好であるとは云へない。殊に革命後社會主義が熟練勞働者の賃銀と不熟練勞働者の賃銀を平均せしめたゝめに、獨身者の青年勞働者は戰前に比較して多くの所得を得て享樂に耽りつゝあるに反して、多數の小供を有する熟練勞働者は非常に窮境に陷つてゐる。非常な耐忍力と非常な勤勉心と科學及び機械の天才を有する獨逸國民のことであるから、何とかしてこの難局を切拔けるだらうとは思ふけれども、四圍の事情が右の如くであつて見れば、獨逸が戰前の狀態に復するのは容易の業でない。殊に轉變極りなきインフラチオン時代の惡影響を受けて、國民一般に勤儉貯蓄の美風を失い、多くのものは取るに從つて之を消費するやうになつたために、生活の安定と餘裕を得ることが頗る困難になつた。しかも今やこの窮境から脫するためには國民全體が極度の奮勵努力を爲さねばならぬ時であるにも拘はらず、社會主義の八時間勞働制が累を成して、嘗ては非常に勤勉であつた勞働者も今日では規定の時間以外には全く働かうとせず、彼等の多くは夕刻早くから酒場に入つて女と戲れたり葉卷をくわへて街をぶら〳〵歩いて居るやうな有樣であつて見れば、獨逸が今後の經濟戰に於て、果して外國に對して有利な競爭を續けて行くことが出來るか如何かは疑問である。或る學者は餘裕を善用する用意と工夫のないものに餘裕を與ふのは却て遊惰と墮落に導くものであると云つたが昨今の獨逸の勞働者などは確かにその一例である。

大人氣のヒンデンブルグ

それから次は政治であるが、之れもいまの所では先づ安定したものと見て差支ない。私の居つた頃は國民黨に屬する三大臣はロカーノーの條約に不滿を懷いて辭職したために獨逸の政局はゴタ〳〵して居つたが、之れも大したことなしに收まつた。殊に大統領ヒンデンブルグが國民の人氣を一身に集めて立つて居る所を見ると、如何にか政治の難局を切拔けて行くであらうと思はれる。元來獨逸人は英國民と違い、軍閥と官僚に指導せられて來た國民であつて、全く政治の訓練を缺いで居るから、帝政を倒して共和政治を施いて見たところが、その結果は巧く行かない。一九一八年の革命當時、社會民主黨が大捷を博したが之れも間もなく三つの重なる黨派と二三の附屬黨派に分裂し、今日では八つの政黨と無數の譯の分らない小黨のやうなものが對立して居る。併し之れも過渡時代の現象であつて結局は社會主義に對する反動氣分の盛になるにつれて、ヒンデンブルグか何れかの勢力の下に鞏固なる官僚的共和政治が樹立するのではないかと思はれる。昨今獨逸國民間に於けるヒンデンブルグの人望は非常なもので彼れが自動車で大統領の官邸を出入する時には、大勢の人が官邸の前に群衆し、脫帽して敬意を表して居るやうな有樣である。前大統領のエベルトの時には、宴會の席上などでも一般のものが「馬具屋の親爺」などゝ云つて蔭口を叩いたほどであつたが、ヒンデンブルグに對しては國民の多數は心から尊敬して居るやうである。昨年十月私がライプツヒに行つた

時或るカーフェーに飛込むと、正面の處にヒンデンブルグの大きな油畫の肖像が壁間高く掲げられて、大勢の青年がビールを飲みながら勇ましく歌つて居るので、何事が始つたのかと訊いて見ると、此處のカーフェーの主人が大のヒンデンブルグ崇拜家で、同好の青年が毎晩此處に集つて飲みながら大に國政を談ずるのだそうである。

依然たる軍國主義

尚ほ獨逸に於て最も痛切に感ずのは　依然として軍國主義の盛んなことである。獨逸の軍隊は今日十萬人に制限されて居るが、この外に憲兵が十八萬人居り、巡査といふのもその實立派な軍事的敎練を受けたものであるから、獨逸の武力は今日でも實に侮るべからざるものがある。それに加へて都鄙到る處の青年團は、何れも軍隊式に編成せられ訓練せられて居るので、之れが活躍し出した日にはその勢恐るべきものがあらうと思はれる。のみならず獨逸は今日全く武器を取上げられて丸腰の姿にはなつて居るが、民間飛行の名の下に盛に飛行機を製造して居るのであるから、お隣の佛蘭西あたりで獨逸をこわがるのは無理はない。さらばと云つて、一部の人の考へて居る如く、獨逸が再び軍國主義の帝政に立戻るやうなことは絶對にあるまい。前カーザーは今日全く獨逸國民に信用がない。下宿の主婦などに訊いて見ると、吾れ〳〵は前には彼れを神の如く思つて居つたが彼れはトウ〳〵吾れ〳〵を裏切り、吾れ〳〵を欺した。しかも國民の最も敬愛する貞淑な彼れの皇后が亡くなると直ぐにたいも知れない外國の女と結婚するなんて何事かと云つて憤慨して居る。ポツダムの皇后の墓には今も花輪が絶えないが、カーザーは全く國民から忘られて了つて居る。

目につく郊外殖民地

それから獨逸を旅行して最も目につくのは、都市の郊外到る處に小さな農園の經營の盛んに行はれて居ることである。郊外に於ける農園の經營は、私がこの前獨逸に行つた頃からボツ〳〵行はれて居つたが、今度行つて見るとそれが非常な勢で普及せられ、今日では漢堡でも伯林でも大都市の郊外は殆んど隙間もなくこの種の農園に圍まれて居るのである。郊外殖民と云ふのは主として中產階級のものが二三十坪乃至五十坪ぐらいの土地を借受けて、日曜日と仕事の餘暇に其處へ出掛けて行つて、家族と共に馬齢薯や、野菜乃至は草花などを培養するのであつて、之れが一家の經濟と家族の健康を助くる上に非常な効果があるので、各都市では盛んに之を奬勵して居る。そうして此等の小農園の周圍には極めて簡單な垣根が設けられて居り、中央には僅に膝を容るゝ許りの小屋が立つて居るので、鳥渡見ると日本の梨子畑によく似てゐる。獨逸の郊外殖民のことについては、大阪市助役の木南君がよく調べて來た筈であるから、委しいことを知らうとせらるゝ人は、同君について聞かれることをお勸めする。尚ほもう一つ獨逸で感じたことは、大都市に於ける道路の改修工事の盛なことである。伯林の道路などは戰爭直後に於ても、少しも破損して居らず實に立派なものであつたが、今度行つて見ると市内と郊外に渉つて方々で盛に道路を修築して居る。これは一つは失業者救濟の目的に出でたものであるそうだが、何れにしても彼の窮餘の獨逸が如何なる場合にも道路の改善を忘れないと云ふことは寔に感心な次第であつて、日本なども大に學ぶべきことであると思ふ。



悩めるS建築士へ

田中美一

敬愛するS君

御手紙再讀、三讀、內的自我の分裂に苦しまれてその統一原理を求めんとしてこれを得ず、惱ましい精神的爭闘の日を送られつゝある君の心持は私には良く解ります。

「自らを罵りつきず仰向けに寢る」

一切の社會的地位と名聲をすてゝ、ヨリ良き世界に生きんがために彷徨ひの旅に出た尾崎放哉の激げしい自己省察より生れたるこの句は鋭敏な理性と良心の持主の傷ましい心持ちを如實に物語つてゐます。

私は今、騒々しい事務室の一隅にあつて、私が如何に自己と世界とを觀、內的自我の統一原理を何處に見出したかに就いて書き送らうとしてゐるのです。然しながら此處は哲學的な思索をするにはあまりに相應しからぬ場所です。電話のベルの頭にきしむやうなひゞき、算盤の音、話し聲、それらは極端に私達の神經を傷め『靜思』を奪ふ恐ろしい惡魔のやうに聞えてきます。近代の產業組織の呪ふべき缺陷は人間を機械化すると云ふことです。或人は『人間は「靜思」の時を有しない方が幸幅だ。人生は結局暗黑と廢頽のみなのだ。宗教家や哲學者などが神だとか光だとか云へば云ふほどそれは人生が如何に無意味なものであり、暗黑なものであるかを證明するに過ぎないのだ。理性と良心が遲鈍になつて、唯「忘却」の世界に生きる方が遙かに幸福だ。「忘却」！そうだ、それこそ人間に殘された最後の隱家だ』と、私はこうした思想を有してゐる多くの人々に出會ひます。然し人生は此人達が考へる程そんなにつまらないものであらうか！。私達の內的生活を統一し、人生の旅をつゞける私達に喜びと望みと感謝を與へてくれる様な生活原理が果して存在しないのでせうか。私は一の生活原理を知つてゐます、そうして私がその原理に從て生活し、その原理を至上に愛する時、私の胸の中には云ひ現は

し難き喜びと感謝が湧いてきます、その原理こそはカントが實踐理性の法則と呼んでゐるものなのです。私の貧弱な哲學的素養を以てしては偉大な哲學者が畢世の努力の結果、生み出したこの原理の峠を登ると云ふことは殆んど不可能のやうに見えます。しかし私は理解の許さるゝ限りに於て私の眼に映じた此豊蓉なる原理の峠を登らうと思ふのです。

原理の峠を登る準備として先づ第一に考へねばならないことは私達が生きてゐると云ふことです。この假定を許さなくては一切の私達の思索は無意味となるからです。私達は生きてゐる！、此假定は直ちに古來數千年來人類を惱まし又將來も惱ますであらう所の大きな問題、即ち私達は如何に生くべきかと云ふ問題を生じてくるのです。如何に生くべきか！、何と云ふ重大な問題でせうか、鋭敏な良心の持主にとつては此問題の解決なしには生きてゆけないのです。私達は今、生きてゐると云ふことを是認しました。生きてゐると云ふことは何事かを爲さんとすることです。生きてゐると云ふ事は私達の意欲を外部に表現して何か行爲せんとすることだと云へます。私達の意慾は環境に向つて働きかけるのです。環境を通じて自己を表現しやうとするのです。

次に考へたいことは私達の意欲を如何なる方向に實現すべきかと云ふ問題です。人間には如何なる方面に意欲を實現すべきかに就いて全く自由が與へられてゐます。道は多岐です從てその目的地も多數です。しかし注意しなければならないことは、私達に自己の歩むべき道を撰擇すべき自由が與へられたからと云つて、その自由を誤用してはならないと云ふことです。朝に甲の道を歩み夕に乙の道を撰ぶと云ふが如き主義定見のない生活してはいけないと云ふ事なのです。私達の意欲が環境に向つて働きかけるとき、如何なる方向を採つても良いと云ふなら、人生は空であると云ふに等しいのです。と云ふのは人生は私達の行爲の連鎖であり、行爲は私達の意欲の表現であるからです。私達の意欲の表現に就いて一定の法則がないとするならば結局それはどんな人生が構成されても構はぬと云ふことゝなり、人生は無價値となるのです。であるから私達の意欲はどうしても或る一定の法則に從つて實現されてゆかねばならない。然らば私達の意欲の從ふ一定の法則とは何であるか。一體そんな法則が人生に存在するのであらうか！。若し存在するとするならばその法則の性質如何の、そうした問題が起つてきます。

意欲の從ふ法則の性質として第一に擧げたいことは、その法則は普遍性を有せねばならないと云ふことです。特定の時代特定の地方でのみ行はるゝ法則であるならば、それは私達にとつては權威のないものです。如何なる時代に於ても如何なる國に於ても行はるべきものであらねばならないのです。

第二の性質として私は必然性を擧げねばなりません。その法則は當然何人にも行はるべきものなのです。自分は嫌ひだからその法則には從はないなどと云ふ選擇が許されないものなのです。從つても從はなくても、どうでもいゝと云ふやうな法則なら私達の理性に對して何の力もありません。

第三の性質として若し人生に何等かの意味があるとするならば、それはこの必然性を有する法則に現はれなければならないと云ふことを云ひたい。何故ならば人生は私達の行爲のつながりであり私達の行爲は意欲、換言すれば生命の表現で

あります。しかるに私達の生命はこの必然的法則に則ることに由て自らを實現しなければならないとすれば、かくして實現された人生は結局は、この法則に由て産み出されたものにすぎなくなるからです。即ち人生に意味を與へ價値を與へるものはこの法則以外にないのです。

第四の性質としてその法則は私達の意欲自らが造つたものでなければなりません。私達の意思は不羈奔放であつて何者にも拘束されることを好みません。ですから此の自由なる意思が從ふ所の法則はどうしても意思自らが造つたものでなければなりません。自由なる意思自身が自己の從ふべき法則を造る時、此の意思を哲學上實踐理性と呼ぶのです。

以上に於て私は普遍性必然性を持つた法則のことを述べましたが、その法則は次のやうに云ひ現はすことが出來ます。

「私達の行爲をして一般的法則に從はしめよ」

次に考へたいことは私達は漫然として此の法則に從つて行爲するのではありません。私達の行爲には何か其處に目的がなければなりません。而もその目的は如何なる時代と場所とを問はず最も價値あるものでなければならないのです。私達の行爲の目的が人生に於て最も價値あるものである時にのみ最も意義ある人生が構成されるのです。時間、空間を超へて其處に眞の價値を有するものは『理性』に外ならないのです。理性が存在する限り私達は、價値判斷をなし得ます、即ち理性は價値の價値であり、價値の根元なのです。其處で第二の法則が生れて參ります。即ちそれは

私達の行爲をして理性たらしめよ

です。私達の生命即ち意思は自己の從ふべき行爲の法則を産み出す時その根底に於てそれ實踐理性であると申しました。しかし私達の實踐理性には多くの不純物が混合してゐます。私達の行爲をして純粹なる『理性』を目的として歩まねばならない、換言すれば不純なる理性が純粹なる理性そのものとするために以上に述べた一般的法則に自らを則とらしめねばならないのです。而もこの目的のために精進努力する所に私達の理想が出現するのです。それは私達の生命のうちに完全に理性そのものを體驗すると云ふことなのです。こゝにのみ人生の意義があり偉大があるのです。

ですから人生は決して無意義ではないのです。私達が眞理に生きる爲に拂ふ苦悶と努力は決して徒事ではないのです。眞理に生きたものは死ない、其生命は永遠です。何故ならば眞に一般的法則を實現する事の出來た生命は最早個々の人の生命ではなく人類其ものゝ生命だからです。最も高き生命を神と呼ぶならばその生命はすでに神に外ならないのです。

敬愛するS兄、拙い筆を以て長いものを書いて仕舞ひました。建築事業は神より人間に與へられた最も愉快なる仕事です。其處には人間の良心を傷めるべき何物もありません。どうか、ヨリ深き自己省察の底に喜びの泉を見出し給はんことを。苦惱なくして人生に眞の喜びはありません、苦惱は喜びの世界への唯一の橋です。くれ〴〵も自重して選ばれたる戰士としての使命を果し給はんことを。私の拙い文が兄の暗い心に一つの小さい光を與へることが出來たならばそれにまさる幸福はありません。



江間式の名人
波江悌夫氏

T N 生

建築家仲間で隨分風變りの人も居るがその中でも最も毛色の變つた人達を數名御紹介することゝも一興

「課長もう結構です」

大阪市の營繕課長波江悌夫氏と云へば知る人ぞ知らん、江間式氣合術のオーソリイティーである。先生人を見れば即ち招きて先づ問ひをかける「君は何處か病氣はないかえ」と來る。若し「はい何々がわるくて……」とでも答へやうものなら最後、もう逃げやうたつて何うしても逃がしてくれない「まあ坐り給へ」腰を掛けさして眼をつむらせると「ひとーつ！ふたーつ！」と何だかくすぐつたいことをする。それが止んだかと思ふと、「エイ！エイ！エイ！」と頭から唾をかけられる。



「何うだ君、なほつたらう？」

こゝでちよつと心得て居なければならん秘訣がある「なほつたらう」と云はれたから「なほつた」とはつきり答へることである。「えゝ少しよくなつたやうな氣もします」或は「いやちつともよくなつたやうに思ひません」とでも云ほうものなら、あとがうるさい。「君四五日僕の處へ通い給へ、それとも四時過ぎだつたら役所へ來給へ」と來るからたまらない。これだけは心得て居なければならん。

某氏が嘗てこれをやられたとき「いや僕は別に惡くはないのでおかげ樣ですつかりよくなりましたか惡いのは家內です」「あゝ君の細君がわるいのか、何處が惡いのだ……何？胃腸か？、それは氣の毒だ今晚行つてあげやう」晚飯をすますと早速訪づれたのは某氏の自宅「やあ今日は失敬、奥さん居るかへ」座敷へ通ると約一時間江間式の講義あり、それがすむと例の「ひとーつ！ふたーつ！」が始まり「エイ〳〵」をやつて見たが奥樣は一向よくなつたとは云はなかつたので先生首を傾け「そんなことはない筈だが」「じやあもう一度」と云ふので今度は上向けにねかしてその上に馬乘りになり「ひとーつ」「ふたーつ」とやり出したので某氏も見るに見かねて「課長もう結構です、大變よ

くなつたやうです」「いやもう少しやればすつかりよくなるよ」先生飽くまでも眞面目だからたまらない。

電燈に氣合

先生或晩拙宅に來られた、折惡しく停電した「電氣でも氣合でつくものだ」「いくら氣合でもそれは駄目ですよ」「君達はまだ氣合の何たるかを知らないからいけないのだ、まち給へきつとつけて見せるから」

「エイ？エイ！」いくらやつてもつかない「そんなことはない筈だ」「エイ！エイ！」十分間もやつて居るうちにパッとついたかと思ふと又消えた「それ何うだ、やつぱりつくよ、もつとやればいゝんだ」更に聲を張りあげて「エイ！エイ！」パッとついた、先生得意滿面！。

先生の氣合は莫迦に效を奏すると云ふので一日京都大學で江馬式の講演をたのまれた。講演終つて直ちに實演と云ふので早速左の腕をまくつてピンを突き通さうとしたが生憎持合せのものがなかつたので、學生の一人が五寸釘を持つて來た、「ふんこれは少し太とすぎるね……まあやつて見ようか」滿身に力を入れて「エーイ！」左の腕を突き通したのはよかつたが、餘りに太過ぎた爲出血甚しく見る〳〵先生の顏色はさつと蒼くなつた。

「先生痛みますか」

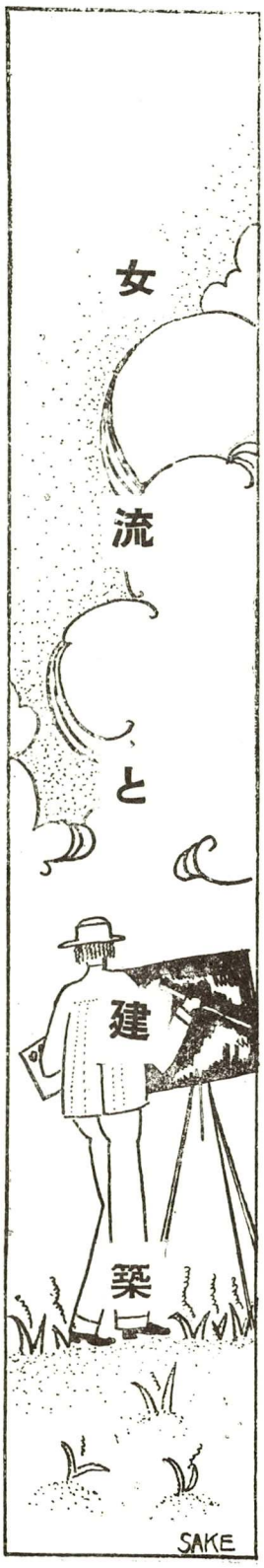
「ふん、少々……大體ピンが太と過ぎた早く拔いてくれ」はよかつた。

先生は江間式の外講談物は嗜きで殊に維新史と來ては詳しいものだ、市役所の食事の時間に伊藤、中西等の乾分を從へて食堂に入る、ふとした話のはづみで阪本龍馬でも出て來やうものならたまらん、遂に長講一席「やあもう四時だ、けふはもう歸らう、君達今晩は暇かへ、何處かで晩飯でも食つて續きを話さう」一川柳に曰く「親類だけに二段きゝ」。

日本海の海戰

先生は嘗て關西商工學校の講師をやつて居られた時のこと丁度「建築材料」の時間であつた、大理石の講義から東宮御所の大理石の話になり「あれを日本へ持つて來たのは丁度バルチック艦隊が支那海へ來たと云ふので運搬に一入苦勞したものだ」から話は遂に日本海々戰に移り「時は明治三十八年五月二十七日正午を過ぐること半時、濟州島の沖はるか煤煙一つ又二つ旗艦スワロフを先頭にオスラビヤ以下數十隻、二列縱陣嚴かに波を蹴立てゝ進んで來た、この日信濃丸よりの無電にて萬事を承知した我東鄕司令長官は部下に令すらく「皇國の興廢此一戰にあり各員一層奮勵努力せよ、云々」から「我艦隊は主力を全部こゝに集中し、旗艦三笠を始とし、敷島、朝日、富士、日進、春日と云ふ順にヌッと敵前に雄姿を現せばうろたへたのは敵將ロゼエストウエンスキー……」丁字角の陣形から左十六轉回轉法から微に入り細に亘りての話に思はず時間を過ごし、「もう何時だ」「先生二時間遠ふの昔に經ちました」

「あゝそうか、建築材料の時間だつたねまあ材料よりこの方は肝腎だ—」は笑はせる。



素人の眼に映じた建築

平田春江

わたしたちの想像がゆるされるならばその太古の天地根元宮造から——現代の洋風建築に至るまで、其處には人類の生活史がまざ〳〵と廻轉されて頗る興味あるものがあると思ふので御座います。地勢が國民性を形造るに、重要な關係を持つてゐることは、今更らわたくしなどがかれこれ申すまでもなく、既に專門家の方々が立派な研究をとげてゐられるとで御座いますから、此處にそれを繰り返す必要はないと思ひますが、たゞわたくしどもは、わたくしたち日本人として、その過去にさかのぼつて、穩かな性質が地勢から來て居り、爰に建築もまた優美に且つ細かな技巧を愛するやうになつたといふことを忘れてはなりません。寢殿造や、書院、茶室など、みな自然を取入れて巧みに建築と調和せしめたものであつて、これらはすべて地勢そのものから出發して、永い傳統が更らに一層それに磨きをかけたものだと考へるのが至當だと思ひます。

次には氣候で御座います。これもまた建築學上少しでも專門的智識をお有ちの方なら、忘れようとて忘れられない根本問題でありますが、しかし、わたしどものやうなアマチユアーには時にかうしたことは忘れるともなしに忘れられがちのもので御座います。縱し忘れないまでも、近代に這入りましては種々の點で可也大膽に無條件に洋風が取り入れられた結果時にはこの氣候といふことが相當建築上重大に考へられながらも、甚だ不自然であり、美の究極に於て無理だと思はれる、ことがないとは云はれません。ですから古代建築に就いてして見ましても、その家屋の周圍に墻壁を繞らしてなかつたものが、年代を經るにしたがつて次第に防備樣になつて來たことも見逃せないことがらで御座います。更らにまた、氣流に對する方法として何處までも建築が開放的であつたこと、——かういふことを

通じて觀た日本人の生活、日本人の住居といふものには一言にして盡せば地勢といふものがどれほど根柢をなしてゐるかわかりません。尤もこのとは獨り日本ばかりの問題ではなく、世界各國到るところ、その太古はさうした路を辿つてゐたことは想像されますが。で、要するに孰れの國、孰れの民族でも、その建築の背後にはかならずや地勢、氣候、建築材料の三條件あり、これによつて人類生活を支配して居ることは明白な事實で御座います。

けれども、それが幾世紀かの間には文物の交通文化の侵入によつて、著しく變化を招くことは、わたしども祖先の日本歷史が最も雄辯に物語つてゐると思ひます。

さて飜つてわたくしたちは、わたくしたちの祖先の住居と今の身邊を眺めて、それは餘りにもへだゝりのあることを痛感いたします。民族が永い傳統と、その遺傳としての趣味なり特徵を少くともその過去に見出すものであるならば、わたしたちは今日の社會が餘りにも甚だしい變化であることに驚嘆せずにはゐられません。若しも民族が民族自體の生活を尊重するならば——殊に我が國のやうに或る意味で最もクラシカルであることを誇りとする國民にありては、それがたとひ如何なる理由があるにしても、そのオリヂナルを捨てゝ、近代の如く一も二もなく imitated civilization に趨るといふことはどういふものでせうか。

勿論、わたくしは建築學上今日のやうな大勢に向つたことを云はんとしてゐるのでは御座いません。しかし恐らくは日本ほど世界を通じて無條件でその傳統をかなぐり捨てんとしてゐる國家はなからうと思ふので御座います。そしてそれが建築學上よいことか悪いことか、わたし自身それを云ふ資格をもつてゐないのですが、今から約二十年も前獨逸のある建築學者の筆になつた『日本建築史』のなかにもさうした皮肉が投げられてゐるといふことを聞いたことが御座います。そしてさういふ言葉を聞いて、文明國を以て自任する歐米の建築の變遷のことを考へたい。東洋でも殊に支那と日本の變遷を比較して見たりいたしますと、そこに何かしら餘りにも日本人のプライドが傷けられてゐるとさへ思はれることがあるので御座います。これは何故でせう。

日本に大建築が生れなかつたのは、箱庭的地勢と地震が多いためであると聞いてゐます。それと同時に、日本在來の建築が瀟洒であり、淡白であり、輕快であることは世界にその比を見ないところだとも聞いてゐます。

夫が佛教傳來と共に、何時の時代にか國内の戰爭となり、築城學が研究せられそして其處には嚴然とブルヂョア階級とプロレタリアートとの區別を見出す樣になつたのでせう。城廓をもつことが唯一の生活を守る手段方法となり、退いてはさうすることによつて生活安定者であるとさへ見做れるに至つた間には、住居は一切の人格の具體化であり、生活のシンボルであつたわけです。そして此時代に於ては、あらゆる方法をもつて、中にあるものを美化すると同時に、凡ゆる方法で他を威赫しやうとしてゐたものでせうこの傾向がそのむかし萬里の長城を築いた心理と同じであるかどうかは知りませんが、若し萬里の長城を築いた動機がまつたく他の侵掠を恐れた餘りとせば、これは今少し復雜な心理の下に動いてゐるやうに思はれます。

さうして時代が近世になればなる程こ

の人間生活といふものがまつたく生活様式そのものの奴隷となつて來た譯です。從つて今日に於ては立活な住宅を所有すること、立派な住宅に起居することはその人の一切を決定する最大の鍵となつたわけです。かつては、わたしどもが生活手段として造つた機械が、今日その機械によつて生存せねばならないやうになつたと同じやうに。これは明かに手段が目的を支配する顚倒です。誰が觀たつて錯覺の文明に違ひありません。しかし近世に至つてはます〳〵この色彩が濃厚になりて來たわけです。そして今やこの傾向は過去の日本建築といふものを、更らに一層根本から破壞して、其處にはかつてまつたく想像さへ容されなかつた大ビルディングの世界を實現したので在ます」

地勢から觀て、風土から考へて、其他あらゆる點でそれがよいか惡いかわたしには勿論わかりません。たゞ兎に角過去十年間だけでもまつたく隔世の感あることだけは慥かです。

かくして大震災後の東京は、來るべき大東京として、更らに燦然たる洋風の大都會となることでせう。大阪が、難波のむかしから永い町人都市を經て、今日大阪を實現したまでには、其處には當然さうせねばならなかつた必要そのものがあつたには違ひありません。しかし一歩退いてわたしたち日本人としての何物かを考へたとき、素人瞳に映じた今日の建築が、餘りにも日本人といふものを無視してゐるやうな氣がするのです。其處には跡方もなく傳統も捨てられ、個性も捨てられて、たゞ資本主義が產んだ錯覺文明のシンボルとしての大建築が聳え立つてゐるとばかり感じさせられるのです。

住宅の起源が威嚇と防禦から來てゐるのかどうか、それもわたしにはわかりません。仕事そのものに意義さへあれば、大小は固より問題ではありませんが、むかしの人が「大きい」といふことに意義を見出して、そこに人間的威力を實現しようとした時代ば、まだ愛すべき點があつたと思ひます。ピラミッドやカルナックの石殿や萬里の長城は、當時の人がどうして作つたかは暫らくおいて、兎に角自分の威力をそれで示さうとした點、その稚氣は愛して餘りあります。

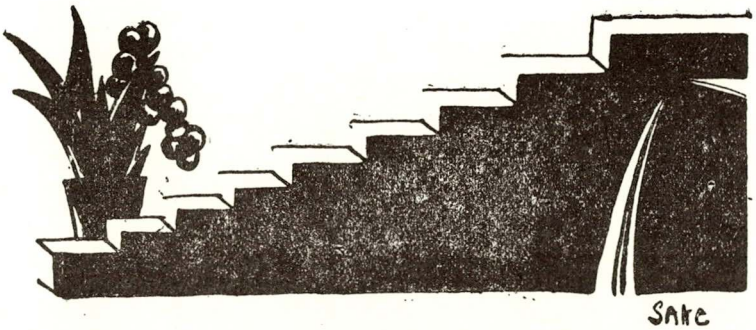
それが今日ではまつたく異つた心理から出發してゐると思はれます。若し今の世にさうした大建築をするとしても、恐くは何の動作もなく智恵と機械と動力は三日見ぬ間に「アッ」と云はせるでせう。

だが、わたしたちは其處に何かしら一種云ひしれぬ深い寂寥を感じさせられます。さうしてわたしたちのやうな日々東奔西走してゐるものが、時に大きなビルディングに吸ひ込まれて、その一隅に、こつ〳〵と仕事をするとき、そしてまた夕べ家路を辿るとき、あほぎ見る大建築物！わたしは建築が持つ魅力と威嚇に戰慄させられます。

以下わたしは素人として、わたしの瞳に映じた二三を何れ機を見て思ひ出すまゝに記して見たいと思つてゐます。

× ×

大阪電氣軌道株式會社 上本町本館建築概要



位置 大阪市天王寺區上本町六丁目一番地

敷地面積 三千六百坪

建坪數 一千百五十七坪八合九勺

內譯

本館 四百五十坪四合六勺

乘車ホーム上家 四百六十六坪三合三勺
降車ホーム上家 百二十坪
地下道上家 八十二坪六合
降車口上家 三十八坪五合
總延坪 三千五百五十五坪一合六勺（プラットホーム下物入ヲ不含）

本館

建坪 四百五十坪四合六勺
總延坪 二千八百四十七坪七合三勺

內譯

地下室 四百六十八坪七合
壹階 四百五十坪四合五勺
中貳階 十九坪九合
貳階 四百二十六坪七合二勺
參階 四百二十八坪八合二勺
四階 四百二十八坪八合二勺
五階 四百二十坪七合一勺
六階 百三十六坪八合二勺
七階 六十六坪七合八勺
從業職工延人員 八萬五千六百餘人
地鎭祭 大正十四年九月二十九日
起工 大正十四年七月一日
竣工 大正十五年八月三十一日
工事期間 壹ヶ年貳ヶ月
建築樣式 近世式
階數 九階（地下室共）
建物高 正面最高部迄九十七尺八寸

工事費 金百拾貳萬四千圓

內譯

本館 金九十一萬圓
瓦斯暖房衛生工事 金七萬四千圓
昇降機 金四萬六千圓
電燈、電力設備 金六萬三千圓
電話其他 金三萬一千圓

各階諸室の配置

地下室 日用品市場、小食堂、倉庫、冷藏庫、暖房室、配電室、其他
壹階 乘客待合所、運輸課事務室、百貨店、銀行、郵便局、賣店、其他
中貳階 會社事務室
貳階 直營食堂、百貨店、理髮室、其他
參階 直營食堂、休憩室、百貨店、其他
四階 會社事務室及貸室
五階 會社事務室
六階 娛樂室其他
七階 集會室其他
其他昇降機室、階段室、洗面所、湯沸所、便所等各階適宜ニ配置ス

構造の大要

『基礎』地盤土砂層ノ上、鐵筋コンクリート基礎ヲ形成ス
『壁體、床、柱』鐵筋コンクリート造ニシテ壁側外部ハ花崗石及人造ブロックヲ使用シ其他ハ擬石塗ヲ施ス
『屋根』鐵筋コンクリート造陸屋根トシ防水工事ヲ施セル上藥掛タイル敷トス
『內部壁面』內壁及間仕切壁ハ主トシテプラスター塗及擬石塗トシ、特殊ノ室ハ其上部ヲ塗料ニテ色付シ尙日華石、タイル、木材

腰羽目ヲ施ス

『床　面』地階床ハ倉庫、暖房室ヲ除キ總テタイル敷トシ、第一階大廣間アスファルトタイル敷トス。銀行、客溜、商店等タイル敷、營業室ハリノリユームヲ其他ハ人造石塗トス。便所、洗面所、湯沸場ハ凝石タイル敷トシ、其他リノリユーム敷トス。階段及廊下ハ人造石塗トス

『天　井』白色プラスター塗ヲ主トシ、各彫刻ノ部分ハ石膏仕上トシ、特殊ノ室ニハ塗料ヲ以テ着色ス

『各階窓及出入口』外部ノ窓枠、障子共、鋼鐵製上ゲ下ゲ窓ヲ使用シ、主要出入口ハ鋼鐵製唐戸又ハ腰唐戸トシ、尚スチイールシヤッターヲ主要部ニ設置ス

『階段室』主要階段ハ一階地階間ハ五ケ所各階三ケ所、總テ鐵筋コンクリート造トシ蹴上及踏面ハ凝石塗研出シ仕上トス。手摺鐵筋コンクリート造トシ内側凝石塗研出シ外側プラスター塗仕上トス。

『昇降機』人員昇降用三基料理用一基ヲ設備ス

『給水設備』屋上塔屋内ニ鋼板製水槽ヲ設置シ、地階ポンプ室ニ設備セル電動機直結（渦巻ポンプ）四基ニヨリ水槽ニ上ゲ本槽ヨリ始マル給水管系ニヨリ館内便所、食堂、賄場等ニ給水ス。

『給湯設備』地階汽罐室ニ鋼板ボイラー及貯湯タンクヲ据付ケ食堂、各洗面所及給湯所ヘ熱湯ヲ供給ス。

『便所内洗面設備』和風及洋風大便器、四十八個、小便器五十六個、洗面器三十六個、噴泉一ケ所ヲ配置ス。

『消火設備』館内各階ニ合計十七ケ所ヲ配置ス

『汚水排除設備』便所、排水等總テ汚水ハ汚水淨化槽ニ導キ清淨ナル液體トシタル後下水道ニ放流ス

『配電設備』電氣方式ハ三相三線式二二〇V單相三線式一一〇Vトシ地下階ノ變電室内ニハ五〇キロ變壓器六臺及配電盤ヲ設置シ全階内ニ配電ス。

配線ハ全部オースチン會社製ガーランドチューブノ隱蔽工事ニシテ挿入ハ凡テブライアント製トス

『電話設備』第五階ニ交換室ヲ設ケ局線ヲ之ニ引込ミ此所ニテ接續シ各階各室ニ至ルモノトス

『電氣時計設備』第五階交換室内ニ親時計ヲ設置シ之ヨリ各子時計ヲ操作スルモノトス

『換氣設備』地階各室及厨房等ハ排氣筒ニヨリ電氣裝置ニヨリ之ヲナスモノトス

『避雷針』各塔屋及中央高塔ニ三基ヲ設置シ之ヲ井底ニ放電スル裝置トス

『暖房裝置』低壓蒸汽罐一個、他ニ給湯用汽罐一個ヲ設ケ各階各室ノ放熱器ニ配管ス

『メールシユート』中央エレベーター室ニ設置シ各階ヲ通シ投函シ得ル樣裝置ス

工事關係者

工事設計　大阪電氣軌道株式會社
　　株式會社　大林組
工事監督者　大阪電氣軌道株式會社

俳壇

齋藤溪舟選

初秋

初秋の朝風ふくや芋畑　紫波
初秋の星きらめくや今暮て　同
初秋や瀧のそれ水岩ばしる　同
初秋や靄流れ出る山の峡　同
庭の木に殘る嵐や今朝の秋　稻村
霧の中に咲く朝顔や今朝の秋　同
カアテンに初秋の陽や子供室　同
張物に秋立つ日影くなり　同
山宿のかたき枕や今朝の秋　朧月
初秋や大湖の上の雲一片　同
初秋や鰯來る午後の潮曇り　同
洗上げて麥藁帽や秋立ちぬ　無名氏
初秋の風すゝ庭の楓かな　同
初秋や露路を出づれば町夕日　陋巷子
秋立やみなしめてある長屋の戸　同
初秋や酌子によべの殘り酒　八鳥
糸瓜棚に朝顔久し今朝の秋　同
初秋の部屋廣々と掃きにけり　勘史
萩の前のベンチに秋は立にけり　同
初秋の壁塗つてゐる脊に夕日　六花
板ン打つて食報ずるや今朝の秋　同
新秋の湖晴れや鳥の影さして　猿人
陽に並ぶ軒の雀や今朝の秋　同
初秋や積草にふと日のいきれ　白羽仙
持佛堂初秋の陽の細くさす　同
城山へ百舌かけにゆく今朝の秋　朗ら
昨日替へし覓の竹や今朝の秋　同
雨に飽きし菜畑の色や今朝の秋　忠昭
初秋の日漏れ佗しや窓簾　同

孤圓子に

貧衲の袋縫ふ日や今朝の秋　秋雨露
秋立つや風に吹るゝ釣の糸　同
茹物でて炊に湯氣立つ今朝の秋　獨園
ぬりかへて橋のベンキや秋立日　同

食進む

窓あけて肌によき風や食進む　稻村
風呂水を汲をへて夕餉食進む　同
冲釣の大辨當や食進む　八鳥
食進み布團蹴のけて寢てゐたり　同
日曜の畑仕事や食進む　勘史
食進み長柄渡れば我家かな　同
秋腹や肥り子抱て湯あみする　紫波
食進む兒をおぞましと眺めもす　同
揚物の皿あたゝかや食進む　朧月
釣歸り夜食饂飩や食進む　同
早起の嚊を疊むや食進み珠舍
食進み門に持出す繩綯機　同
今夜きり踊りじまひや食進む　白羽仙
犬つれて散歩に出るや食進み　同
食進む我となりけり宵の秋　安樂子
また今日も寫字を續けぬ食進　同
皆な薪をわりしまいたり食進み　玄膽
柿とりに屋根に入るや食進み　同
進む食に門掃きに出れば海鳴す　頑拙
食進みの大鍋かけて自在かな　同
彼の僧の又來る頃や食進み　仙興兒
袷着て草をぬく日や食進む　同

大いに投句を迎ふ

■課題『稻』（稻熟す、稻うるゝ、稻田、稻雀、黃稻、何にてもよし、但し稻刈にあらず）『秋の雨』各五句まで

■期日　十月二十日限り

◆十一月發行本誌

■屆先　大阪市中之島江商ビル內日本建築協會

俳話

俳諧寺一茶

溪舟

われと來て遊べや親のない雀

これは俳人一茶の句だ。

けふからは日本の雁ぞらくにねよ

これも俳人一茶の句だ

やせ蛙まけるな一茶こゝに在り

やはり俳人一茶の句だ。

×

一茶はなりひれくれて育つて、ひれくれて世を渡つた爺である、彼れの日記を見、そして彼れの生活を考へ、彼れの句を思ひ合してみると、一茶といふ爺は、一風おもしろいところのある爺であつたかと想像されると同時に、かなり意地のわるい、取ツつきのよくない爺でもあつたやうである、だから彼れは到る處で、あまり人に好かれなかつたらしい、旅でも、故郷でも人に嫌はれて、眞に彼れを了解してゐるものでないと、大ていこの爺とはソリが合はなかつたであらう。だから一茶といふ爺は、世の中を白眼で睨み通して一生涯を終つてゐる。世の中は刻薄、人情は氷雪の如きものと思つて、この辛らさが骨身にこたへてゐる……それが、よく彼れの日記や何かにもあらはれてゐる。

×

それだから彼れは、自分への同情を世間や人間に求めずに、小さな鳥や虫けらに求めたり、與へたりしてゐる。つまり人間の世界から身を放して、動物の世界に魂を寄せたのである。

やれ打つな蠅が手をする足をする

といつてゐる。惡むべき蠅さへも憎めないやうである。

書の蚊やだまりこくつてうしろから

蚊でさへも別だん憎んでゐない。

蓑虫の運のつよさよ五月雨

煙して蝙蝠の世もよかりけり

母鳥が番して呑ます清水哉

×

一茶は、またよく自分を卑下した句を作つてゐるがそれがまた一面自分の『すれ性』をあらはしている。

石竹に二文の水をあびせけり

とか

庵の苔花さくすべも知らぬなり

とか、

錢なしは青草もみす門涼み

といつたやうな類ひである、それが露骨になると、

故郷は茨までとげを立てにけり

といつたやうな事もある。一茶といふ俳人は、斯うした爺で、斯うした境涯でその一生を終つてゐる。

×

この間三越に『一茶展』があつたので、阪上凡々君と一しよにいつて見た。

並べてある一茶の筆蹟には、いいものもあるが、またかなり偽物、イカ物も多かつたには一驚を吃した。ある鑑定家の談によると、一茶の故郷、信州方面から出品したものは大ていよいが、大阪から出してあるのはまづ大ていニセ物ださうである。

しかし斯ういふ書畫の類は、それを所藏してゐる當人が、これはンホ物であると信じてもつてゐれば、それでいいので、必しも眞にホン物であるかイカ物であるかを詮議立するには及ばない事である。

×

また或る人は、一茶の『木炭一俵あまり』云々とあるのを見て、

『あれは斷じてニセ物だ、一茶ともある俳人が、細かい金錢の事などに心をよせて、貧を氣にしたり、飾つたりするやうな事があつたとは思はれない』

と力んでゐた。しかしそれは力む人の方が間違つてゐるのであつて、一茶といふ爺は、自分を財乏のカスのやうに嘲つてゐるが、そのくせ、貧乏が大嫌ひの人間であつた事は彼れの生活ぶりを考へて見ても分ることである、彼れが日夕の出入り、十文二十文のしまつまでキチンと氣をつけてゐたところなどは、かなりインゴウ振りを發揮してゐるやうにも思へるが、しかし彼は、斯うしないと人間の敵の中で生きてゆく事が出來なかつたからである。

かわいさうな一茶よ。

× × ×

〔附　錄〕

航空機と都市の建築

片岡安

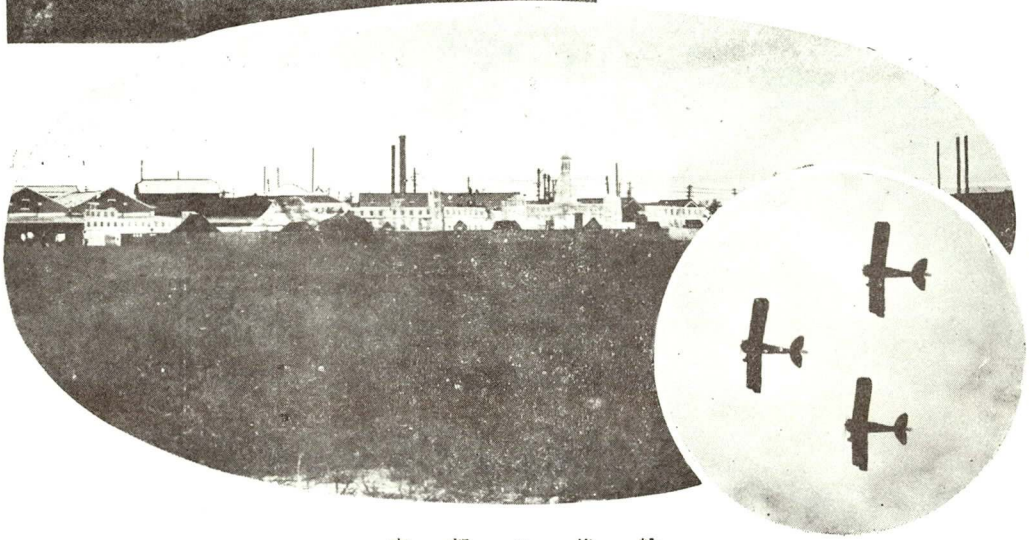
大正十五年十月一日、エヤアディスプレーに於ける講演

戰慄すべき我都市防備の缺陷

大正十五年十月二日關西エヤア・デイスプレーに於ける都市襲撃の實況



華花一朝の夢!!



海軍の爆撃機

市都の煥輪

我關西の地に於きまして航空機の如何なるものであるかと云ふ事を一般民衆に最も解り易く示さんが爲に、航空デーの催しがあることになりまして、其仕事の一部として講演會が催されることになつたのであります、無論此講演に就いては後程長岡將軍よりして世界の大勢と日本の現狀に就いて最も熱誠なる、又明瞭なるお話がある筈でありますが、私は航空機即ち飛行機の發達と共に大改造を要する我國都市の建築に就いて少しく申上げたいと思ふのであります。

我國の都市の建築が飛行機の發達に依て如何に脅されて居るかと云ふことは今日私が諸君に申上げるのは餘りに時代が後れて居ると思ふのであります、併しながら今日に至るまで約十年の間私共は飛行機に對する所の都市の防備を何故に怠つて居るかと云ふことに就いて相當に社會及當事者に愬へて來たのであります、大正七年に私は特に之を論文に致して當局に警告を加へたこともありますが、不幸にしてまだ其趣旨が一般に徹底いたして居りませぬ、仍ち本日此適當な機會を以て更に私共の主張を明瞭にしたいと思ふのであります。

飛行機の發達は今や驚くべきものがあります、機上に二噸以上の爆彈を積載して三百里五百里を往復し得るやうになつたのであります、諸君は曾て斯う云ふことをお聞きになつたことゝ思ひます、日本の都は海岸に近いからして、殊に帝都の如きは海に臨んで居るからして、飛行機の襲撃に對しては甚だ不利益な地位にあると云ふことを堂々と唱へた人がありますが、併しながら今日の飛行機から見れば、それが海岸にあらうと、飛彈の山奥にあらうと、綾部の中心にあらうと、さう云ふことは問題ではないのであります、浦鹽から日本の總ての都市を廻つて更に歸來することも出來るやうになつたのであります、又東京、大阪の如き大都市の家屋や人を全滅し得るだけの毒瓦斯或は燃燒材料を容易く運ぶことが出來るまでに發達して來たのであります、仍ち我國の都市は飛行機の前には風前の灯と云ふ狀態にあることは誰も之を否定することは出來ぬのであります、然らば飛行機の發達に依て世界の總ての都が脅威を受けて居るかと申しまするに、必ずしもさうではないのであります、御存じの如く歐羅巴や亞米利加では、飛行機の發達から考へ附いたことでもありませぬが、都市の中心に於ける建築物は不燃質の材料を以て出來て居ります、塲末の方にはまだ木造の家もありますが、原則として都市の建築は燃えるものであつてはならないと云ふことの組織になつて居ります、從て假に飛行機が之を襲撃いたしましても其攻撃をされた部分は破壞をされ、或は一部の燃燒を來しましても、其被害が全般に及ぶとか、或は延燒をすると云ふ虞は洵に少いのでありますけれども、我國の都市は御覽の通り、殆ど其九分九厘までは木造の建築物に依て成立つて居ります、故に僅か七つか八つの燃燒を目的とする爆彈を其都の適當な所に投げたとすれば、其僅か數個の爆彈が其都市全體を燒盡すに適當なやうな組織になつて居ります、斯の意味に於て我國の都市は實に危い、風前の燈に等しき狀態に在ると申上げて過言でないと思ふのであります。

併しながら世の中では斯んなことを云ひます、縱令敵ありとして、其敵の飛行機に依て都が攻撃されると云ふやうなことは萬あるまい、斯かることを彼是言ふのは、軍備擴張論者か或は軍閥者流のことである、世界は平和の風を望んで居る

ではないか、歐洲大戰亂に依て戰爭の苦みは十分知り拔いて居るから、今後は大都會を破壞すると云ふやうな大戰爭は起り得ない、又我々は起らないやうに努力すべきであるからして、自から進んで防備をすることは必要にあらず、と言ふ人もあるでありませう、又或者は飛行機の襲擊に對しては飛行機を以て之に應じたら可しい、都がむざ〳〵と敵の飛行機に襲擊せられることを座視する必要はないではないか、何故に巨額の建設費を投じて都の改造を企てる必要があるか、と云ふやうなことを言ふ人もあるのであります、併しながら之を假に詳しくお調べになつて見たならば、是等は全然實際を知らざる人の議論であることが判るのであります、今日世界の平和と云ふものがどの程度まで保たれるかと云ふことは疑問であります、我々の理想はそれにありますけれども、なか〳〵さう容易く世界の人類が一つの家族の如く仲好く暮すと云ふ譯には參らない、恐らくそれは難しいことではないか、帝國主義の今日に於て軍閥者の言ふ如きではないと致しましても或程度の優勝を爭ふ結果、そこに衝突が生ずることは止むを得ないと思ふのであります。

して見ますれば、飛行機を以て敵が攻擊すると云ふことを否定すべからざる前提と見て、我々は我國の都市を如何にすべきかと云ふことを考へねばならぬのであります、固より飛行機に對して飛行機を以て迎へると云ふことは、恰も砲兵に對して砲兵陣地を布くと同じでありますから、最も適當な方法でありますが、事實に於て非常に有力な飛行隊を有つて居る場合の外は、若し互格或は互格以下であつたならば、如何に飛行機を以て之を防いだ所で、敵の飛行機の一部が都の上空に來て或程度の慘害を及ぼす事は免れぬことゝ思ふのであります、仍ち我國の都市は今後若し戰爭ありとすれば、如何なる場合でも大なり小なり敵機の襲擊を受けるものであると斷定して私は差支あるまいと思ふのであります、然らば飛行機に依て我國の都市が大なり小なり攻擊された時分に、我國の都はどうなるであらうかと云ふことを考へまするに、先刻申しましたやうに、恰も風前の灯に等しい狀態に在るのであります、而も此風前の灯に等しい都市に於て我々が何故に安心して居るのであるかと云へば、唯飛行機の威力と、我國の都市の建築が如何なるものであるかと云ふ、此二つを十分に了解しないからであります、此二つを十分了解したならば、諸君は一日も安心して都市に存在して居られぬ筈である、如何にも諸君を馬鹿にした樣な言ひ方でありますが、本日御來會の諸君を言ふのではありませぬ、兎に角我國の大多數の人は飛行機の威力と云ふものと、我國の都市の建築が如何なる狀態に在るかと云ふ、此二つを十分御存じないのである、若し斯の事實を明に知つたならば、其理解の下には必然的に其處に一つの確實なる斷定が生ずるのであります、其斷定とは何であるかと云へば、飛行機が襲擊を致しましても、其都が全滅しないだけの建物に改造をしなければならぬと云ふことであります。

仍ち私共は其斷定の下に、少くとも大都市の中心たる主要な場所、主要な建物、所謂主要な地區は絕對に火災に侵されない、延燒しないやうな建物に改造しなければ、我國の都市は都市としての價値なきのみならず、最も恐るべき大損害を我々及我々の子孫に齎すものであると云ふことを主張して來

たのでありますが、其主張に基いて、大正十年から六大都市に建築物法と云ふものが施行されるやうになりました、其建築物法の中には、主務大臣は適當なりと信ずる所に防火地區を設けることが出來る權能が與へられてあるのであります、若し非常に決心の強い大臣なり、政治家が居つたならば、其法律に依て大正十年から六大都市に向つては其重要な地區をして總て防火建築たらしむることの努力をしたであらうと私は思ふのでありますが、御存じの通り政治と云ふものは輿論を背景としなければ、行ふことは出來ぬのであります、如何せん其輿論が微弱にして、自覺不十分なるが故に、防火地區の設定を歡ばないのであります、防火地區を設定せんとすれば、其防火地區が何處までも出來るだけ狹からんことを希望する人が多い、有力なる實業家、堂々たる政治家までもさう云ふやうな狀態に在ることは洵に遺憾千萬でありまするけれども、それが事實でありますから、何とも仕方がない、色々審議の結果、六大都市はそれ〳〵の命令に依て調査を致しまして、不完全ながら防火地區と云ふものを決定を致したのでありますけれども、其防火地區に於ける建築物は今後新築をする場合に於てのみ其法規を適用すると云ふのでありますから、不完全ながらも定められた所の防火地區其ものが目的に副ふやうに其効力を發揮するのは十年後であるか、五十年後であるか、或は百年の將來であるか、見据えが付かぬと云ふことは甚だ遺憾なことであります。

所が如何でありませう、大正十二年の九月一日午前十一時五十八分には敵の飛行機ならざる天然の飛行機の爆彈の見舞を受けて、今私が申上げた我國の都市は飛行機の爆彈の前には風前の灯の如きものであると云ふことが事實として現はれたのである、即ち東京及び横濱に於ては敵の飛行機が爆彈を投下したと稍々似寄つたやうな狀態が天然に湧いて來て、數十箇所から出火を致したのであります、其結果、百億とは云つて居りますけれども、其實は先づ六十億が七十億の大損害を受けた、而も金錢上の損害は其位であつたのでありますが人命を損したことから、經濟機關や文化機關等を破壞した間接の損害を加へたならば、恐らく其日其時我國の受けた損害は決して六十億や七十億の金錢を以て數へ切れるものではないと思ふのであります、三倍五倍或は十倍にも近い所の損害であつたとも考へられるのであります、然るに是は僅か一回の飛行機の襲撃に因て起る損害と匹敵するものと見て少しも差支ないのであります、專門家のお話を聽きまするに、飛行機が今日の燃燒材料を積んで、それを機上から都市の上に投げ掛けた時の火災發生の能力、及び其火災の威力は唯地震や何かで出火をしたと云ふやうなものゝ比ではないのであります、二千度とか三千度と云ふやうな驚くべき高熱の火を起す所の材料を數十箇所に一つの飛行機が投げ得ると云ふことでありますから、それが五十、百、二百と云ふ多數の飛行機に依て投げられたとすれば、我國の大都市の慘害は大正十二年九月一日に起つた所の火災に於けるが如き比にあらず、其倍或は三倍四倍の猛威を逞うするものと考へられるのであります。

斯かる狀態に我國の都市を置いて居ると云ふことは、唯我々の祖先傳來の習慣に捉はれて、是で可いのであると思ふて居るから、安心は出來るものの、若し之を第三者たる人から

見たならば、實に驚くべき危險な所に住つて居るものであると云はなければならぬ、それは火山の麓と云ひたいのであるが、もつと危い火山の中腹に怪しげな家を建てゝ安心して居ると同じであります、時々噴火をしてラヴアを以て埋め、燒けた灰を以て埋めるやうな所に安心して家を建てゝ居る人があつたならば　諸君は何と考へられるでありませう――今日の日本の都市の狀態はそれにも增して危險である、何故かと申しますと、今日の總ての經濟機關は都市に其心臟を置いて居るのであります、即ち凡ゆる有能の人士又資業の根源、總ての機關の中樞が都に集つて居るのでありますから、今後の戰爭に於ては大都市を以て其攻擊の的とするのであります、若し大都市を全滅さしたならば、其國民は頭を挫れ、心臟を突かれたやうになることは言ふまでもないのであります、仍ち今後の戰爭に於ては先づ以て大都市を破壞することを企てるでありませう、所が今日までは大都市を破壞すると云ふことは非常に難かしいことで、先づ不可能なことであつた、歐洲大戰亂の際に於ても獨逸の飛行機が度々倫敦を襲ひましたけれども、殆ど目的を達し得なかつたのであります、併ながら其時分から見ますると、飛行機も非常に進步を致して居ります、飛行術も進步して居ります、又爆彈、毒瓦斯其他凡ゆるものが非常に進步を致して居りまするから、若し歐洲大戰亂の當時に於て今日の如く飛行機及び飛行機の攻擊設備や飛行術が進步をして居つたならば、或は倫敦に於ても可なり大きな損害を受け、或は巴里も全滅をしたかも知れませぬ、併ながら今日は又之に對する所の防禦方法も相當に進步を致して居りますから、何とも申上げられない譯でありますが、私は歐羅巴や亞米利加の都市が如何に飛行機の發達に依て惱むかと云ふことを考へるに先だつて、我國の都市が如何に悲慘なものであるかと云ふことを考へて見たいのであります。

それを考へるに就きましては、大正十二年九月一日の地震後に起つた所の火災が、最も手近な實例であつて、我々に的確な斷定を與へて呉れる筈に便利なものであります、諸君は我國の都も段々改善されて、東京の如きはなか〳〵多量の防火耐震の建築が出來、又我大阪市に於ても可なり多量の耐火耐震の建築が出來て居るやうに御覽になりませうけれども、之を大阪市とか東京市と云ふ全體から見ますと、まだ九割五分位は木造の家屋でありまして、漸く三分乃至五分位のものが纔に火災を免れ、震災を免れると云ふに過ぎないのであります、而して毎年建設を致して居ります所の建築物を調べて見まするに、矢張り九割までは木造の建築でありまして、やつと一割些か强のものが耐震耐火の建築でありますが、それも優等なる建築でないものが其半數以上を占めて居るのであります、此比例で進んで行つたならば、我國の都市は何年經つても木造建築が多數を制し、何處まで行つても本當に抵抗力のある建築は出來ぬのであります、私は今一步を讓つて、或は外交的手腕に依り、或は日本人の最も眞摯な態度を以て最も熱誠なる正義人道論を高唱することに依り、何とか彼とか戰爭を惹き起さぬやうにして、如何なる國からも攻められることなく、我國の都市をして戰爭の渦中に入れることを避け得られたものとし、敵の飛行機が襲擊して槍一本投げることもないと假定して、偖て我國の都市の建築が是で可いものであらうか、どうであらうかと云ふことを一つ考へて見たい

のであります。

尤も之に入るに先だちて、都市の建築を改造しただけで、火事で燃えない様に、爆彈に比較的ひどく破壞をされないやうになつたとして、それで飛行機の損害を避けられるかと云ふ可なり厄介な問題が殘つて居りますが、是はなか〳〵難かしい問題であると世界で視られて居る、建物が幾ら堅固であつても、其建物の空氣を遮斷することは出來ぬ、空氣を遮斷すると云ふ方法はない、空氣を遮斷することが出來ないとすれば、其都を全部毒瓦斯で包んだならば、其建築が木造であらうと、石造であらうと、鐵筋コンクリートであらうと、隧道の下に隱れて居やうが、屋根裏に潛んで居やうが、何とした所で、空氣全體が毒瓦斯であつたならば、其都の人は總て其儘化石をしてしまふと云ふことになる、是等も今日は餘程其可能性を現はして居る、化學の研究が非常に進歩を致しまして、若し其瓦斯の一滴でも吸ふと人畜全滅すると云ふやうな重い瓦斯を上の方から漸々落して來た時分に、其瓦斯を追ひ除ける所の技術は今日は先づないと見なければならぬ、一方に於て最も猛烈なる毒瓦斯を以て都を包むことも恰も山間の小さな村が霧に包まれたかの如き狀態になるとした時分には、是は如何ともすることは出來ぬ、斯かることまでも今日は可なり大きな問題になつて居りますけれども、私はさう云ふ將來十年二十年或は五十年も先の科學的進歩に依る飛行機の攻擊威力を想像してまで對策を研究すると云ふことを止め今日は一歩も二歩も百歩も讓つて、飛行機の攻擊は都には及ばないものと云ふことの假定の下に、我々の都は是で可いのであるか、我々の都は是で安心して可しいかと云ふことを考へて見ることが最も手近な實際的の要求であると思ふのであります。

それは簡單に申せば、大正十二年の九月一日の地震に依て生じた所の火災だけで東京横濱は全滅したではないかと云ふ其事を以てお答へ出來ると云へば、それで問題は簡單に終るのでありますが、もう少しそれを詳しく申上げて見たい、それは地震は度々來ない、東京でも安政元年から七十年餘りも斯かる地震はなかつたではないか、大阪京都でも慶長元年秀吉が伏見城に落ついた時に大地震があつて以來大地震と云ふものはないではないか、或は土佐では天武帝の十二年に土佐の國が半分おつこちるやうな大震災があつたけれども、其後大地震はないではないか、然らば七十年八十年或は百年二百年と云ふ間隔を以て或は來るかも知らぬと云ふ其地震、其地震から生ずる火事を憂ひることは餘りに百年の長計過ぎはしないか、餘りに遠き將來を慮り過ぎはしないかと云ふ懸念もありますけれども、是は私は懸念にあらず、大に其準備をすべしと云ふことを申上げたい、けれども今はそれも一歩讓りまして、地震から生ずる火事は滅多に無いと假定を致します此二段に假定を致して、偖て我國の都の建築はどうであるかと云ふことを、もう一つ考へて見たいのであります。

人間が澤山集つて居る都の共同生活をして居りますと、諸君が毎々御經驗になる如くに、都の何處かに火事がありますそれはチャン〳〵とやるか、或はブー〳〵と行くか——あゝ又火事かと云ふ譯で、東京の如きは一晩に三つ四つあることは珍しくない、是はお互に注意をすれば無い筈であるが、人間と云ふものはさう神樣のやうには出來て居ない、況や我國

の如く萬端の設備が不十分な所では、人間の過失と又設備の缺陷からして、人間が多く集つた所には火事ありと云ふことを先づ認定せなければならぬ、而してどの位の火事があるだらうかと云ふことを考へて見まするのに、是は歐羅巴でも亞米利加でも同じでありまするが、殊に亞米利加と云ふ所は御存じの通り洵に火事の多い所で、疏忽千萬な人間が集つて居ると申しますか、又植民地上りの國でありますから、萬端の設備が歐羅巴の如く整つて居らぬと云ふこともありませう、マア色々の事情があるのでありませうが、なか〳〵火事が多い、歐羅巴に比較したならば、火事の數は先づ十倍もあるやうでありますが、マア他處の國のことはさうとして置きまして、我國の都市にはどの位の火事があるのであるか、お互が注意をして火事を起さぬやうにして居るのであるけれども、兎に角火事が多い、我國の都市に於ける出火の數は大體斯う云ふことで了解をして可しいと思ひます、即ち人口一萬人に付て一年に二回乃至三回——先づ三回平均と云ふが如き統計を見出すのであります、此統計は必ずしも毎年正確に斯の如く繰返すものでもありませぬけれども、先づ人口一萬の所に於て一年に二三回の火事があるとして、人口百萬の所では二三百回の火事があり、人口二百萬の都では四百回乃至六百回の火事があると見て可しいのであります、都が大きくなれば火事も多くなるのは當然であります、昔から火事は江戸の花なりと云ふことを云つて居りますが、江戸子が特別にそそつかしいと云ふ意味ではないのであります、江戸の都が最も大きいからして、火事の數も最も多いと云ふことであります、火事の數が最も多いと、其結果日本の家は燃え易いから、ずん〳〵延燒をして、其都の受ける損害は人口の比例から、累進的に增加するのであります、都が大きくなるに從て、火事に襲はれる危險は多くなつて人口一萬の所に比して、人口十萬の所は十倍と云はず、五十倍も六十倍も危險の度が多くなり、又それだけ火災に因る損害は大きくなるのであります、而して我々が最も恐るゝのは火事の數が多いと云ふやうなことではありませぬ、火事の數が少いのに越したことはありませぬが、我々の最も恐るゝのは火事の中の大火と云ふものであります、大火は字の示す如く火事が大きくなつたのが大火であります、途中で消し止めたならば小火ではないかと云ひますが、さう簡單には行かぬ、大火と云ふものは、偶々の火事に暴風が伴つた場合である、火事が起つて、其火事の最初或は中途に於て颶風が伴つたならば、我國の都では、都を全滅せしめずんば止まぬと云ふことになつて來る、尤も其風の方向に依るのでありまして、風上には延燒しないけれども、風下には忽ち延燒して、有らん限りの建物を燒き盡してしまふ、其最も著しい例は小說講談等に屢々ローマンチックに謳はれて居ります所の明曆三年の江戸の火事でありまして、あの火事の如きは恐らく世界開闢以來曾て無いもので、又絶後のものであると私は思ふのであります、其小說的事實を含むことも亦實に多量なものでありますが、是は全く其火元が三つあつて其日に風が强かつたと云ふ唯それだけの爲である、即ち三つの火事が一緒になつた所へ、今で云へば、秒速の三十メートル、或は四十メートルと云ふやうな風が吹き荒んで而も屢々其方向が變つたと云ふことであります、此明曆三年に江戸全體を燒き盡したやうな火事が今日の東京には起らな

いかと申しますと、決してさうは行かない、明暦三年の當時と同じやうな狀況に出火があつて、風が強かつたならば、今日の東京も或は全滅するであらうと云ふことは洵に明瞭な推斷が出來るのであります、仍ち私共は大正七年頃から斯かる事實と、斯かる推定に依て、我國の都市は飛行機でなくても又地震でなくても、全滅の可能性は可なり大なるものがあると云ふことを唱へて來たのであります、然るに洵に不幸なことでありまするが、私共の推定少しも誤らず、大正十二年に私共の曾て考へて居つたやうなことが實現したと云ふことは如何に我國の都が脆弱なる、危險なる狀態にあるかと云ふことを事實に證據立つて居るのであります。

斯う云ふことの了解が更に進んで參りまして、地震も今後可なり頻々に來るものであり、又飛行機の進歩、或は飛行機が搭載する所の火藥、毒瓦斯等の進歩、或は飛行術の進歩と云ふやうなことから、此問題がどうなるかと云ふことに想ひ到つたならば、我々は安閑と此都の狀態を眺めて居る譯には行かぬのではないか、大に諸君の御了解を求め、御共鳴を得んとする點は此處に在るのであります、諸君は今更斯かることを私から聽かなくても、十分に了解されて居ることであらふと思ひますけれども、人間と云ふものは、何か注意を喚起するものがあれば、偖てさうであつたか、と云ふことを思ひ出すけれども、常に色々の業務に當つて忙しい人は兎角自分は能く了解して居つても、其ものゝ目的を達することに努力する機會がない、偶々本日諸君が此處に御來會になつた機會に於て私が諸君の御注意を喚起して、更に其理解を深からしめ、共鳴を廣くして戴きたいと云ふ意味で、私は此處に立つた譯であります。

明日は練兵場に於て模擬家屋を造り、殊に大阪の或部分を象つた所の模型的市街のやうなものを一部分造つて、それに摸型爆彈を投げて、若し中つたならば、本當の火を付けて見るんださうでありますが、是等も洵に子供らしい催しのやうでありますけれども、此解り易い事實、了解し切つた事柄に對して、更に其了解を深からしめる爲には、摸型の爆彈投下に依て摸型の家屋が燃える所を御覽に入れることも強ち詰らぬものでもないと云ふことの理由で、飛行協會ではさう云ふ催しが明日ある筈であります、唯茲に一寸お斷りして置きますのは、其摸型は全部燃えるさうでありますけれども、其中の鐵筋コンクリートのものは決して燃ねない筈なのであります、何等かの都合で、それも燃えることになつて居るさうでありますけれども、實際の鐵筋コンクリートの家は爆彈なんかが落ちた位では全滅するものではありませぬ、其お積りで御覽を願ひたいと思ふのであります。（畢）

本誌定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	七拾五錢	貳錢
	十二冊	九圓	貳拾四錢

大正十五年九月三十日印刷
大正十五年十月一日發行（毎月壹回一日發行）

發行兼編輯人 大阪市東淀川區中津町一九八番地 江村恒一
印刷兼印刷人 大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地 大阪活版所
印刷所 大阪市北區堂島濱通一丁目一番地堂島ビルヂング 日本建築協會
發行所 電話北四二九一番 振替口座大阪三九九七五

特約販賣店
大阪市西區京町堀羽子板橋北 柳々堂書店 電話（土佐堀四四〇番） 振替口座二二〇八四番

日本建築協會事務所移轉

今般當協會事務所を九月十五日より左記へ移轉いたしましたから御承知置被下いませ。

移轉先

大阪市北區中ノ島二丁目二十五番地
江商ビルディング五階第五一四號室
（市電渡邊橋停留場下車東へ入ル）

電話本局四二九二番

日本建築協會

會報

一、本協會事務所移轉の件

別項會告の通今回當協會事務所を九月十五日より左の處へ移轉致しましたから御了承を願ひます

大阪市北區中ノ島二丁目二十五番地
江商ビルヂング五階第五一四號室
電話本局四二九二番

一、實費精算式施工調査委員會設置の件

通信決議結果
先般右委員會設置に付通信決議を致しました結果左の通賛成を得まして愈々設置のことに可決致しました

賛成者　一二五名
不賛成者　なし
回答なきもの　二七四名
計　三九九名
發送總數　三九九名

一、實費精算式施工委員會委員氏名の件

本委員會設置のことに可決なりましたので左の諸氏に委員を依囑致しました

德政　金吾氏　岡田　宗一氏
岡部　顯則氏　吉井　長七氏
村野　藤吾氏　野呂長四郎氏
柳下　實氏　小寺　彌一氏
久留　弘文氏　平塚　鎗吉氏
檜和田金八氏　（いろは順）

一、飛行大會後援の件

來る十月二日帝國飛行協會主催を以て當地に於て飛行大會擧行に付本會は大阪市と共に後援することに決し左の理事之れを擔當することになりました

和田　理事
池田谷理事

一、秋季大會擧行の件

本協會秋季大會を來る十月中旬擧行致しますので今回左の諸氏に大會委員を依囑致しました

德政　金吾氏　横濱　勉氏
中尾　保氏　中島　智喜氏
柳下　實氏　松本　儀八氏
阪口芳三郎氏　樋口辰太郎氏
（いろは順）

一、雜誌表紙圖案懸賞募集の件

別項會告の通本會々誌「建築と社會」の表紙圖案を懸賞募集致しますから奮つて應募を希望致します

一、會員名簿新調に付現住所照會に對する回答書の件

本年度の會員名簿作成に付會員賛助員諸賢に對し現住所其他を御照會致しましたが九月二十五日の締切を經過致しました今日未だ御回答のなき向もありますので困つて居ります何卒至急御回答下さる樣願ひます

一、國際聯盟會館建築設計懸賞募集規定の件

右規定の原本を縮寫したるもの十部希望者にお分ち致しますから御申込み下さい

尙邦語に飜譯したるもの（一部金五十錢）本會より發賣致して居ります

一、賛助員死亡の件

名譽賛助員清野長太郎氏は九月十五日薨去されました洵に痛悼に堪へさる次第であります本會より早速弔狀を贈り弔意を表しました

一、紹介

今回社團法人工政會より左記掲載方依頼ありましたので御紹介致します

工業年鑑

工政會出版部發行

汗牛充棟も啻ならざる工業出版界に於て未だ信頼すべき權威ある工業年鑑を缺ける事は寧ろ意外とすべく然しながら一度び其資料蒐集、整理編纂の困難を想到すれば今日迄其實現を見なかつたのも或は無理ならぬ次第であつた、今回工政會出版部の編纂にかゝる工業年鑑は此要求に應じて我工業界の羅針盤たらしめんがため官衙の權威ある調査を經とし民間最新の材料を緯とし土木、鐵道、都市計畫、建築、鑛山、冶金、燃料、機械、船舶、航空、電氣、化學工業、食糧品工業、雜工業の各部門を通じ更に教育、勞働、發明、經濟、貿易、財政、金融、規格等の各方面に亘り工業統計、重要法規を類纂し官衙、學校、研究所、學協會、圖書新聞雜誌の內容を要錄し會社工場要覽に及び細大洩らす所なく實に工業最新の辭典、百科全書、便覽、資料綜覽、法規大全、統計集、會社工場要鑑等の凡てを上下二卷に網羅兼備せる萬能の大著述であつて前記工業界宿年の懸案を解決せる一大事業と云ふべく實に量、內容、體裁共に完備し盡せる工業出版界劃期的産物として工業關係者が是非座右に一本を備えん事を、十月中特價發賣（菊版二千頁上下二卷價十五圓（十月中特價十二圓）荷造費送料七十錢東京市丸ノ內有樂館工政會出版部發行）

會合

○定例理事會

△日　時　九月八日午後五時三十分—十時
△會　場　本會々議室（當島ビルヂング）
△出席者　小川理事、澁谷理事、須川理事、古塚理事、光安理事、八木理事、酒井理事
△報　告
一、七、八月分會計報告
二、實費精算式施工契約書案聯合調査會第一回委員會報告
△議　事
一、九月例會に關する件
1日時　九月十七日（金）午後六時
2會場　江商ビルヂング二階集會室
3講演　新歸朝者會員樋口辰太郎氏に依頼すること
二、實費精算式施工調査委員會設置に關し通信決議採決の件

先般右委員會設置に付通信決議に附したる結果左の通の回答數ありて一名の不贊成者なく可決のことに採決せり

贊成者　一二五名
回答なきもの　二七四名
不贊成者　なし
計　三九九名
發送總數　三九九名

三、實費精算式施工調査委員依囑の件

右の通本委員會設置可決に付左の諸氏に委員を依囑することに決定

德政　金吾氏　岡田　宗一氏
岡部　顯則氏　吉井　長七氏
村野　藤吾氏　野呂長四郎氏
柳下　實氏　小寺　彌一氏
久留　弘文氏　平塚　鎗吉氏
檜和田金八氏　（いろは順）

四、飛行大會後援に關する件

來る十月二日帝國飛行協會主催を以て當地に於て飛行大會擧行に付本協會は大阪市と共に應援することに決し和田理事擔當することに決定

五、本協會事務所移轉に關する件

今回江商ビルヂング竣成に付過日來取調中の處適當の貸室あるを以て協議の結果尙須川理事及西谷書記をして先方と交渉の上移轉することに決す

六、尙左記諸件に付協議決定す

1 法政、敎化委員會開催に關する件
2 會員名簿新調に關し照會案の件
3 第三回大阪市美術展覽會廣告に關する件
4 雜誌交換に關する件
5 工業新聞に協會記事揭載に關する件

七、會員銓衡

○構造計算調査委員會

△日　時　九月九日（木）午後五時三十分—九時
△會　場　本協會々議室（堂島ビルヂング）
△出席者　委員長　增田　清
委　員　池田宮彦、田邊平學、谷田實、黑田茂、八木幸次郎、青柳貞世、酒井勇三郎、永澤毅一

○建築士法案調査委員會

△日　時　九月十日（金）午後五時—九時
△會　場　本協會會議室（堂島ビルヂング）
△出席者　委員長　古宇田實
委　員　石本喜久治、橫濱勉、高木眞太郎、野呂長四郎、安井武雄、大倉直三
△議　事
一、左記事項を協議決定せり
1 醫師法と辯護士法とを謄寫して次會開催通知と共に各委員に配布すること
2 次會より開催通知には協議事項を記載すること
3 委員の欠席者よりは各意見を協會內本委員會迄申出てらるゝ樣に通知すること
4 醫師法と辯護士法と對比して建築士法案の研究を次會の問題として通知すること
5 本委員會は少くとも月一回開會すること但し月の第二週より第三週の間に行ふこと
6 次會の委員會は十月七日頃に行ふこと

二、建築士法原案を新に作製することに方針を定め意見の交換をなし散會せり

○臨時理事會

△日　時　九月十七日（金）午後四時半—六時及九時—十時
△會　場　本協會會議室（江商ビルヂング）
△出席者　片岡會頭、和田理事、小川理事、須川理事、光安理事、池田谷理事、八木理事、酒井理事
△報　告　和田理事より飛行大會に關する件報告
△議　事
一、秋季大會に關する件

秋季大會を來る十月中旬頃擧行のことに決し臨時同大會委員を左の諸氏に依囑することに決定

德政　金吾氏　橫濱　勉氏
中尾　保氏　中島　智喜氏
柳下　實氏　松本　儀八氏
阪口芳三郎氏　樋口辰太郎氏
（いろは順）

二、大阪市、建築業協會及本協會聯合講習會開催の件

本件は例年行ふ建築職工敎化の講習會にして今回大阪市より開催方に付申越ありしを以て贊同のことに決し敎化委員會に附託することに決定

三、雜誌表紙圖案懸賞募集に關する件

原案の通可決し雜誌に會告として揭示、建築雜誌、建築世界等の雜誌に揭載方を依賴すること、其他工業學校等に廣く通知することに決す

四、事務所移轉に關し會告其他通知の件

原案の通可決

五、其他左記諸件に付協議決定

1 事務室看板に關する件
2 貸室使用期限に關する件
3 事務所移轉に付新聞廣告の件
4 湯沸コンロ購入の件
5 飛行大會に關する擔當理事增員の件

六、會員銓衡

○例　會

△日　時　九月十七日（金）午後六時—九時

△會　場　江商ビルヂング集會掲

△出席者　楊嘗孝之介、山本由太郎、德政金吾、福澤谷藏、伊東宗太郎、渡貫幸、野田義雄、古林秀雄、谷民藏、篠崎銀二、岡本新次郎、平島末吉、武田五一、古宇田實、井上新二、波江悌夫、宮本長治、片岡安、小川安一郎、和田貞治郎、須川廉太郎、光安恪之助、池田谷久吉、酒井勇三郎、樋口辰太郎、服部萬次郎、左谷米三郎、阪井米吉、長澤榮作、桑村種吉、加藤一俊、中村義雄、阿部萬助、谷隆夫、角地秀雄、永田三次郎、盡谷兵吾、森本藤吉、石井久雄、林田瀧次郎

（次第不同）

△記　事

一、定刻小川理事理事長病氣欠席ニ付代理として開會を宣し一同の着席を俟つて先づ九月分の會務報告をなす

一、次いで講演者大阪鐵道株式會社技師樋口辰太郎氏を紹介す同氏は左の題下に新歸朝の土産話として時餘に渉る有益なる講演ありたる後二三氏の質問ありて講演を終る

米國に於ける住宅に就いて

一、小川理事は一同を代表して講演者に一場の謝辭を述べ夫れより懇談會に移り意見の交換をなし談笑の裡に閉會を告けたり

○新入會者

會　員

篠原　清孝君　港區東田中町四八

湯淺十三二君　港區鶴町三ノ一二一

杉浦喜三郎君　京都市下鴨上川原町一三ノ八

普通贊助員

高木　登君　神戸市山本通四ノ三二

○退會者

會　員

眷名　麟五君　吉川　勝君

地方會員

内藤　巽君　松田　茂樹君

普通贊助員

鈴木只重君、小野政太郎君、山崎儀一君

本田久雄君、戸松貞次君、吉成完造君、岡田九造君、福田健三君、橋本喜藏君、田中俊介君

○薨　去

名譽贊助員　清野長太郎氏

大正十五年九月十五日薨去

○轉勤轉居

會　員

森西龍太郎君　住吉區阿部野町四六五

森定松之祐君　廣島縣安藝郡坂村廣島電氣會社坂發電所工事場内大林組出張所

神戸　重次君　東京府北豐島郡尾久町上尾久一東洋紡績社宅

大澤　幸平君　西淀川區海老江町一一〇一

松野　彦一君　神戸市宮本通四ノ一四

高橋　種夫君　西淀川區大仁町一〇五

浦　英之助君　堺市三國丘町四六九ノ六

大工庄七郎君　府下南河内郡國分村大阪電氣軌道會社國分建設事務所出張所

杉浦喜三郎君　京都市下鴨上川原町一三ノ八

小池　光義君　兵庫縣武庫郡西灘村河原字松本五九一

森脇　圭二君　此花區島屋町五〇住友伸銅工場建築地大林組島屋町出張所

井出　松藏君　德島市前川町福島紡績會社德島工場大林組德島出張所

地方會員

黒住福三郎君　門司市棧橋通日本郵船會社門司支店建築地大林組門司出張所

船本　晋君　京都市下京區先斗町歌舞練習場ヘ林組先斗町出張所

岡田初太郎君　兵庫縣武庫郡今津町津門八二九

上谷　利夫君　兵庫縣武庫郡六甲八幡字長手

時岡　好三君　四日市市濱一色東洋紡績社宅三

特別贊助員

古賀　鄕實君　府下南河内郡狹山村池尻六五

普通贊助員

淺野　登君　東京市麹町區元園町一ノ一八野村組東京支店

齋藤小三郎君　京都市下京區西石垣四條下ル矢尾政建築場大林組四條大橋出張所

鹽谷　兵吾君　尼崎市中在家町三田方

橋本　秀齊君　此花區大野町二山本方

方　米治郎君　兵庫縣武庫郡魚崎町川西七三二

大武　美德君　奈良市中筋町

秋田喜代治君　西區土佐堀一丁目大同生命ビル橋本建築事務所

吉田郡太郎君　東京市京橋區銀座尾張町二ノ二二齋商會

高濱　利道君　岐阜縣加納町役場建築場内

矢島　猛夫君　三重縣土木課營繕係

服部　逸治君　東京市役所建築局市場建築課（宅）東京府下王子町堀之内八五二

川久保梅次郎君　金澤市高岡町一三三

清永　倉八君　福岡縣千代町福岡地方專賣局工場新築場大林組福岡出張所

佐藤　武夫君　東京市牛込區喜久井町一四

松尾　庄二君　北區中之島二丁目江商ビル宇部セメント大阪出張所

永井　義方君　住吉區柴谷町三八宇治川電氣會社木津川發電所大林組出張所

江藤　猛夫君　東京府下中野町千ケ谷一五四三

田中新之助君　富山市袋町十二銀行新築場清水組内

松本末太郎君　横濱市根岸町豆口住宅四八

○改　姓

普通賛助員　四井音七君（舊姓横田）
（勤先）福井縣内務部土木課

○歸　朝

會員樋口辰太郎君は本年三月渡米建築界
視察中の處この程無事歸朝大阪鐵道株式
會社に歸任されました

役員及職員

會頭　片岡安
副會頭　宗　兵藏
理事長理事園部　文雄
主記理事　和田貞治郎
同　理事　小川安一郎
主計理事　澁谷　五郎
同　理事　須川廉太郎
編輯理事　古塚　正治
同　理事　光安楫之助
同　理事　池田谷久吉
同　理事　八木幸次郎
同　理事　酒井鳥三郎

編輯係
江村恒一
藪田夏治郎

庶務係
西谷節
靍取陽

會計係
大和榮衛
山口スエ

會員	四〇三	會員（地方）	一九八
名譽賛助員	七（）	終身賛助員	五三
特別賛助員	二八	普通賛助員	四八一
合計（九月二十日現在）	一二三三		

●第九集　第一〇号　掲載広告一覧（掲載順）

タイガー計算器製作所
日本ペイント製造
日本エレベーター製造
大野正営業所
浅野スレート
日本石綿盤製造
日本化学産業
東洋コルク工業
伊丹商店
カール・ツアイス
佐治タイル
高垣商店
南満鉱業
浅野物産
浅海商店
ベニス工房
米本商店
田村商会
東亜鉄工所
大平工業所
油脂化工社
原田商会

日本セメント防水剤製造所
KENSEI SHOKAI
玲光社
鈴鹿工務所
小寺計器製作所
早苗会
岡本好文園
木下謹三商店
日本洋瓦大阪出張所
山本東作商店
河村青写真調製所
桐田商会
阿部鉄工所
日本工剤
岡田建築材料店
日本建築紙工
島田硝子製造所
日本スレート販売大阪支店
中村グラニット商会
山中商会
山田大理石製作所
矢橋大理石商店

須原屋書店
三菱造船神戸造船所
シーベル・ヘグナー商会
トーペー、アンド、ダート、ペイント会社
佐久間建材工業所
渡辺久雄商店
穴原商会
森川組
宮田鉄工所
大福海上火災保険
伊奈製陶
HANKEN SEISAKUSYO
三井物産
小野田セメント製造
永柳商店
島貿易
出浦建築事務所
橋本建築事務所
大阪建築相談所
池田建築事務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所

葛野建築事務所
横河工務所
片岡建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
野村一郎事務所
国枝工務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
増田清建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
設楽建築事務所
遠藤於菟
遠藤、南建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
亀谷開作
竹中工務店
長瀬組
中新

佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
木村工務所
徳政工務店
大阪耐火リノリウム工業
須賀商会
須賀商店
栄進社
松尾鉄骨橋梁
新田ベニヤ製造所

山本窯業商店
田中昌司商店
常盤貿易商会
高島屋呉服店
デウエット商会
日米建築資料社
大阪鉄扉製作所
萩原煖房工務所
品川白煉瓦
中村岩次郎商店
東洋リノリューム
田中源太郎商店
建築金物商会
